

太田市内遺跡 1

旧尾島町・旧藪塚本町の平成13～16年度調査

2 0 0 6

群馬県太田市教育委員会

序

平成17年3月28日に、太田市、新田町、尾島町、藪塚本町の1市3町が合併しました。これによって、この東毛の地に21万の市民都市「太田市」が誕生したわけです。市章も新たに生まれ変わった太田市は、北には八王子丘陵があり、東側には金山がそびえ立ち、南は利根川流域にまで広がる広大な面積を有する市へと変貌しました。地図上で囲まれたこの広大な土地は、かつて新田義貞が活躍した中世に、新田荘という荘園を営んでいた領域とほぼ同じであり、1市2町にまたがって国指定史跡となっていた「新田荘遺跡」も新市誕生によって一つにまとめることができました。

新市に所在する代表的な文化財は、この他にも縄文時代では耳飾で知られている藪塚地域の「石之塔遺跡」、古墳時代では東日本最大と言われる太田地域の「天神山古墳」、古代主要交通路として知られている新田地域の「推定東山道駅路」、近世では日光東照宮奥社から移築された尾島地域の「東照宮拝殿」に代表された建物群などがあります。これ以外にも様々な時代にわたり数多くの指定文化財が所在するため、市内における遺跡の数も少なくありません。このように各地に所在する埋蔵文化財については、合併前の1市3町の時から遺跡分布地図の整備も含めて、その取り扱いについて協議を重ねてまいりました。その結果、市内における開発行為については市内遺跡発掘調査として事前の試掘・立会い・確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護を図っていくこととなりました。

本書は、旧尾島町と旧藪塚本町において合併前の平成13～16年度に実施してきた町内遺跡発掘調査の成果をまとめたものです。新市として誕生した2地域のまとめでありますので、新「太田市」としての埋蔵文化財に対する理解や保護、また地域の歴史を知る資料としてご活用いただければ幸いです。

おわりに、調査に当たり発掘調査にご協力いただきました方々、また寒暖の中発掘調査に参加していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

太田市教育委員会

教育長 相澤 邦 衛

例 言

- 1 本報告書は、旧尾島町教育委員会と旧藪塚本町教育委員会が文化財保存事業費国庫補助金と県費補助金を得て実施した「町内遺跡発掘調査」をまとめた報告書である。
- 2 発掘調査は、旧尾島町教育委員会が平成13年度から平成16年度、旧藪塚本町が平成13年度から平成15年度にかけて実施され、整理作業は平成17年度に太田市教育委員会で実施した。
- 3 試掘調査において、遺構が確認された主な遺跡についてはその調査概要を掲載し、その他に調査を実施したすべての遺跡について、調査地点の位置と概要を示した。

- 4 旧尾島町教育委員会の調査組織は下記の通りである。

平成13年度（発掘調査）

調査主体者	尾島町教育委員会	教 育 長	小沼喜久夫
	事 務 局	学校教育課長	高橋博
	調 査 担 当	文化財保護係長	須永光一、主任 新井喜昭

平成14年度（発掘調査）

調査主体者	尾島町教育委員会	教 育 長	小沼喜久夫
	事 務 局	文化振興課長	宮下隆
	調 査 担 当	文化財保護係長	須永光一、主任 新井喜昭

平成15年度（発掘調査）

調査主体者	尾島町教育委員会	教 育 長	小沼喜久夫
	事 務 局	文化財課長	宮下隆（平成15年4月～10月） 津久井淳一（平成15年11月～）
		課長補佐兼文化財保護係長	手島昌代
	調 査 担 当	埋蔵文化財係長	須永光一、主任 新井喜昭

平成16年度（発掘調査）

調査主体者	尾島町教育委員会	教 育 長	小沼喜久夫
	事 務 局	文化財課長	津久井淳一
		課長補佐兼文化財保護係長	手島昌代
	調 査 担 当	埋蔵文化財係長	須永光一、主任 新井喜昭

- 5 旧藪塚本町教育委員会の調査組織は下記の通りである。

平成13年度（発掘調査）

調査主体者	藪塚本町教育委員会	教 育 長	田村武夫
	事 務 局	事務局長	石川茂（平成13年7月1日～8月31日まで）
		生涯学習課長	角野英雄（平成13年6月30日まで）
		生涯学習課長	石川茂（平成13年7月1日から）
	調 査 指 導	文化財専門委員	半田勝巳
	調 査 担 当	生涯学習係長	津田旬一（平成13年7月1日から）
		主 事	遠坂純伸

平成14年度（発掘調査）

調査主体者	藪塚本町教育委員会	教 育 長	田村武夫
	事 務 局	生涯学習課長	石川茂
	調 査 指 導	文化財専門委員	半田勝巳
	調 査 担 当	企 画 係 長	戸谷克彦、主任 遠坂純伸

平成15年度（発掘作業）

調査主体者	藪塚本町教育委員会	教 育 長	田村武夫（平成15年4月29日まで） 半田勝巳（平成15年6月21日から）
	事 務 局	生涯学習課長	石川茂
	調 査 担 当	企 画 係 長	戸谷克彦、主任 遠坂純伸

6 整理組織は下記のとおりである。

平成17年度（整理作業）

調査主体者	太田市教育委員会	教 育 長	相澤邦衛
	事 務 局	教育部 文化財課長 宮田毅、課長補佐 手島昌代、長明一、 文化財保護係長 岡田定夫、史跡整備係長 高木武史、係長代 理 糸井雅之、天笠洋一、主任 西村由美子、小宮俊久、板垣 祥子、島田孝雄、神保晴美、荒井文夫、田島幸一、金沢誠、新 井喜昭、中村渉、横山寛信、伏島徹、主事 相山智彦、嘱託員 鹿山くみ子、佐藤信孝	
	整 理 担 当	埋蔵文化財係長 須永光一、主任 小宮豪	

7 本稿の執筆は、旧尾島町教育委員会調査分を須永光一が執筆し、藪塚本町教育委員会調査分は遠坂純伸の協力のもと小宮豪が執筆した。

8 本書の編集は小宮豪、須永光一が行なった。

9 本書に掲載した遺構の写真は旧教育委員会の調査担当者が撮影した。

10 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の方々、機関より御教授、御協力を賜った。記して感謝を表したい（アイウエオ巡、敬称略）。

群馬県教育委員会文化課、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

11 本書に係わる資料、遺物は太田市教育委員会で保管している。

12 発掘調査ならびに整理作業に携わった作業員は、下記のとおりである。（敬称略、順不同）

尾島町発掘調査 保坂あき子、糸井キミ子、大野喜久夫、大森英男、小野里百合子、小此木貞雄、杉山定子、高井良金、中里早夜子、高柳君子、福島清野、福島定夫、小此木克己

藪塚本町発掘調査 小林榮子、小林邦夫、齋藤トシ子、塩月美智子、半田勝巳、松本秀子

整理作業 高山きく子、宮下やす江、中村久乃、大坪春美、木村純子

凡 例

- 1 遺構平面図、遺構配置図等に示す北は断りのない限り座標北を意味する。
- 2 遺物の縮尺は土器の拓本と実測図を1／3とし、その他の遺物についてはその都度明記した。
- 3 第5章の調査地点位置図の縮尺は1／5000とし、それ以外の縮尺についてはスケールを付した。

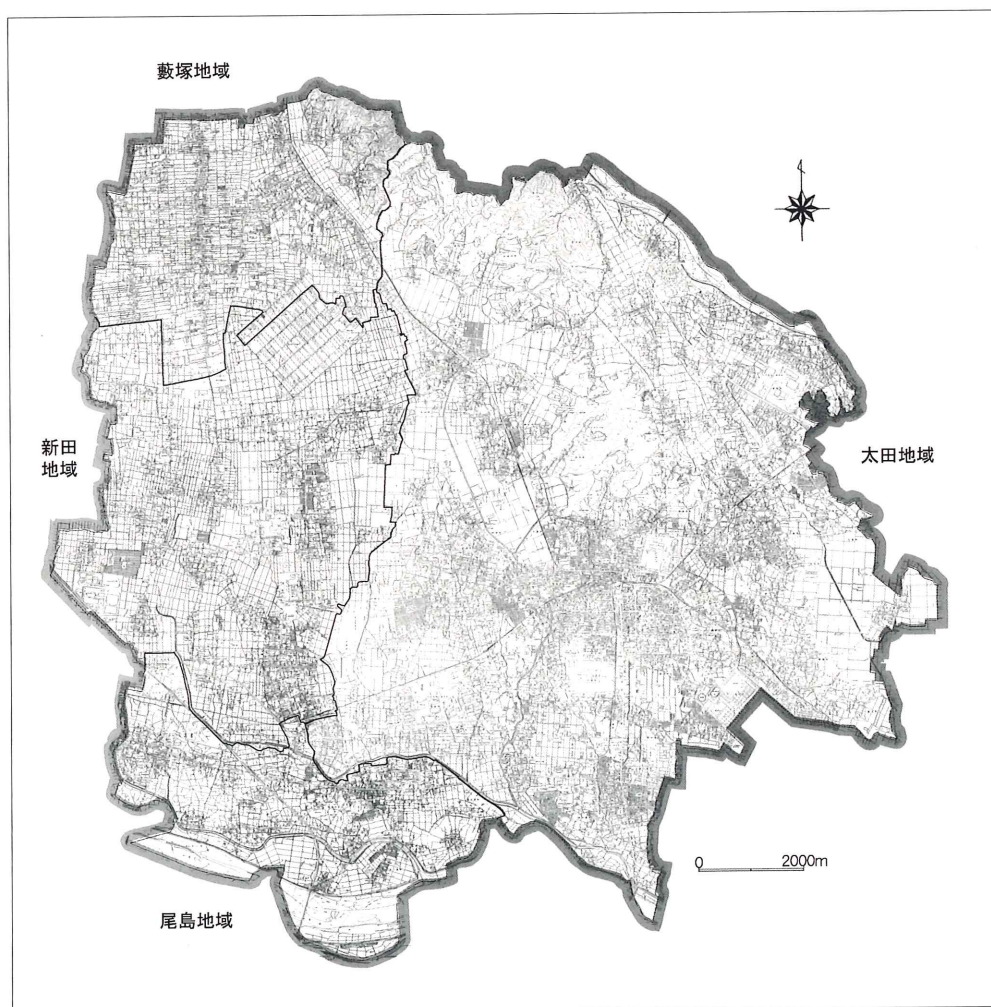
目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
はじめに	1
I 旧尾島町の発掘調査	
第1章 調査に至る経緯	2
第2章 調査の方法および経過	2
第3章 遺跡の位置と歴史的環境	5
第4章 調査を実施した遺跡の概要	7
1. 亀岡軽浜遺跡 (No.2・5・15)	7
2. 東部地区遺跡群 (No.7・11)	9
3. 粕川新堀下遺跡 (No.9)	10
4. 長楽寺遺跡 (No.10)	11
5. 粕川山之神遺跡 (No.12)	12
6. 世良田環濠集落 (世良田八坂遺跡) (No.13)	13
7. 岩松千歳2遺跡 (No.16)	14
第5章 試掘・確認調査の概要	17
II 旧藪塚本町の発掘調査	
第1章 調査に至る経緯	25
第2章 調査の方法および経過	25
第3章 遺跡の位置と歴史的環境	27
第4章 調査を実施した遺跡の概要	31
1. つつじ山II遺跡 (No.1)	31
2. 萩林II遺跡 (No.3)	35
3. 十輪寺跡遺跡 (No.4)	36
4. 木戸海道II遺跡 (No.7)	38
第5章 試掘・確認調査の概要	39
III ま と め	43

は じ め に

平成17年3月28日に新しい「太田市」が誕生しました。本市は旧太田市、旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町の1市3町の合併によって生まれた市で、その面積は176.49km²、人口21万を超える大都市へと変貌しました。この合併によって、埋蔵文化財の保護業務も前市町の頃とは異なり、より統一的な取り扱いが求められることとなりました。このような状況を予想し、埋蔵文化財に関連する内容については、合併前から各市町によって合併後の取り扱いを協議してきました。たとえば、発掘作業員さんの雇用問題や就業体制、開発行為に対しての窓口対応、境界に所在してきた遺跡の範囲等の見直し、また、遺跡の番号や名称については、旧市町の遺跡番号を基本とし、遺跡番号の前に以下のアルファベットを付ける（太田地域は「T」、新田地域は「N」、尾島地域は「J」、藪塚地域は「Y」を付ける）ことなどを検討してきました。新市になっても継続的に実施している「市内遺跡」も、旧太田市は昭和58年度から、旧新田町は平成3年度から、旧尾島町は平成13年度から、旧藪塚本町は平成13年度から国庫補助事業として実施してきたもので、旧市町においても開発前の遺跡の状況を正確に把握し、それらの保護に努めてきたところです。

以上のような経過から、新市誕生にあたり市内遺跡の成果をまとめるべく、今年度は旧尾島町と旧藪塚本町の13年度～16年度に実施した調査を整理し報告するものです。



太田市の全体図

I 旧尾島町の発掘調査

第1章 調査に至る経緯

旧尾島町における発掘調査の歴史は、昭和12（1937）年9月に行われた長楽寺遺跡の発掘調査に遡ることができる。普光庵跡を発見したもので、落雷によって枯れ死した老杉の根を掘った際、月船琛海の遺骨と共に6人の弟子の遺骨が発見され、群馬県師範学校の尾崎喜左雄と地元の金子規矩雄により記録化がなされた。その後国道17号上武道路バイパス建設に伴い下江田前遺跡（昭49年）・歌舞伎遺跡（昭49・50年）・小角田前遺跡（昭52年）が群馬県教育委員会によって調査され、上新田遺跡・今井遺跡（昭50年）が東京電力㈱により調査された。また、群馬県教育委員会の助力を得て、長楽寺遺跡1次（尾島町・昭51年）・長楽寺遺跡2次（尾島町・昭56年）が行われた。昭和57年から発掘調査体制が整備されるとともに、発掘調査遺跡数が増える。主な発掘調査を列举すると、常木遺跡（尾島町・昭57～59）、長楽寺遺跡3～5次（尾島町・昭57～59年・平16年までに合計13回調査）、尾島工業団地遺跡（同遺跡発掘調査団・昭58～60年）、宝積院跡（尾島町・昭60・63・平元年）、安養寺森西・大館馬場・阿久津宮内遺跡（群馬県埋蔵文化財調査事業団・昭60～63年）、小角田下遺跡（尾島町・昭63年）、小角田遺跡群（尾島町・昭63・平2・3）、世良田諏訪下遺跡（尾島第二工業団地埋蔵文化財発掘調査団・平3～5年）、史跡縁切寺満徳寺遺跡（尾島町・平元～5年・県史跡整備）、今井地区遺跡群（尾島町・平元～5年）、岩松本郷遺跡（尾島町・平3年）、粕川山之神遺跡（尾島町・平4～6年）、安養寺森南遺跡（尾島町・平4年）、粕川新堀下遺跡（尾島町・平6年）、世良田土屋分遺跡（尾島町・平6年）、新田館跡（尾島町・平7年）、世良田新町遺跡（尾島町・平10年度）、岩松金剛寺西遺跡（尾島町・平11年）、世良田陣屋遺跡（尾島町・平14年）、亀岡軽浜遺跡（尾島町・平15年度）等の発掘調査を行ってきた。

また、平成4年以前は公共事業を中心として試掘・発掘調査を行ってきたが、平成4年の尾島町開発事業指導要綱の施行により、民間開発についても事前協議申請書が、文化財担当課（文化財保護課・学校教育課・文化振興課・文化財課等に変遷）に合議されるようになった。開発予定地について「尾島町遺跡地図」を参照し、遺跡地に該当する場合は、開発者と協議を行い、試掘調査依頼書を提出していただき、尾島町単費で試掘調査を行い、開発事業との調整を図ってきた。平成13年度からは、尾島東部土地区画整理事業などが始まり、調査の量が多くなったことが予想されることから、国庫補助や県費補助を受けて、「町内遺跡発掘調査」を実施することで、開発事業との調整を図ることとした。

第2章 調査の方法および経過

旧尾島町教育委員会では、大規模な開発事業について、町内遺跡発掘調査の対象とし、開発申請時に尾島町遺跡地図をもとに遺跡地であるかの判断を下し、開発事業者から試掘調査依頼書の提出をうけ、試掘調査を実施してきた。試掘調査は、対象になる土地の地形・形状や開発計画を考慮し、トレンチを設定し、遺構確認面まで掘削して遺構の所在を確認した。

試掘トレンチは、調査予定地内全体に1～2m幅に設定し、その区画にしたがって層位的に掘り下げる。全ての調査区でバックホウによる全面表土はぎを行い、その後発掘作業員による調査に移り、遺構・遺物の検出に努める。遺構を検出した場合は、次のような記録図面・写真撮影を実施した。

- ・土層断面図、遺構分布図、各種記録写真

<平成13年度> 試掘調査を実施した6件ともすべて民間事業に該当した。そのうち1件は組合立の土地区画
 整理事業に伴うもので、その他5件は開発事業に伴うものであった。いずれも包蔵地の申請であった。

<平成14年度> 試掘調査を実施したのは、1件で組合立の土地区画整理事業に伴うもので、包蔵地の申請で
 あった。

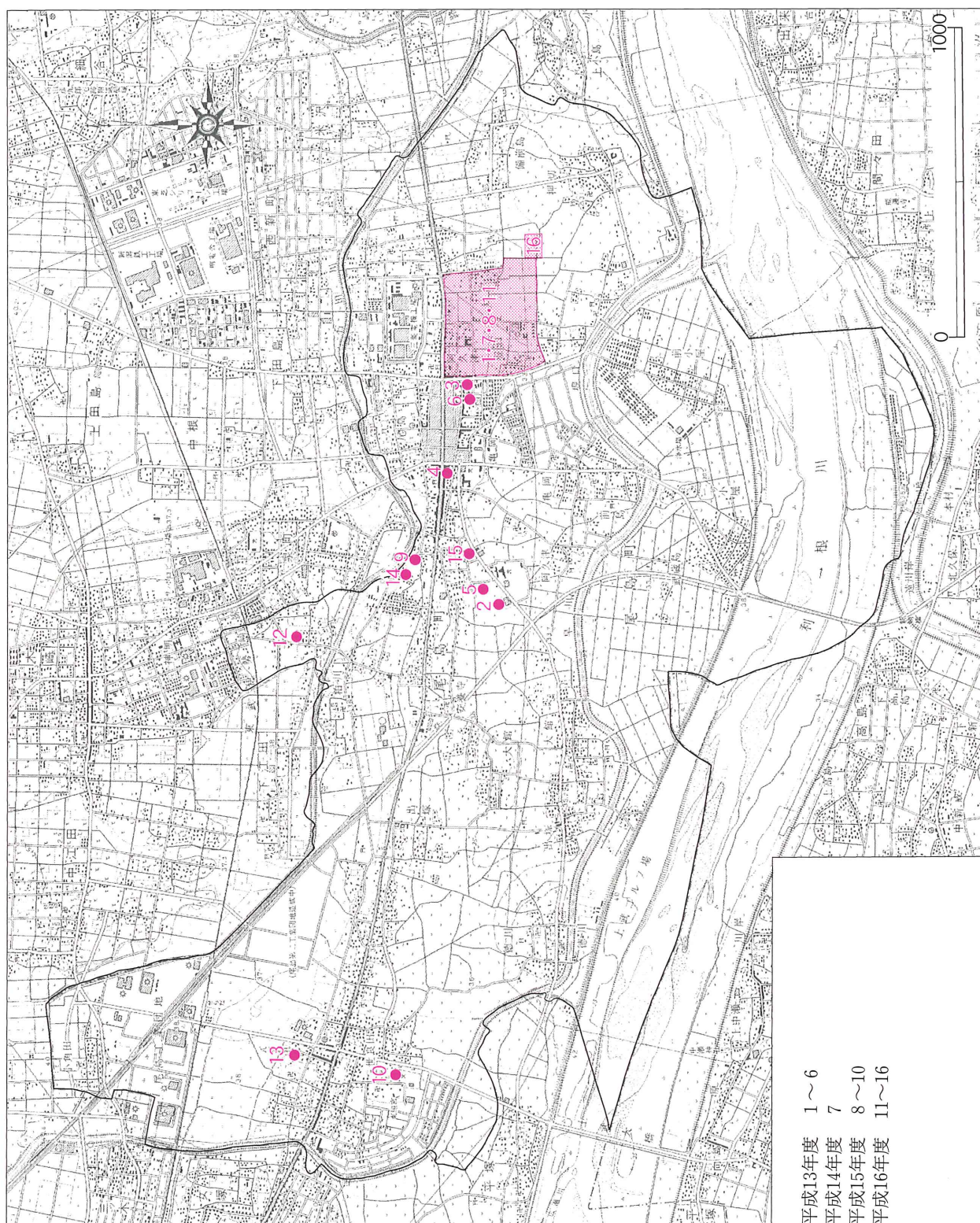
<平成15年度> 試掘調査を実施した3箇所は、民間事業2件、公共事業1件に該当した。民間開発事業のう
 ち1件は組合立の土地区画整理事業に伴うもので、その他1件は開発事業に伴うものであった。公共事業は、
 学校施設建設によるものであった。いずれも包蔵地の申請であった。

<平成16年度> 試掘調査を実施した6箇所は、民間事業5件、公共事業1件に該当した。民間開発事業のう
 ち1件は組合立の土地区画整理事業に伴うもので、その他4件は開発事業に伴うものであった。公共事業は、
 調整池を兼ねた親水公園建設によるものであった。いずれも包蔵地の申請であった。

以上、平成13～16年度に実施した調査対象地に付いて一覧表にまとめた。4箇年分であるため、調査地点
 については通し番号とした。また、このNoは試掘調査位置図および試掘調査の概要（第5章）の番号に対応
 している。調査によって得られた資料の整理は平成17年度に実施し、太田市教育委員会にて保管している。

平成13年～15年度調査地一覧表

年度	No	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
13年度	1	太田市岩松町177番地他 (尾島町岩松字千歳177番地他)	東部地区遺跡群 (岩松千歳遺跡) (堀口西岡遺跡)	尾島東部土地区画整理事業	460㎡ (2,506)	平13.3.12～27	発見遺構・遺物なし。他、F P 泥流層を確認。	
	2	太田市亀岡町668-1番地 (尾島町亀岡字軽浜668-1番地)	亀岡軽浜遺跡	土地分譲	41.5㎡ (1,075)	平13.5.22	平安時代の溝。他、F P 泥流層を確認。	確認調査で終了
	3	太田市岩松町142-1番地 (尾島町岩松字千歳西142-1番地)	岩松千歳西遺跡	店舗建設	43.5㎡ (1,220)	平13.5.24	発見遺構・遺物なし。	
	4	太田市小島町510番地 (尾島町小島字上組510番地)	尾島上組遺跡	貸住宅建設	30㎡ (902)	平13.7.31	発見遺構・遺物なし。他、F P 泥流層を確認。	
	5	太田市亀岡町664番地の一部 (尾島町亀岡字軽浜664番地の一部)	亀岡軽浜遺跡	共同住宅建設	69㎡ (959)	平13.11.9	古墳時代前期の住居2軒。他、F P 泥流層を確認。	確認調査で終了
	6	太田市亀岡町4-1・4-4・4-5番地 (尾島町亀岡字裏地4-1・4-4・4-5番地)	亀岡裏地遺跡	貸住宅建設	88.5㎡ (997)	平14.1.18	発見遺構・遺物なし。他、F P 泥流層を確認。	
14年度	7	太田市岩松町241番地他 (尾島町岩松字千歳241番地他)	東部地区遺跡群 (岩松千歳遺跡) (堀口駒形遺跡)	尾島東部土地区画整理事業	2,294.40㎡ (10,582.35)	平14.11.18 ～12.19	平安時代の住居跡及び土坑。他 F P 泥流層を確認。 土器片。	一部本調査 (岩松千歳1遺跡)
15年度	8	太田市堀口町268-3番地他 (尾島町堀口字駒形268-3番地他)	東部地区遺跡群 (岩松千歳遺跡) (岩松千歳西遺跡) (堀口駒形遺跡)	尾島東部土地区画整理事業	1,025㎡ (4,500)	平15.5.20～22 平15.7.9～15 平15.8.4～5 平16.1.20～27 平16.3.24～26	F P 泥流層。	
	9	太田市粕川町5-2・6-1・6-10番地 (尾島町粕川字新堀下5-2・6-1・6-10番地)	粕川新堀下遺跡	土地分譲(4区画)	84.5㎡ (1,285)	平15.7.8	平安時代の住居跡4軒、土坑3基、溝1条。	確認調査で終了
	10	太田市世良田町3119-6番地 (尾島町世良田3119-6番地)	長楽寺遺跡	世良田小学校給食配膳室建設	57㎡ (57)	平16.1.6・7	中・近世期の竪穴状遺構1基、土坑11基、ビット20基。 縄文土器片、中・近世のかわらけ、茶臼等。	本調査へ
16年度	11	太田市岩松町89-1番地他 (尾島町岩松字千歳89-1番地他)	東部地区遺跡群 (岩松千歳遺跡) (岩松千歳西遺跡) (堀口駒形遺跡)	尾島東部土地区画整理事業	239㎡ (3,098)	平16.7.7 平16.9.1・3 平16.12.8～10	平安時代の住居跡1軒、F P 泥流層を確認。	確認調査で終了
	12	太田市粕川町253-1番地 (尾島町粕川字山之神253-1番地)	粕川山之神遺跡	土地分譲(7区画)	104.5㎡ (2,062)	平16.7.6	井戸1基、ビット等を確認。	確認調査で終了
	13	太田市世良田町1496番地 (尾島町世良田字八坂1496番地)	世良田環濠集落 (世良田八坂遺跡)	世良田祇園屋台庫三棟建築	33.5㎡ (1,252)	平16.10.8	時期不明の溝3条、土坑3基を確認。	確認調査で終了
	14	太田市粕川町14-2番地 (尾島町粕川字新堀下14-2番地)	粕川新堀下遺跡	共同住宅新築	39.7㎡ (752)	平16.10.28	遺構なし。	
	15	太田市亀岡町572-1番地 (尾島町亀岡字軽浜572-1番地)	亀岡軽浜遺跡	土地分譲(7区画)	134㎡ (2,373)	平16.11.18	住居跡4軒、土坑2基、ビット等を確認。	確認調査で終了
	16	太田市岩松町18番地他 (尾島町岩松字千歳18番地他)	岩松千歳2遺跡	尾島親水公園建設	977.5㎡ (18,000)	平16.12.13～21	平安時代の住居跡26軒、土坑83基、溝14条、ビット等を確認。	一部本調査

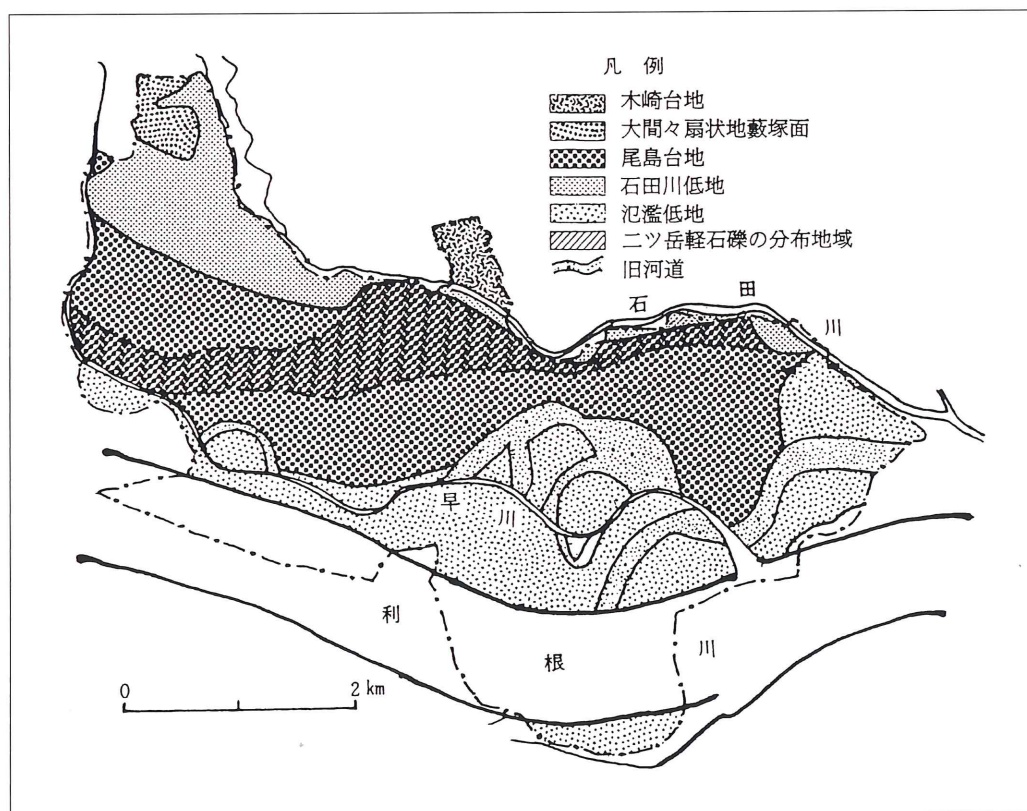


旧尾島町の町内遺跡調査区位置図（平成13～16年度）

第3章 遺跡の位置と歴史的環境

旧尾島町の地形は、「尾島町誌」上巻によれば、木崎台地、大間々扇状地藪塚面、尾島台地（伊勢崎台地）、石田川低地、早川・利根川氾濫低地に分かれる。尾島台地とは、国道354号線を軸に尾島市街地から世良田集落にのびる東西6 km余、幅1 km前後の低地で、北を石田川低地、南を早川と利根川氾濫低地に挟まれる。尾島台地は、周囲の沖積低地との比高が小さく、台地としての形態が明確でないため、従来は自然堤防と考えられてきたが、「伊勢崎砂層」と呼ぶ特徴的な地層で構成され、その表層には関東ローム層が堆積していることが明らかになったので、洪積台地と改められた。尾島台地は、佐波郡境町の市街地が立地する台地と一連の地形で、境町から伊勢崎市街地にいたる広瀬川左岸側は、広瀬川沖積低地より一段高い台地になり、伊勢崎台地という。尾島台地は伊勢崎台地の最も東の部分に当たる。伊勢崎台地の段丘崖は、境町米岡まで明瞭に連続してくる（伊勢崎崖線）が、早川を越えて世良田へ入ったとたんに消滅してしまう。これは、利根川の氾濫堆積物による埋め立てによって、台地と氾濫低地との段差がならされ消滅したものと推測されている。利根川の氾濫は、世良田の集落の南から出塚新田、安養寺を経て石田川に流入していたと考えられる。そのため世良田から尾島市街地の間の地域は、台地形成層の上に氾濫堆積物（沖積層）が堆積している。つまり尾島台地は、上部ロームをのせる本来の台地面と沖積層に被われた堆積台地との二つの地形面から成る。

旧尾島町で発掘調査が行われた遺跡を中心に旧尾島町の遺跡を時代順に見ていきたいと思う。旧石器時代の明確な遺構は確認されていない。数点の石器が表採されているだけである。縄文時代の遺跡は、粕川山之神遺跡から後期の土坑4基、小角田前遺跡から後期の竪穴住居跡1軒が検出され、尾島工業団地内の鼠塚遺跡から中期の埋設土器1基、後期の土坑1基、同じく歌舞妓遺跡から後期の土坑2基が確認されている。弥



旧尾島町の地形分類図（澤口宏原図）

生時代の遺跡は、旧尾島町内に点在するが、何れも小規模で短期間で消滅し、拠点的な大規模集落の営まれた形跡はない。弥生時代中期には、阿久津宮内遺跡の包含層中から、中期の土器群が出土し、長楽寺遺跡から住居跡2軒が確認されている。弥生時代後期の遺跡は、安養寺森ノ内遺跡から、弥住居跡1軒・方形周溝墓1基・壺棺墓3基・土坑4基が検出され、小規模であるが弥生時代からこの周辺の開発が始まったことを思わせる。ほかに常木遺跡から土坑1基、粕川山之神遺跡から住居跡2軒、尾島工業団地内の小角田前遺跡から住居跡1軒が確認されている。

古墳時代になると遺跡数が増加し、拠点的な大規模集落が生まれてくる。古墳時代前期（4世紀）の遺跡は、常木遺跡から住居跡1軒・方形周溝墓1基・壺棺墓1基が検出され、長楽寺遺跡や尾島工業団地内の歌舞妓遺跡・水久保遺跡からは、数軒から30軒ほどの集落が検出されている。また、大館馬場遺跡から住居跡1軒が確認されている。古墳時代中期（5世紀）の遺跡は、粕川新堀下遺跡から住居跡3軒、尾島工業団地内の歌舞妓遺跡・水久保遺跡からは、住居跡を中心とした集落が検出されている。また水久保遺跡から豪族居館状の遺構が確認されている。尾島工業団地内の鼠塚遺跡から古墳1基・世良田諏訪下遺跡から古墳13基・長楽寺遺跡から5基が検出されている。古墳時代後期（6世紀から7世紀）になると遺跡の数が爆発的に増大し、大規模な集落が多くなる。集落としては、尾島工業団地内の歌舞妓遺跡・小角田前遺跡・水久保遺跡や粕川新堀下遺跡・粕川山之神遺跡・宝積院跡・世良田土屋分遺跡等がある。古墳は、尾島工業団地内の鼠塚遺跡（50mmの前方後円墳1基を含む）・世良田諏訪下遺跡等から検出されている。また、Hr—FP泥流（6世紀中頃）によって埋没した畠跡が、阿久津宮内遺跡・大館馬場遺跡・安養寺森西遺跡・安養寺森南遺跡・安養寺森ノ内遺跡から広範囲にわたり検出されている。

奈良・平安時代の遺跡は、集落としては大規模なものは少なく、小規模な集落が点在する傾向が窺え、尾島工業団地内の歌舞妓遺跡・小角田前遺跡・水久保遺跡・小角田下遺跡や世良田土屋分遺跡・今井地区遺跡群・岩松千歳2遺跡・常木遺跡・阿久津宮内遺跡・安養寺森西遺跡・安養寺館跡等がある。また、粕川新堀下遺跡からは、竪穴住居跡6軒とともに弘仁9年（818）の地震に起因する洪水による泥流で埋没した畠跡が検出されている。世良田諏訪下遺跡からも同地震に起因する洪水による泥流で埋没した水田及び9世紀後半中頃の洪水堆積層により埋没した条里水田・畠跡（水田は2度の洪水前後でも同規格）が確認されている。洪水で埋没した水田を再開発するように9世紀末から10世紀初頭の「館跡」と、その東側に付随する集落（住居跡13軒）が検出されている。小角田遺跡群からは天仁元年（1108）の浅間Bテフラ（As—B）によって埋没した水田跡を検出している。

鎌倉時代以降になると新田氏＝新田荘関連遺跡が、旧尾島町中に分布している。徳川（新田）義季開基の長楽寺に係わる長楽寺遺跡、中世世良田の中心的位置に立地し、二町四方の規模を有し新田本宗家関連の新田館跡（総持寺）に係わる上新田遺跡・新田館跡や、世良田環濠集落に係わる今井地区遺跡群・世良田新町遺跡・上新田II遺跡・世良田諏訪下遺跡がある。また、二町四方の規模を有し新田義貞の館跡説が有力で「新田触れ不動」伝説の残る安養寺館跡（明王院）に係わる安養寺森ノ内遺跡・安養寺森西遺跡・安養寺館跡、岩松館跡（青蓮寺）関連の岩松本郷遺跡などがある。戦国時代太田金山城の支城である世良田今井城（由良氏の四家老のひとり大澤氏の居城・大澤氏は世良田を含む「川辺七ヶ郷」の領主）に係わる世良田陣屋遺跡・宝積院跡等が発掘調査されている。また、中世の新田氏・新田荘に関わる遺跡として太田市・尾島町・新田町にまたがる11箇所が、「新田荘遺跡」として平成12年11月1日付けで、国指定史跡に指定された。

第4章 調査を実施した遺跡の概要

1. ^{かめおかかるはま} 亀岡軽浜遺跡 (No.2・No.5・No.15)

亀岡軽浜遺跡は、旧尾島町のほぼ中央部に所在する遺跡である。尾島台地の中の沖積層に被われた沖積台地上に立地する。この周辺は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流（仮称FP泥流）によって、覆われている。FP泥流関連の発掘調査例としては、「安養寺森西・大館馬場・阿久津宮内遺跡」（昭和60～63年度群馬県埋蔵文化財調査事業団調査）、「安養寺森ノ内遺跡」（Ⅰ次・平成2年、Ⅱ次・平成8年度尾島町教育委員会調査）、安養寺森南遺跡（平成4年度尾島町教育委員会調査）などの発掘調査においては、この層直下からバックされた状態で畠跡が検出され、また「亀岡軽浜遺跡」（平成15年度尾島町教育委員会調査）からは埋没した古墳が検出されている。また、阿久津宮内遺跡や安養寺森ノ内遺跡からは、FP泥流の下層の地層から弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物が検出されている。FP泥流上層からは、奈良時代から江戸時代の遺構・遺物が検出され、3層の調査面をもつ遺跡がある。

（平成13年度No.2）

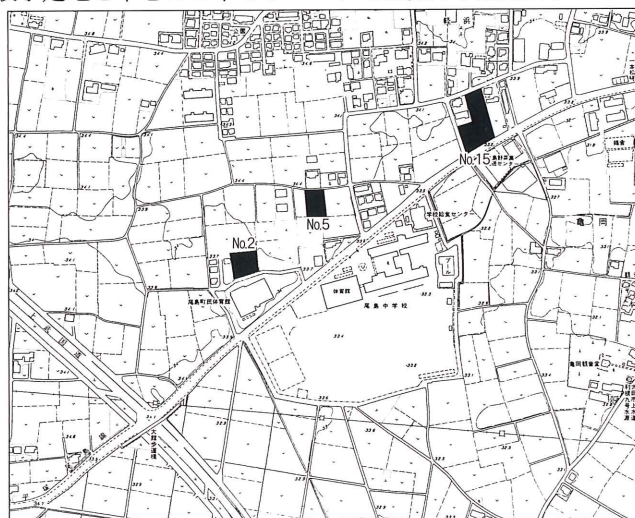
今回の開発内容は、土地分譲に伴うもので、道路建設予定地を中心に2本のトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面）まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、東側に設定したBトレンチより平安時代の溝1条を確認した。道路建設予定地からは遺構が確認されず、土地分譲部分は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。

（平成13年度No.5）

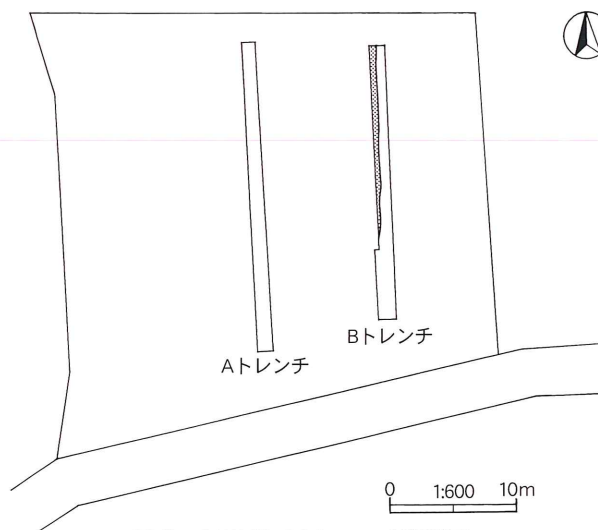
今回の開発内容は、共同住宅建設に伴うもので、道路建設予定地を中心に2本のトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面）まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、西側に設定したBトレンチより古墳時代前期住居跡2軒を確認した。共同住宅建設予定地からは遺構が確認されず、その他は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。

（平成16年度No.15）

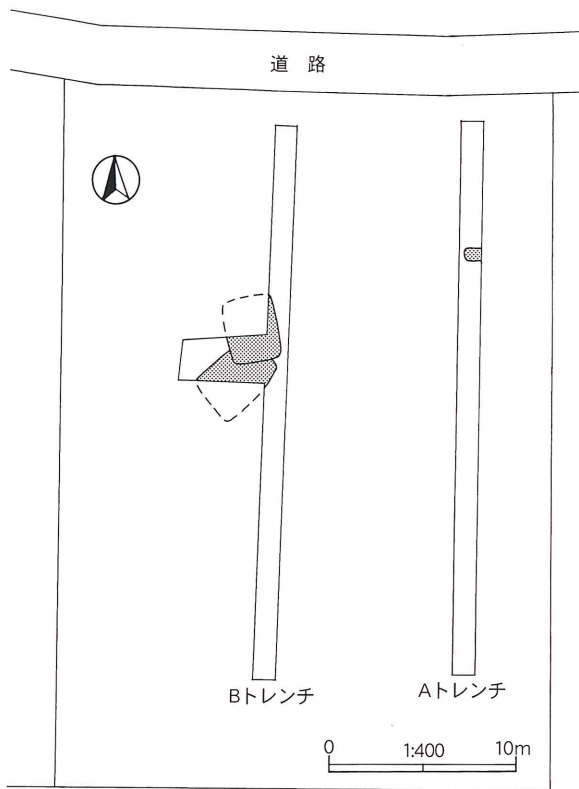
今回の開発内容は、土地分譲に伴うもので、道路建設予定地を中心に3本のトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面）まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、Aトレンチより住居跡2軒、土坑2基とピットを確認し、Bトレンチより住居跡2軒とピットを確認した。しかし、道路建設予定地のCトレンチからは遺構が確認されず、土地分譲部分は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。



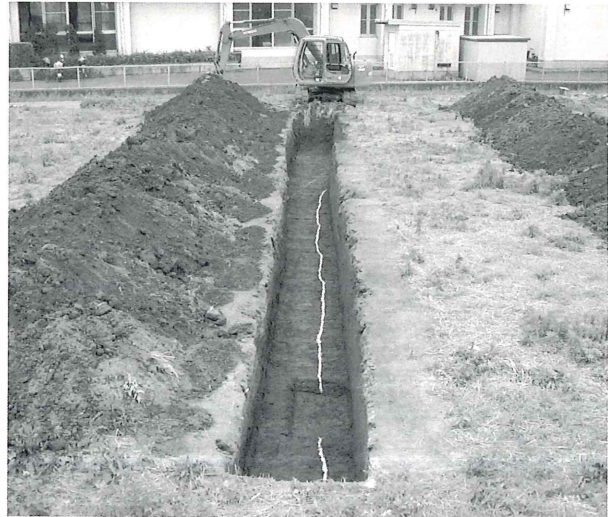
亀岡軽浜遺跡調査位置図



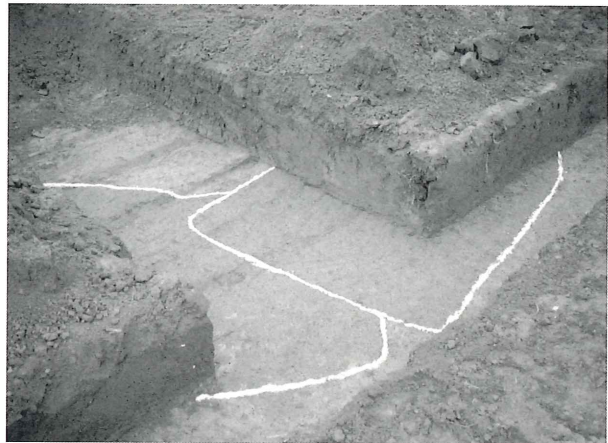
平成13年度（No.2）トレンチ配置図



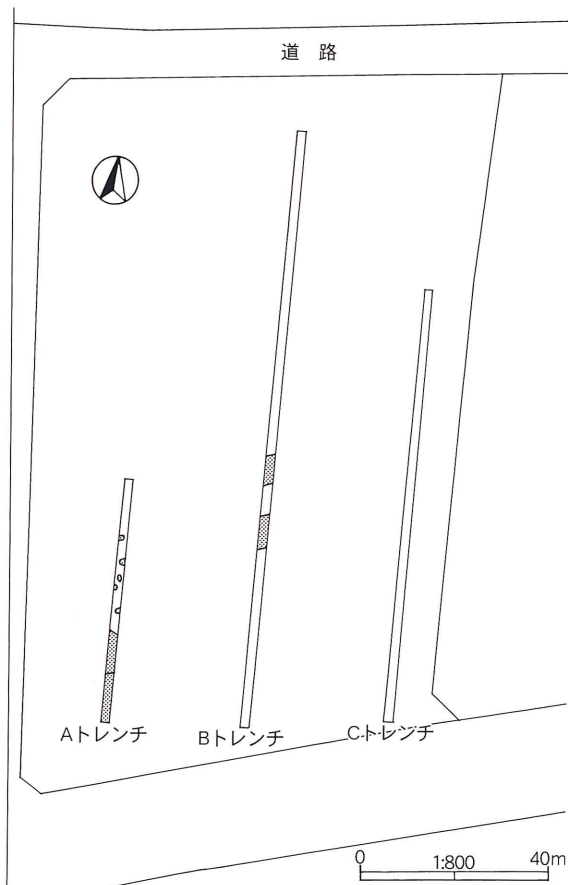
平成13年度(No.5) トレンチ配置図



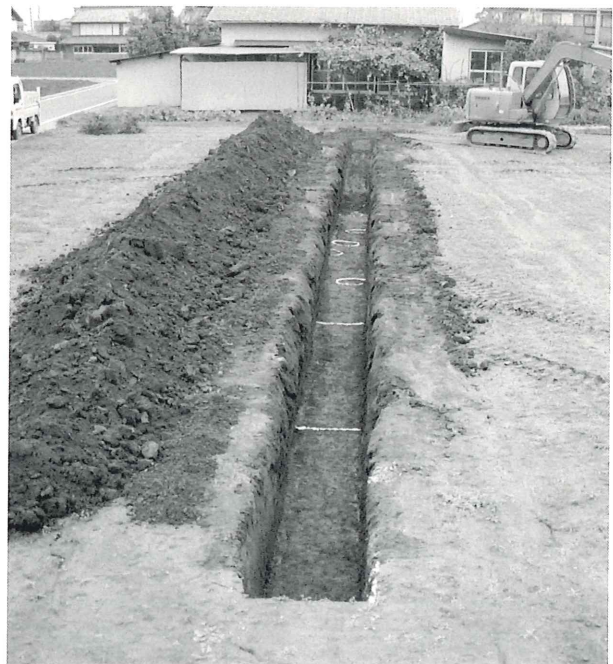
(No.2) Bトレンチ遺構確認状況 (北から)



(No.5) Bトレンチ拡幅部住居確認状況 (南東から)



平成16年度(No.15) トレンチ配置図



(No.15) Aトレンチ遺構確認状況 (南から)

2. 東部地区遺跡群 (No.7・No.11)

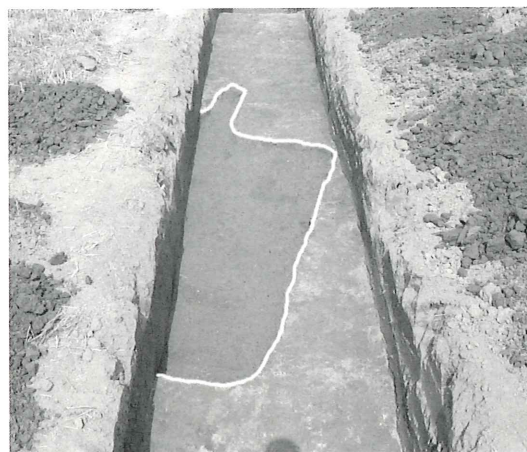
東部地区遺跡群は、旧尾島町の東側の尾島町大字岩松・堀口・阿久津に所在する遺跡である。尾島台地中の沖積層に被われた沖積台地上に立地する。この周辺は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流（仮称FP泥流）によって、覆われていると推定される地域である。遺跡は、尾島東部土地区画整理事業の範囲と一致し、元々はFP泥流下遺跡群と捉えてきた地域である。「安養寺森西・大館馬場・阿久津宮内遺跡」「安養寺森ノ内遺跡」「安養寺森南遺跡」等の発掘調査においては、FP泥流層直下から畠跡が検出され、「亀岡軽浜遺跡」からは埋没した古墳が検出されている。

(平成14年度 No.7)

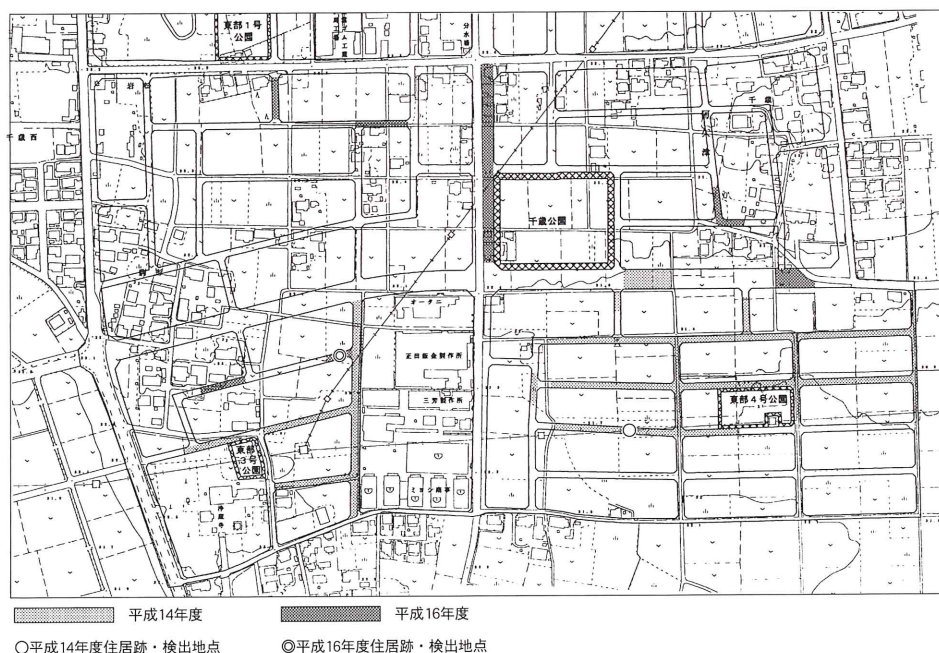
尾島東部土地区画整理事業に伴うもので、平成14年度の区画整理事業内の道路・水路予定地内に南北方向18本・東西方向21本のトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面・一部はFP泥流直下）まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、平安時代の住居跡2軒を検出した。また、FP泥流直下からは、畠等の遺構は確認出来なかった。確認された遺構については、確認後本調査を実施した。

(平成16年度 No.11)

尾島東部土地区画整理事業に伴うもので、平成16年度の区画整理事業内の道路・水路予定地内に南北方向8本・東西方向5本のトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面・一部はFP泥流直下）まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、平安時代の住居跡1軒を検出した。また、FP泥流直下からは、畠等の遺構は確認出来なかった。平安時代の住居跡については、現在の耕作（牛蒡トレンチャー等）による攪乱が著しく、残存状況が悪いため、確認調査で終了した。



(No.11) 16—27トレンチ住居確認状況（東から）



東部地区遺跡群平成14年度No.7及び平成16年度No.11調査位置図

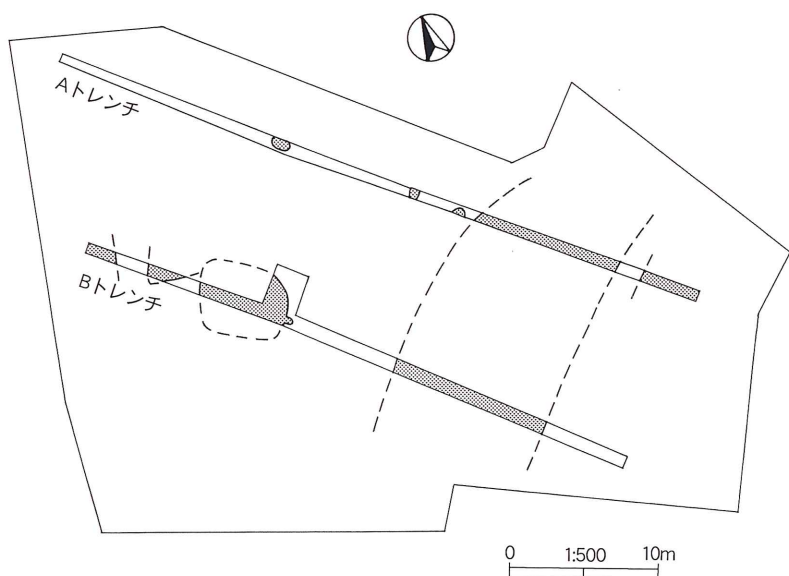
3. 粕川新堀下遺跡 (No.9)

粕川新堀下遺跡は、旧尾島町のほぼ中央部に所在する遺跡である。尾島台地の中の沖積層に被われた沖積台地上に立地する。この周辺は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流(仮称FP泥流)によって、覆われていると推定される地域である。また、400m程西で平成6年調査に調査した粕川新堀下遺跡(「粕川新堀下遺跡」2000年尾島町教育委員会)では、弘仁9年(818)の地震に起因する洪水による泥流で一部埋没した畠跡が検出されている。

今回の開発内容は、土地分譲に伴うもので、道路建設予定地を中心に2本のトレンチを設定し、確認面(砂層)まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、Aトレンチより住居跡1軒・土坑3基と溝1条を確認し、Bトレンチより住居跡3軒と溝1条を確認した。また、遺構確認面は、砂層であり、FP泥流及び弘仁9年の地震を起因とする洪水層は確認できなかった。土地分譲部分は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。



粕川新堀下遺跡調査位置図



粕川新堀下遺跡トレンチ配置図



Aトレンチ遺構確認状況(南東から)



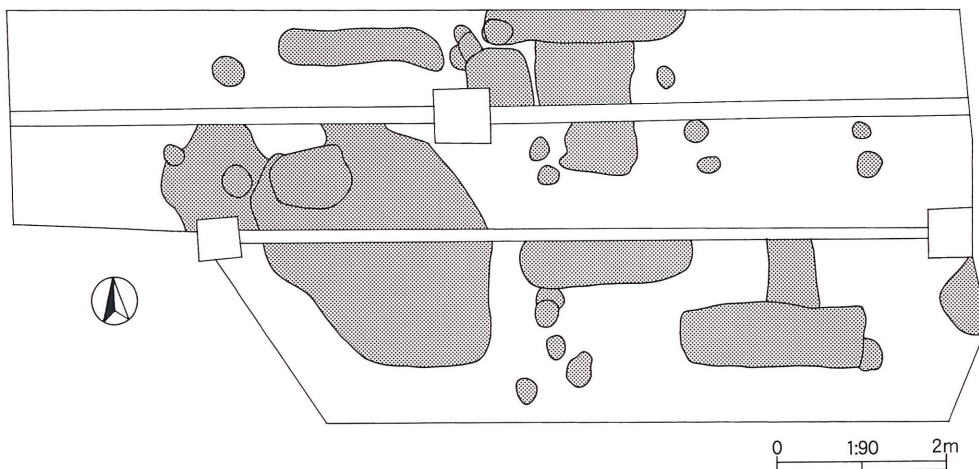
Bトレンチ遺構確認状況(北西から)

4. 長楽寺遺跡 (No10)

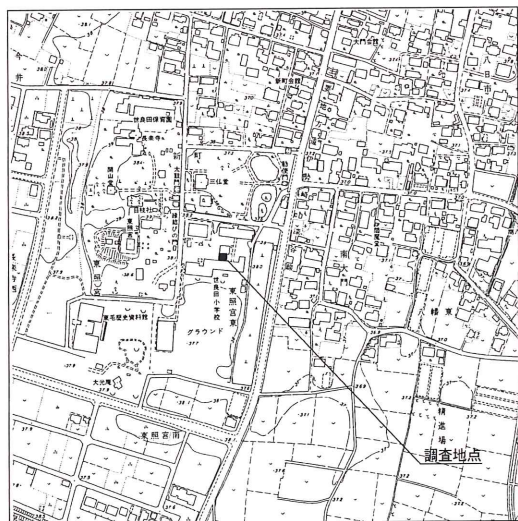
長楽寺は、承久3年(1221)に新田義重の四男である徳川義季を開基として、わが国臨済宗開祖栄西の高弟栄朝を開山として創建された。創建後の長楽寺は、栄朝の名声を慕って集まる学問僧が多く、関東随一の禅林として繁栄した。長楽寺の外護者である義季の子世良田頼氏は、新田氏を代表して鎌倉幕府に仕えていたが、文永9年(1272)に幕府の内紛に巻き込まれて、佐渡に流された。世良田頼氏の失脚により、長楽寺は最大の庇護者を無くした。正和年間(1312~1317)に、長楽寺は火災を起こし、全焼し、廃絶の危機に見舞われた。この危機を救ったのが、大谷道海という人物で、新田荘内外の土地を買収して、長楽寺に寄進した。長楽寺は、大谷道海の援助で危機を脱し、南北時代には、足利尊氏から所領の安堵を受け、五山十刹の制度が定められると、十刹の7位に列した。

境内地や旧境内地において13回の発掘調査が行われ、中世期の外堀を南西コーナーから南辺部分、東辺の一部を確認している。残存する西辺の堀(長堀)とあわせ二町四方の館跡状の遺構であることが確認されている。昭和51年の世良田小学校改築に伴う調査において、中世に存在した真言院の付帯施設と考えられる基壇2基と井戸を検出した。井戸中より13~15世紀にわたる中世瓦・陶磁器類・茶臼等が多数出土している。

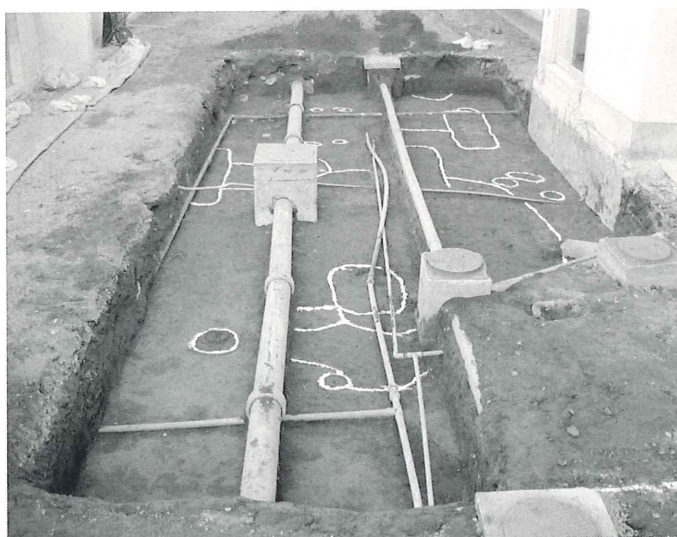
世良田小学校給食配膳室改修工事に伴うもので、工事面積が57㎡と狭いため、予定地全面の表土を除去し、ローム層上面で遺構の確認を行った。その結果、中・近世の竪穴状遺構1基・土坑11基・ピット20基が確認された。確認された遺構については、本調査を実施した。今回の工事予定地は、史跡指定地外であるが、本来は長楽寺境内である。



長楽寺遺跡12次遺構配置図



長楽寺遺跡12次調査位置図



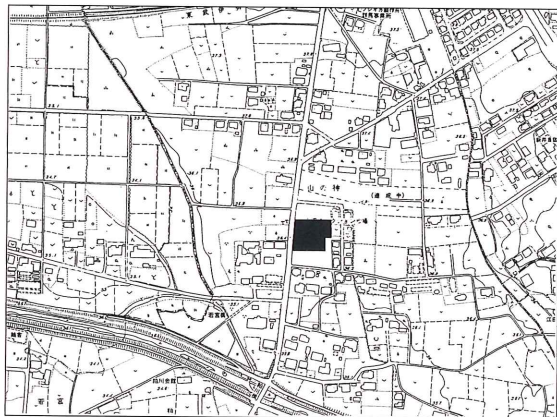
遺構確認状況(西から)

5. 粕川山之神遺跡 (No.12)

粕川山之神遺跡は、旧尾島町大字粕川字山之神に所在し、木崎台地の南西部に立地する。東武伊勢崎線木崎駅の南西方向約500mの位置にある。西側の低地との比高差は2～3mで、あいだに通称「谷縄堀」が流れ、旧新田町下江田との行政境となっていた。東側は北約200mに谷頭を持つ小河川を伴う開析谷が形成され、太田市下田島との行政境となっていた。南側には約200mの距離に石田川が東に向かって流れている。

平成5年から平成7年にかけて、国道354号線バイパス改良工事に伴う発掘調査が行われ、また民間開発に伴う小規模発掘調査を3箇所、旧尾島町教委が行っている。検出された主な遺構は、縄文時代後期の土坑4基、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期の竪穴住居跡65軒、中世から近世の掘立柱建物1棟・溝19条・井戸13基・土坑303基などである。また、現在は幅400m程の平坦地であるが、国道354号バイパス建設に伴う発掘調査により埋没谷が2ヶ所発見され、古墳時代以前は三つの台地から成り立っていたことが判った。

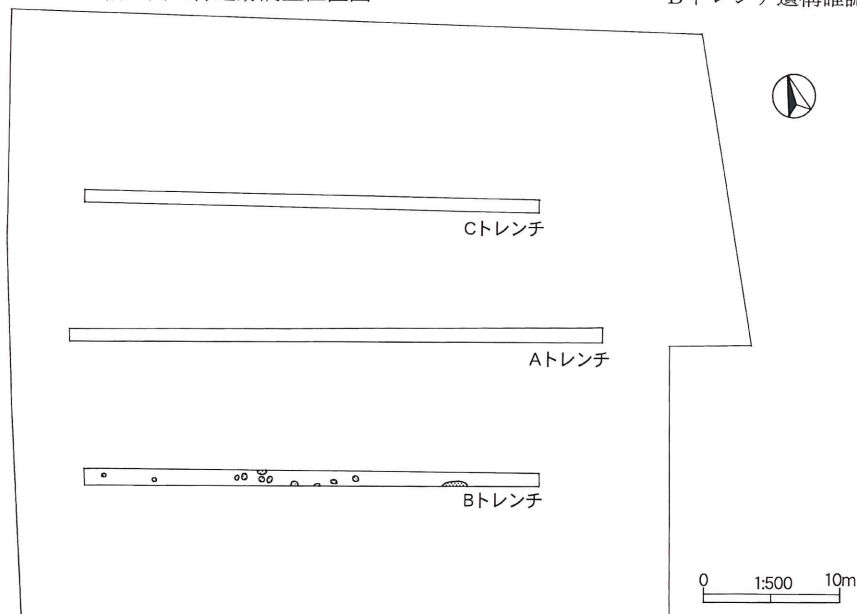
今回の開発内容は、土地分譲に伴うもので、道路建設予定地を中心に3本のトレンチを設定し、ローム面まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、南側に設定したBトレンチより井戸1基とピット群（掘立柱建物も想定される）を確認した。道路建設予定地からは遺構が確認されず、土地分譲部分は盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。



粕川山之神遺跡調査位置図



Bトレンチ遺構確認状況（西から）



粕川山之神遺跡トレンチ配置図

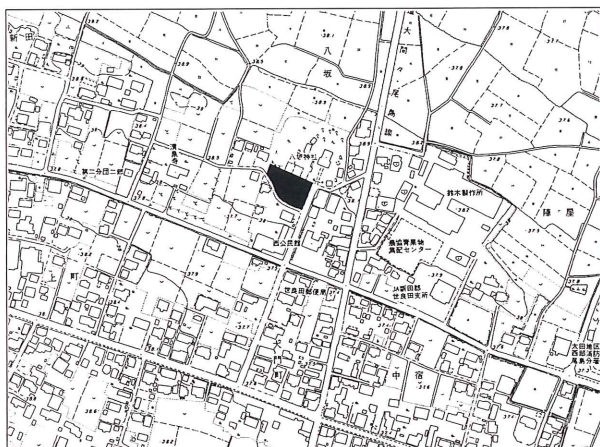
6. 世良田環濠集落<世良田八坂遺跡> (No.13)

世良田環濠集落とは、中世世良田において、早川を西境とし、周囲約1km四方の堀に囲んだ遺構のことを言う。北は現在の世良田集落北限と一致し、東は南下する「なめら堀」と考えられ、南側の堀は今井地区遺跡群の調査で確認されている。環濠内には、新田館跡（総持寺）・八坂神社・清泉寺・長楽寺・普門寺など寺社や館跡が存在し、環濠内にも堀による区画が今井地区遺跡群や世良田新町遺跡等から確認されている。また、「長楽寺文書」等の文献から、世良田宿の成立していることや、四日市・六日市等の定期市が開かれていたことが確認できる。

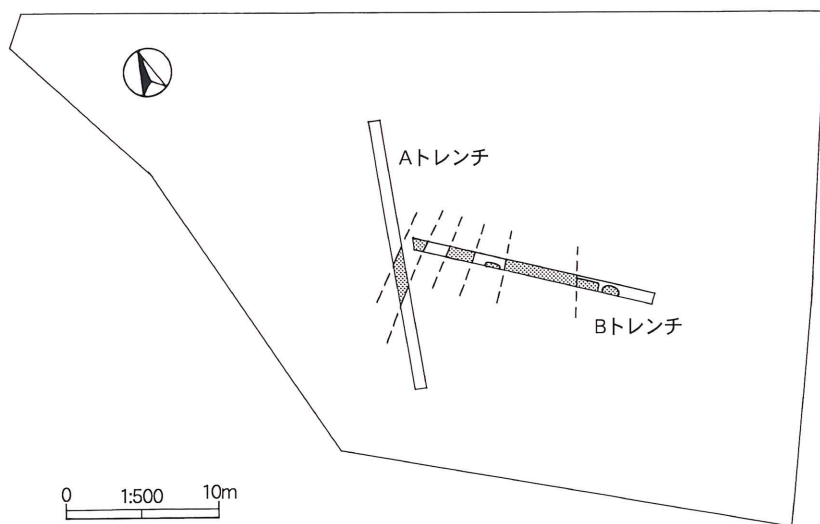
今回の調査地点は新田郡旧尾島町世良田に所在し、八坂神社の境内に位置する。八坂神社は、古くは「牛頭天王」を祀る新田天王社であった。明治初期に周辺24カ村の郷社となり、八坂神社と称した。夏祭りは、「世良田祇園」と呼ばれ、かつては関東三大祭のひとつに数えられる程の隆盛を極めた。

八坂神社の創建を示す資料として、拝殿内に「木造狛犬像」一対が伝世し、狛犬の制作年代が鎌倉時代後期と推定されている。また、戦国時代に長楽寺の住持義哲が書いた『永禄日記』の永禄8年（1565）6月7日の条に、「天王祭ヲイタス、卒都雨降り祭之内ハヤミツル」とある。これらのことから鎌倉時代後期には八坂神社が存在し、戦国時代には祇園祭を行っていたことがわかる。

今回の開発内容は、祇園屋台庫建設に伴うもので、屋台庫建設予定地を中心に2本のトレンチを設定し、ローム面まで掘り下げて遺構確認を行った。その結果、西側に設定したAトレンチより溝1条を確認し、東側のBトレンチから溝3条・土坑3基を確認した。屋台庫建設予定地からは溝1条が確認されたが、盛土によって遺構保護層が確保できることから、確認調査で終了とした。



世良田八坂遺跡調査位置図



世良田八坂遺跡トレンチ配置図



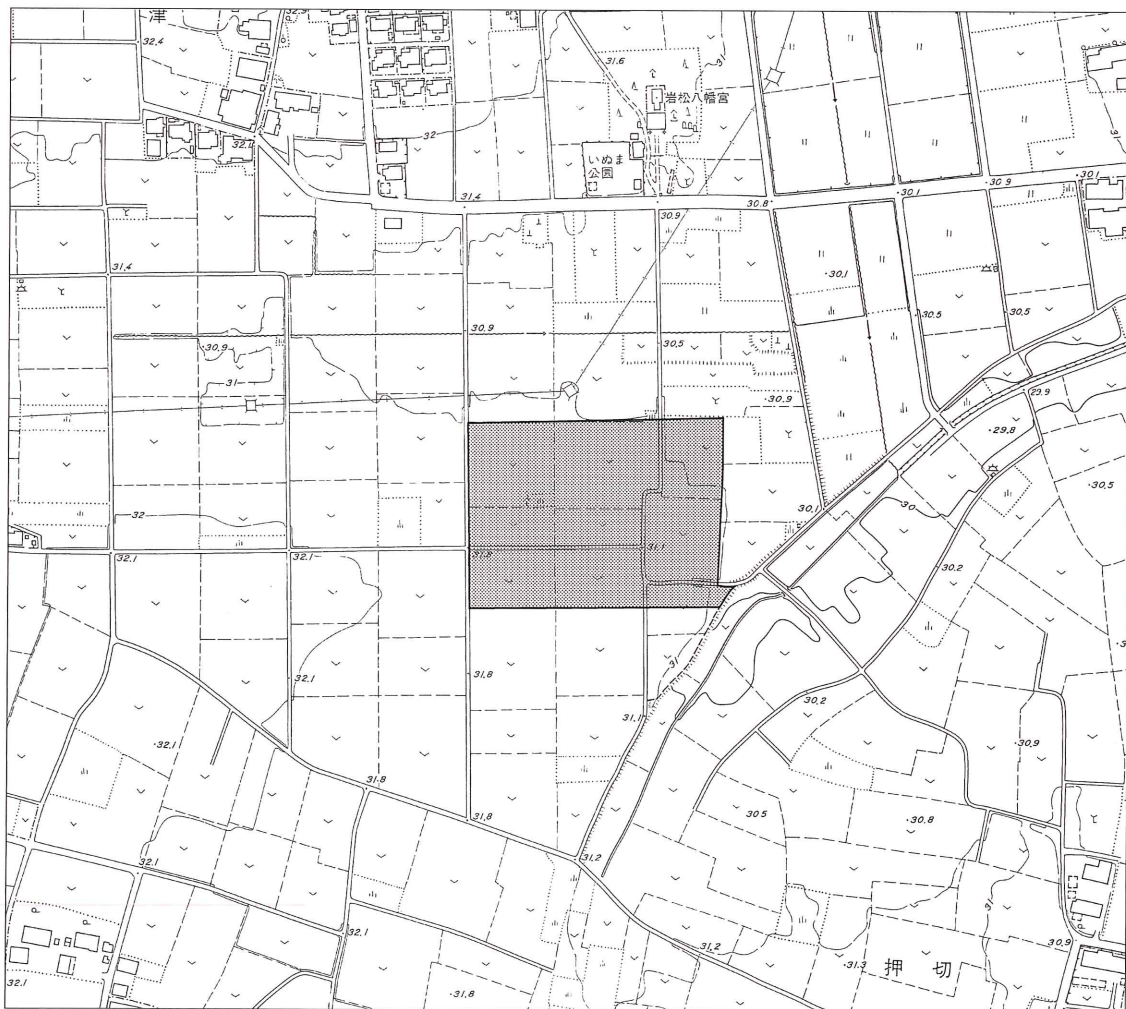
Bトレンチ遺構確認状況（東から）

7. 岩松千歳^{いわまつせんざい}2遺跡 (No.16)

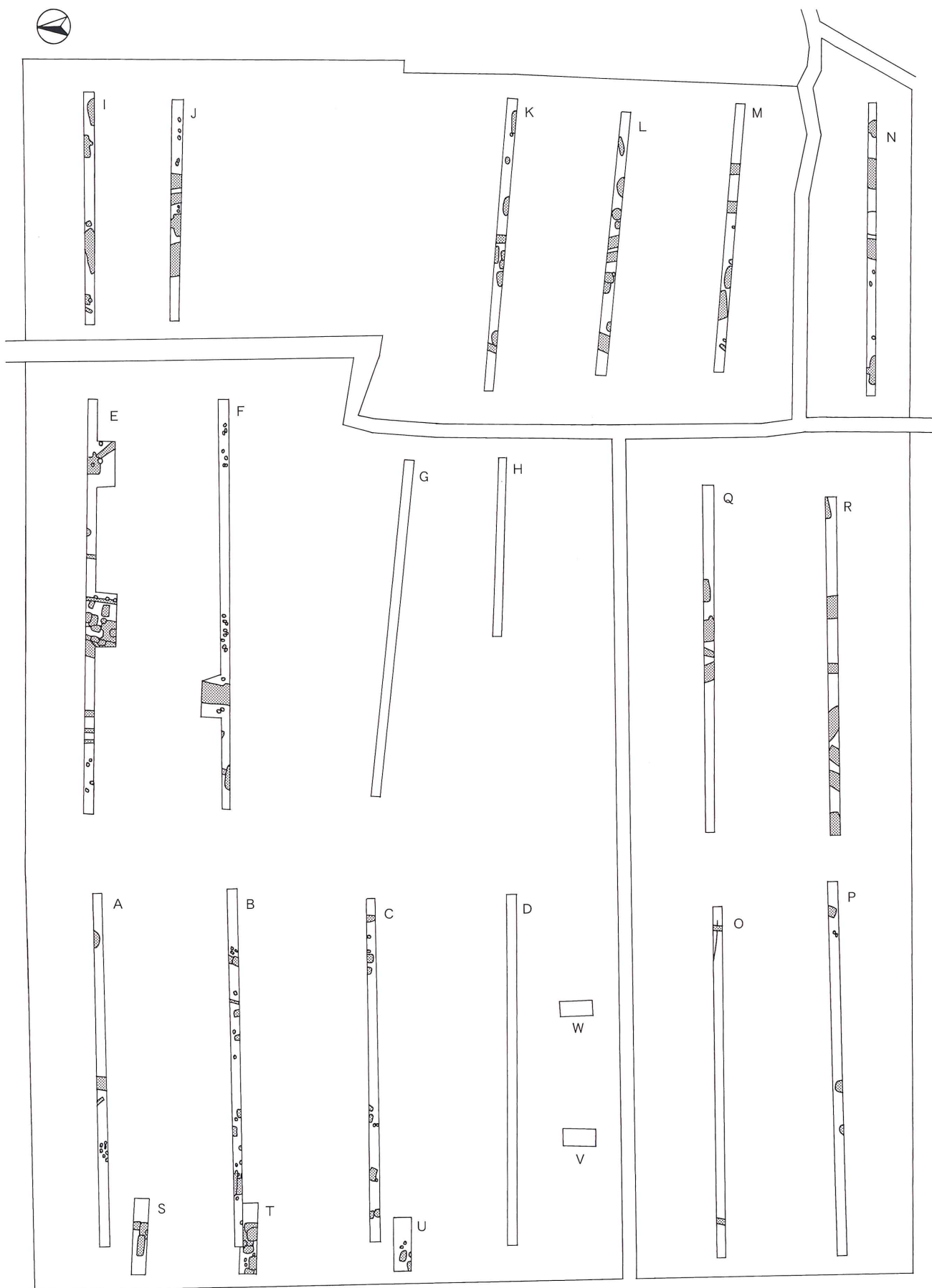
岩松千歳2遺跡は、太田市南西部の岩松町に位置する。岩松町は、南側に利根川、北側に石田川に挟まれている。遺跡名になっている岩松の地名の起こりは、岩松八幡宮の縁起によると、仁安年中（1166～1169）新田義重が京都大番のおり、山城国男山より小松を持ち帰り、この地に植えて石清水八幡を勧請し岩松八幡宮と称した。以来犬間^{いぬま}（猪沼）郷を岩松郷に改めたという。また、「新田御荘嘉応2年の目録・田畠在家宇の事」（1170年・正木文書）に『いわまつ いぬまの郷』と併記され、郷名の変更を裏付けている。

千歳^{せんざい}は、岩松町の元の小字であり、「嘉応2年の目録」に千歳郷と記載されている。岩松郷・千歳郷ともに、平安時代末期の1170年には、新田荘の中で郷として成立し、地名として古い部類に属する。

開発内容は、親水公園（調整池）建設（18,000㎡）であったため、予定地に18本のトレンチと5本のサブトレンチを設定し、確認面（FP泥流上面）まで0.60m～0.80m掘り下げ遺構確認を行った結果、平安時代の竪穴住居跡26軒、平安時代から江戸時代の井戸2基・溝14条・土坑83基・ピット96基を確認した。また、試掘トレンチ全体から、6世紀中頃に起きた、榛名山ニツ岳起源の火山噴火によって起きた洪水層（仮称FP泥流）が確認できた。現在事業予定地は、平坦であるが、トレンチ内の深堀部分で、0.1～1mの厚さで確認でき、6世紀中頃には、この地は平坦でなかったことがわかった。確認された遺構の分布状況から、開発予定地18,000㎡のうち10,800㎡を本調査の対象地として発掘調査を実施した。



岩松千歳2遺跡調査区位置図



岩松千歳2遺跡トレンチ配置図 (A~Wトレンチ)

0 1:700 20m



E トレンチ東拡幅部 (南から)



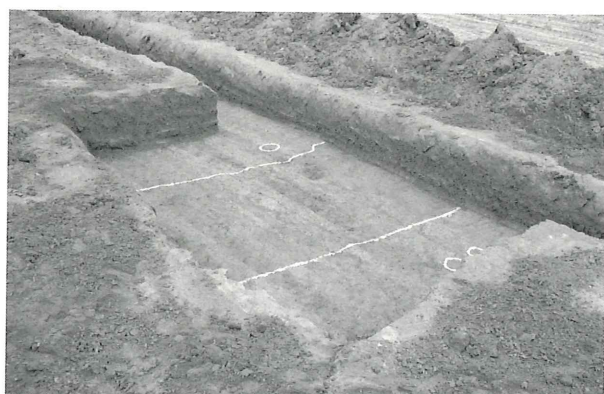
F トレンチ (西から)



E トレンチ西拡幅部 (南から)



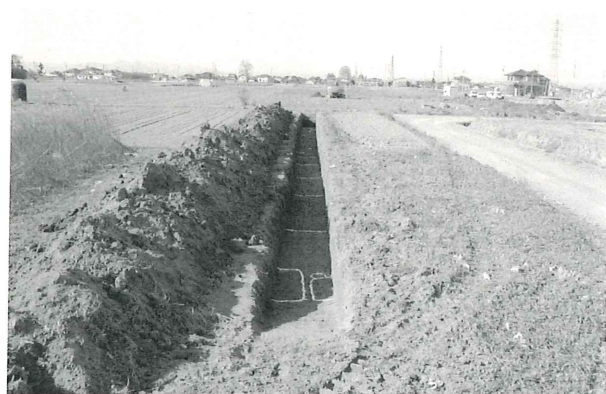
I トレンチ (東から)



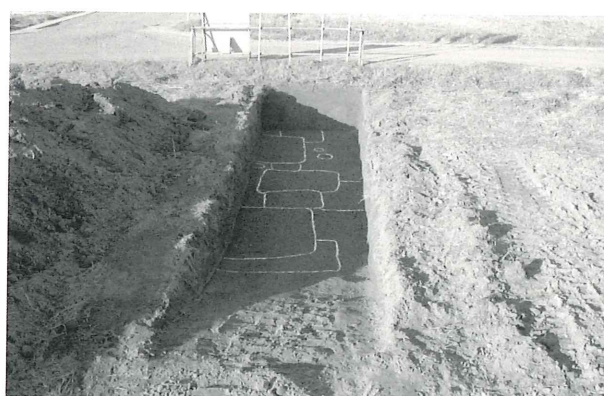
F トレンチ拡幅部 (北西から)



N トレンチ (西から)



N トレンチ (東から)

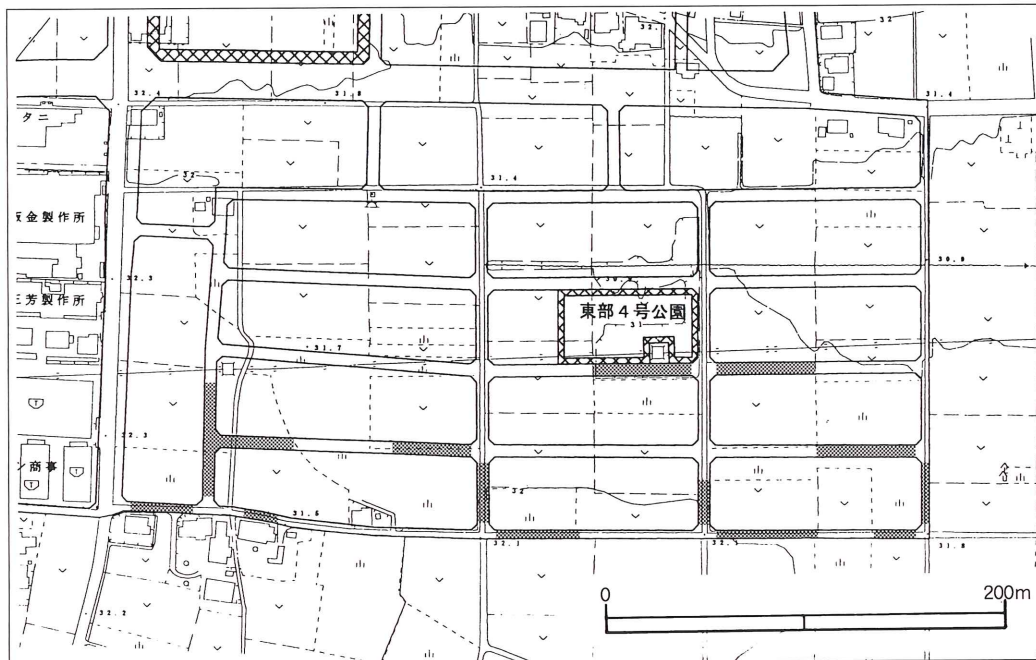


T トレンチ (東から)

第5章 試掘・確認調査の概要

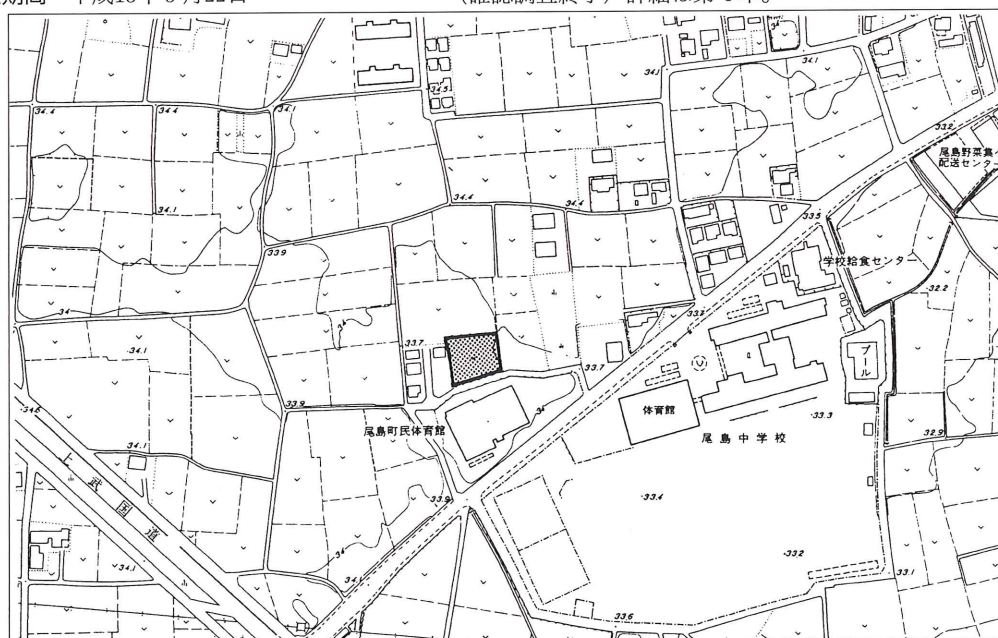
1. 東部地区遺跡群

- ① 所在地 太田市岩松町177番地他
- ② 調査面積 460m² (対象面積2,506m²)
- ③ 調査原因 尾島東部土地区画整理事業
- ④ 調査期間 平成13年3月12日～27日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に5本、東西方向に11本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ80～100cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 発見遺構・遺物なし。他、FP泥流層を確認。



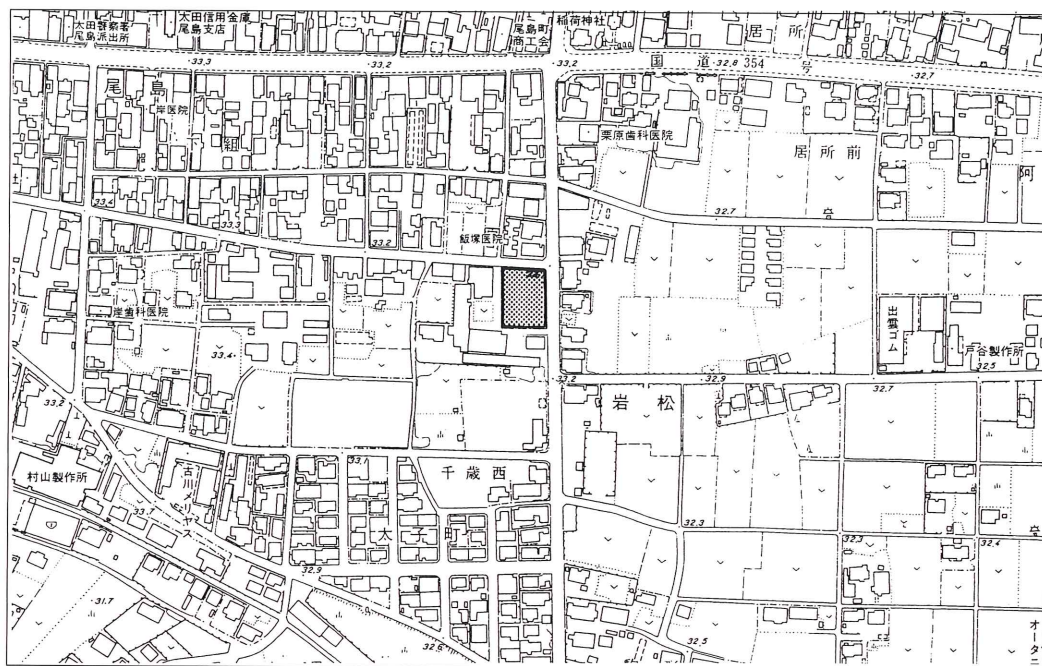
2. 亀岡軽浜遺跡

- ① 所在地 太田市亀岡町668-1番地
- ② 調査面積 41.5m² (対象面積1,075m²)
- ③ 調査原因 土地分譲
- ④ 調査期間 平成13年5月22日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ110cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 平安時代の溝。他、FP泥流層を確認。(確認調査終了) 詳細は第4章。



3. 岩松千歳西遺跡

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市岩松町142-1番地 | ④ 調査期間 | 平成13年 5月24日 |
| ② 調査面積 | 43.5㎡ (対象面積1,220㎡) | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後(深さ200cm・全面攪乱)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。 |
| ③ 調査原因 | 店舗(コンビニエンスストア)建設 | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。 |



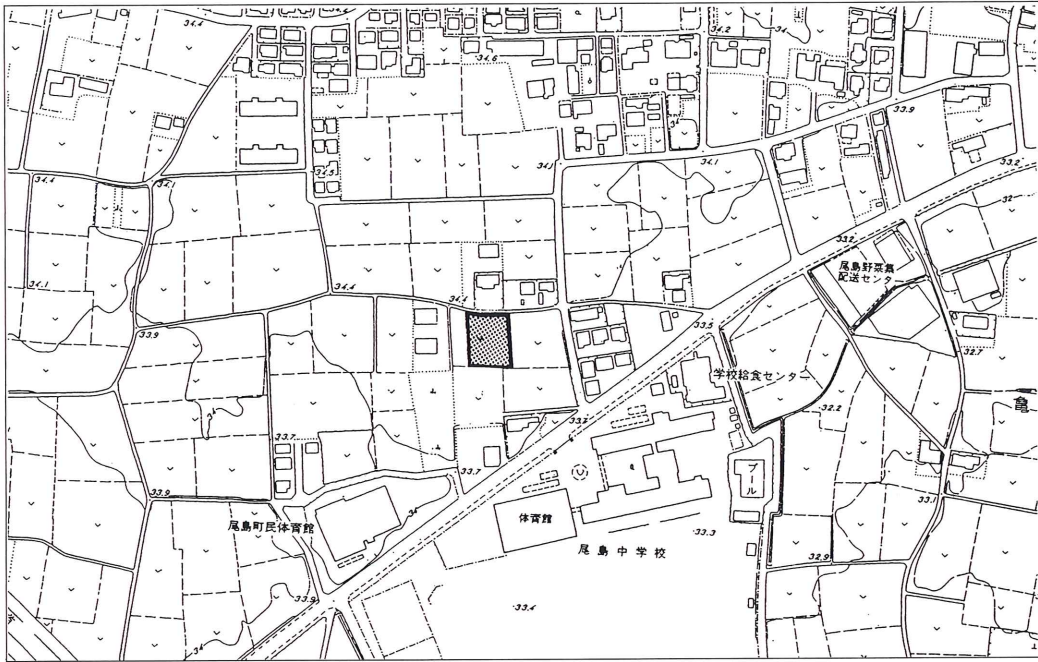
4. 尾島上組遺跡

- | | | | |
|--------|----------------|--------|--|
| ① 所在地 | 太田市尾島町510番地 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ110cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 30㎡ (対象面積902㎡) | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。他、FP泥流層を確認。 |
| ③ 調査原因 | 貸住宅建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成13年 7月31日 | | |



5. 龜岡輕浜遺跡

- | | | | |
|--------|----------------|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市亀岡町664番地の一部 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後（FP泥流下面・深さ70cm）、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 69㎡（対象面積959㎡） | ⑥ 調査結果 | 古墳時代前期の住居2軒。他、FP泥流層を確認。（確認調査が終了）詳細は第4章。 |
| ③ 調査原因 | 共同住宅建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成13年11月9日 | | |



6. 龜岡裏地遺跡

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| ① 所在地 | 太田市亀岡町4-1・4-4・4-5番地 | ⑤ 調査方法 | 開発予定地内に南北方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後（FP泥流上面・深さ70cm）、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。 |
| ② 調査面積 | 88.5m ² （対象面積997m ² ） | ⑥ 調査結果 | 発見遺構・遺物なし。他、FP泥流層を確認。 |
| ③ 調査原因 | 貸住宅建設 | | |
| ④ 調査期間 | 平成14年1月18日 | | |

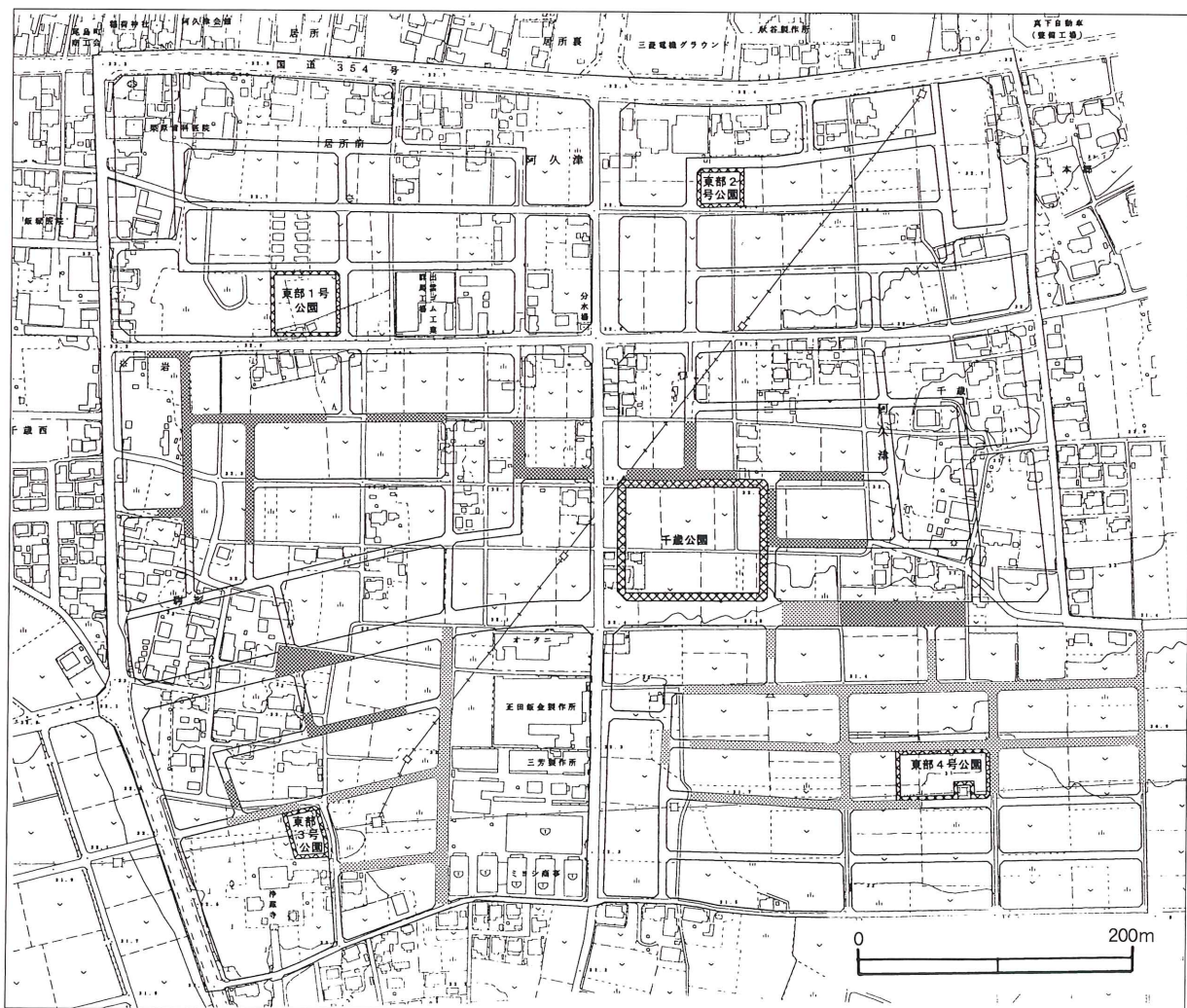


7. 東部地区遺跡群（平成14年度）

- ① 所在地 太田市岩松町241番地他
- ② 調査面積 2,294.40㎡(対象面積10,582.35㎡)
- ③ 調査原因 尾島東部土地区画整理事業
- ④ 調査期間 平成14年11月18日～12月19日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に18本、東西方向に21本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ50～100cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 平安時代の住居跡及び土坑。他、FP泥流層を確認。土器片。(一部発掘調査を実施) 詳細は第4章。

8. 東部地区遺跡群（平成15年度）

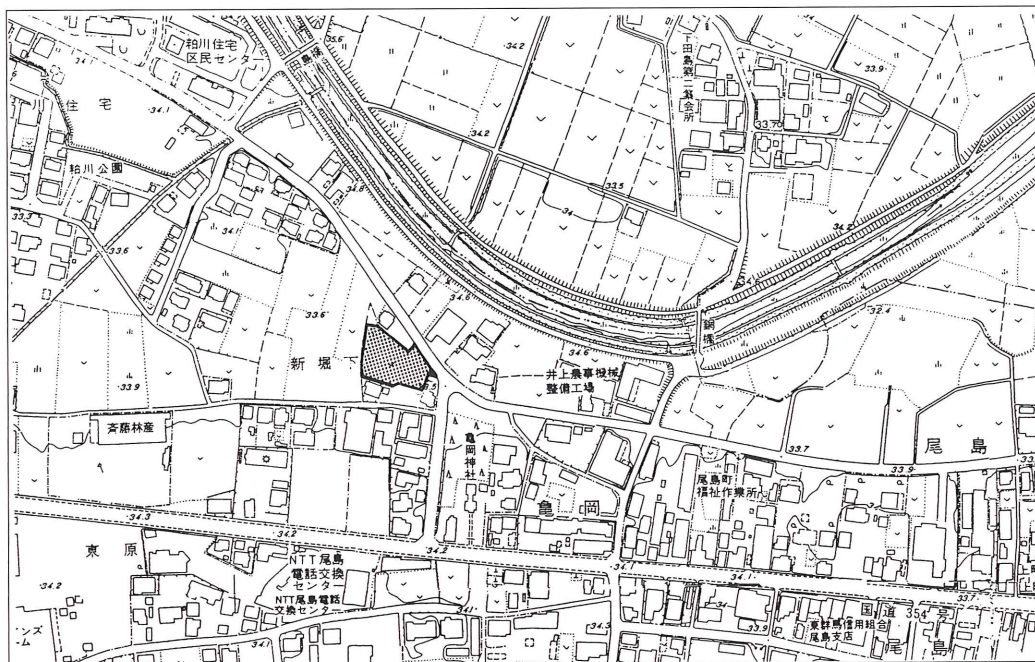
- ① 所在地 太田市堀口町268-3番地他
- ② 調査面積 1,025㎡(対象面積4,500㎡)
- ③ 調査原因 尾島東部土地区画整理事業
- ④ 調査期間 平成15年5月20日～22日・平成15年7月9日～15日・平成15年8月4日～5日・平成16年1月20日～27日・平成16年3月24日～26日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に11本、東西方向に19本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ80～100cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 FP泥流層。



平成14年度
 平成15年度

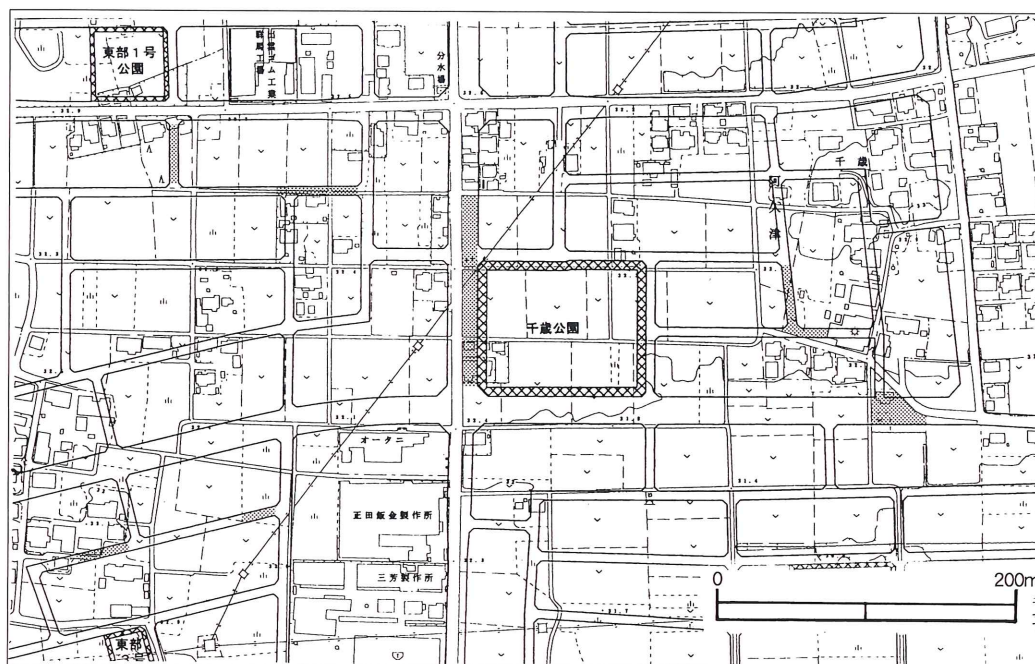
9. 粕川新掘下遺跡

- ① 所在地 太田市粕川町5-2・6-1・6-10番地
- ② 調査面積 84.5㎡ (対象面積1,285㎡)
- ③ 調査原因 土調分譲 (4区画)
- ④ 調査期間 平成15年7月8日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後(深さ50cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 平安時代の住居跡4軒、土坑3基、溝1条。
(確認調査で終了) 詳細は第4章。



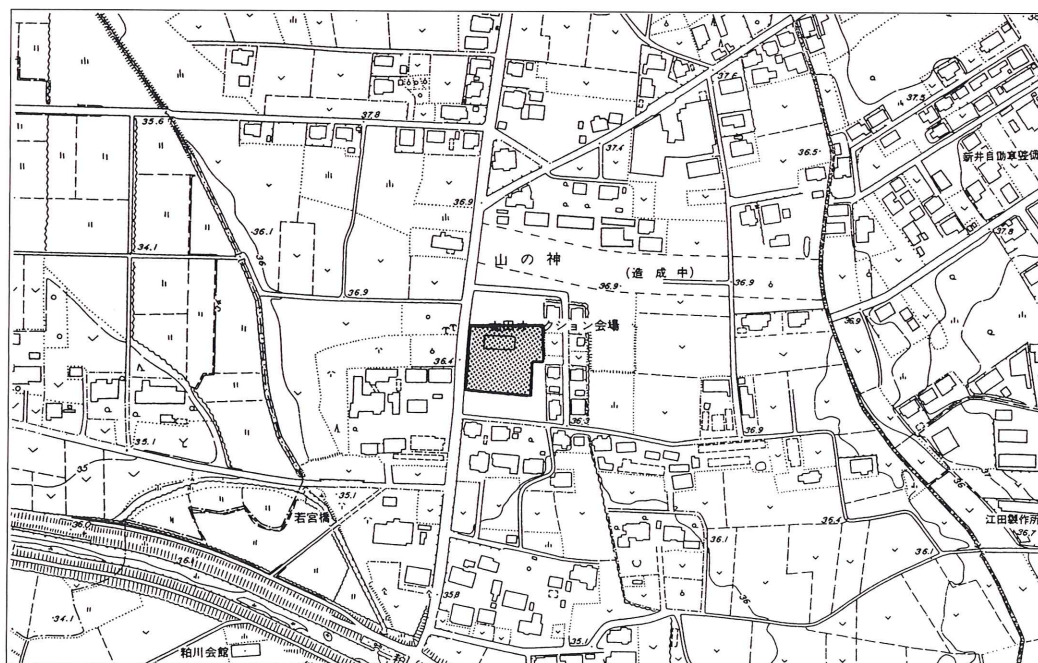
11. 東部地区遺跡群

- ① 所在地 太田市岩松町89-1番地
 ② 調査面積 239m² (対象面積3,098m²)
 ③ 調査原因 尾島東部土地地区画整理事業
 ④ 調査期間 平成16年7月7日、9月1、3日・12月8～10日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に8本、東西方向に5本のトレンチを設定し、重機により表土除去後(FP泥流上面・深さ80～100cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 平安時代の住居跡1軒、FP泥流層を確認。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



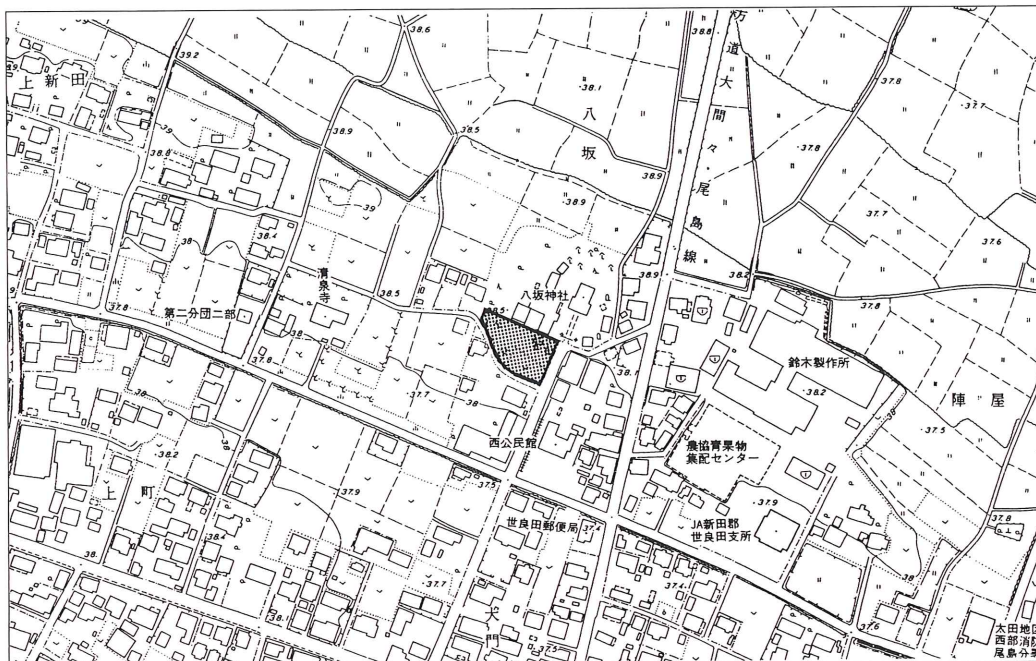
12. 粕川山之神遺跡

- ① 所在地 太田市粕川町253-1番地
 ② 調査面積 104.5m² (対象面積2,062m²)
 ③ 調査原因 土地分譲 (7区画)
 ④ 調査期間 平成16年7月6日
 ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向にトレンチを3本設定し、重機により表土除去後(ローム層上面)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
 ⑥ 調査結果 井戸1基、ピット等を確認。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



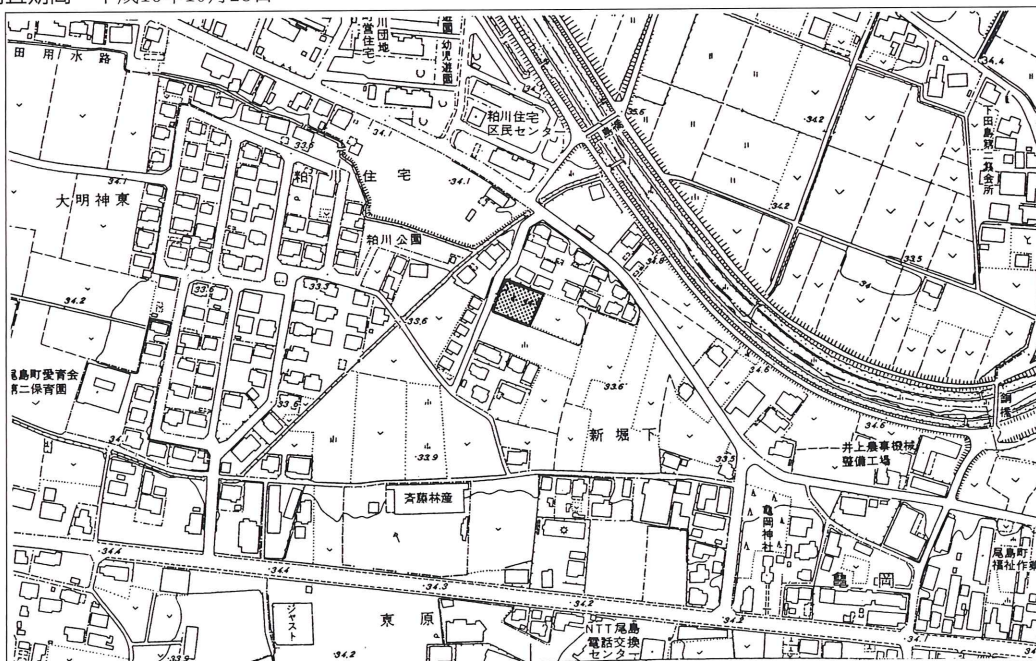
13. 世良田環濠集落（世良田八坂遺跡）

- ① 所在地 太田市世良田町1496番地
- ② 調査面積 33.5㎡（対象面積1,252㎡）
- ③ 調査原因 世良田祇園屋台庫三棟建築
- ④ 調査期間 平成16年10月8日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に1本、東西方向に1本のトレンチを設定し、重機により表土除去後（ローム上面・深さ30cm）、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 時期不明の溝3条、土坑3基を確認（確認調査で終了）詳細は第4章。。



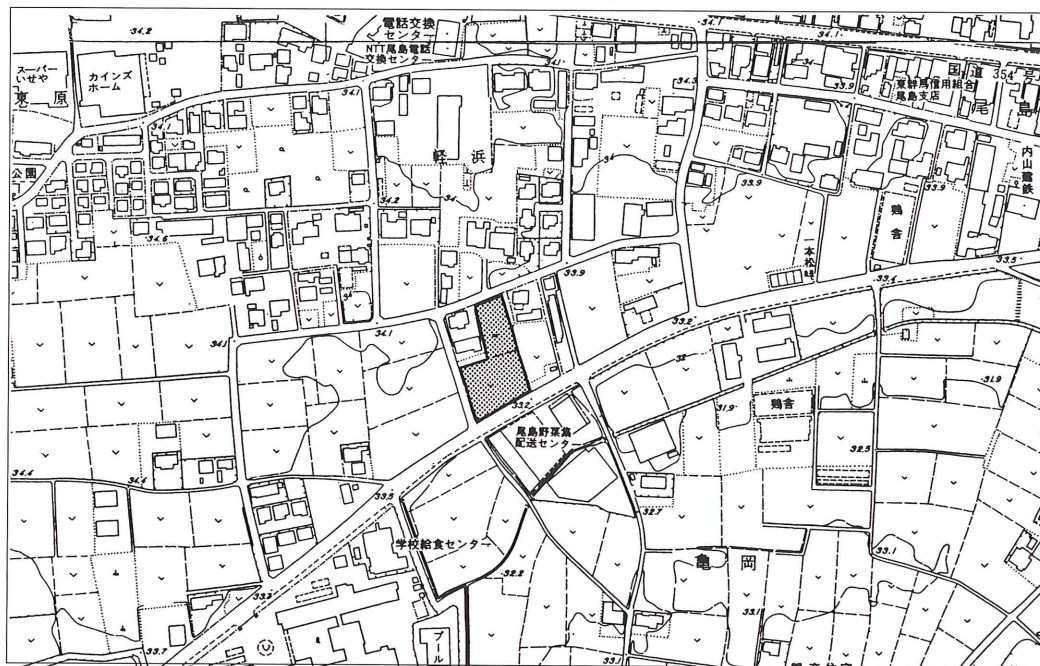
14. 粕川新堀下遺跡

- ① 所在地 太田市粕川町14-2番地
- ② 調査面積 39.7㎡（対象面積752㎡）
- ③ 調査原因 共同住宅新築
- ④ 調査期間 平成16年10月28日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に東西方向にトレンチを2本設定し、重機により表土除去後（深さ190cm）、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 遺構なし



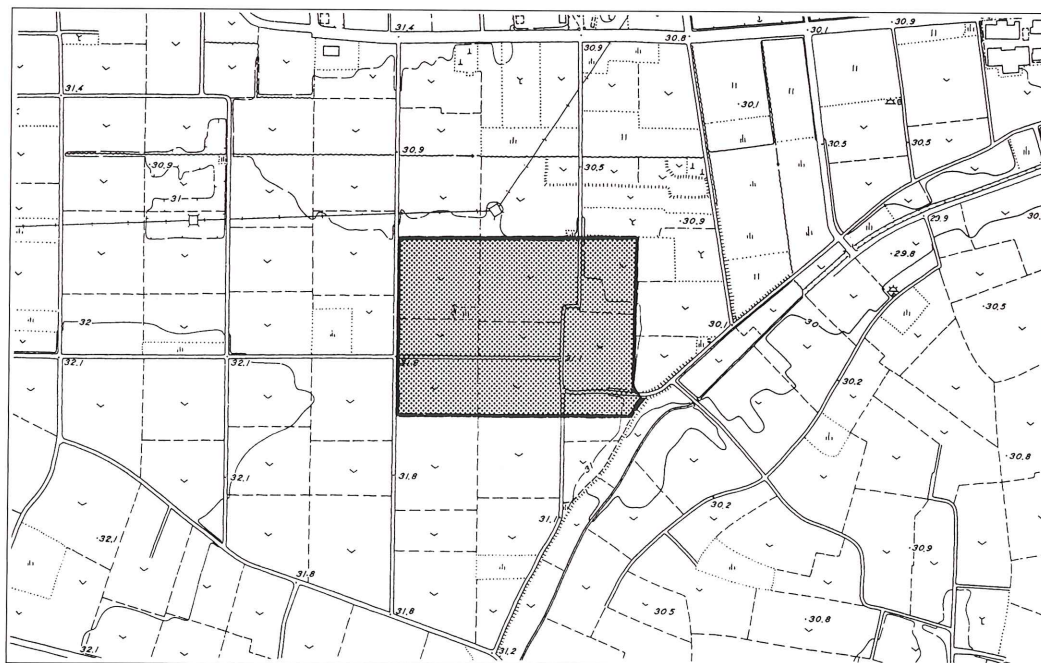
15. 亀岡軽浜遺跡

- ① 所在地 太田市亀岡町572-1番地
- ② 調査面積 134㎡ (対象面積2,373㎡)
- ③ 調査原因 土地分譲 (7区画)
- ④ 調査期間 平成16年11月18日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向にトレンチを3本設定し、重機により表土除去後 (FP泥流上面・深さ80cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 住居跡4軒、土坑2基、ピット等を確認。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



16. 岩松千歳2遺跡

- ① 所在地 太田市岩松町18他
- ② 調査面積 977.5㎡ (対象面積18,000㎡)
- ③ 調査原因 尾島親水公園建設
- ④ 調査期間 平成16年12月13～21日
- ⑤ 調査方法 開発予定地内に南北方向に1本、東西方向に21本のトレンチを設定し、重機により表土除去後 (FP泥流上面・深さ60～80cm)、発掘作業員の手作業により遺構の確認調査を行った。
- ⑥ 調査結果 平安時代の住居跡26軒、土坑83基、溝14条、ピット等を確認。(一部発掘調査を実施) 詳細は第4章。



II 旧藪塚本町の調査

第1章 調査に至る経緯

旧藪塚本町における発掘調査の歴史は、古くは昭和24年に行われた今井新次氏による、つつじ山遺跡の調査に遡ることができる。これに次いで、翌昭和25・26年に明治大学による発掘調査が実施され、昭和24年～35年にかけては群馬大学や國學院大學によって7遺跡が学術調査されている。これ以降、旧藪塚本町教育委員会が中心となって本格的に発掘調査を行ったのは昭和50年代後半からであり、薬師前遺跡（昭56）・元屋敷遺跡（昭57）・向山古墳（昭57）・六地藏遺跡（昭58）・木戸海道Ⅰ遺跡（昭58）・滝之入前遺跡（昭59）・台之原廃寺跡（昭59・60）・中原遺跡（昭60）・石之塔遺跡（昭61）・堂ノ下遺跡（昭62）・藪塚遺跡台山地点（昭61・平1 明治大学、群馬県、藪塚本町）の11遺跡の発掘調査を平成元年までの間に実施してきた。平成時代になってからは、平成13年より国庫補助事業として町内遺跡発掘調査を開始し、平成15年度まで継続的に実施してきた。

旧藪塚本町は平成時代以降、太田市や桐生市に隣接することからベッドタウンとしての性格が強まり、人口が徐々に増加してきた。そのため、個人住宅や集合住宅をはじめとした諸開発が年々増加する傾向にあった。また、大規模開発として将来開通が見込まれる北関東自動車道路の建設も始まり、その工事に伴うアクセス道路をはじめとする各種の公共事業や民間の開発事業も急増してきた。こうした社会情勢に加え、町内では開発に対する地域的な規制が少ないことなどがあり、増加していく開発より埋蔵文化財を保護していくことが急務となった。このような理由から、藪塚本町では国庫補助や県補助金を受けて「町内遺跡発掘調査」を実施し、諸開発との調整を図りながら埋蔵文化財を保護していくこととなった。

第2章 調査の方法および経過

旧藪塚本町教育委員会では、上記の理由から大規模な開発事業について、町内遺跡発掘調査の対象とし、開発申請時点で町内の遺跡分布地図（旧藪塚本町東部遺跡分布図参照）をもとに、遺跡地内であるかを判断したり、近隣の町の遺跡分布地図などを考慮して調査対象地の選定を行ない、該当する申請地について試掘調査を実施してきた。試掘調査は対象となる土地の地形や形状、また、遺物の散布状況や周辺の調査状況を考慮してトレンチを設定し、遺構確認面（基本的にはソフトローム面）まで掘削して遺構の所在を確認した。トレンチは調査予定地内全体に1～2 m幅のものを設定し、その区画にしたがって層位的に掘り下げた。調査に当たってはバックホウによる表土除去を行い、その後、作業員による遺構・遺物の確認作業を実施した。遺構・遺物を検出した場合は、土層断面図、遺構平面図・断面図、遺物出土状況図などの記録図面を作成し、合わせて写真撮影を行った。

旧藪塚本町内の土地の現況は、大きく分けて水田と山林の多い東部地区と畑中心の中・西部地区に分かれる。東部地区は埋蔵文化財包蔵地が集中する区域で、計画される開発事業としては、公共工事で河川拡張工事、遊水池造成、公園整備などがあり、民間事業では老人ホーム建設や集合住宅建設などが挙げられる。これに対して中・西部地区は、大規模な高速道路建設などがある他は、小規模の開発がほとんどであり、個人住宅が年に約200件、その他の開発が40件程度申請されており、その過半数が集合住宅建設であった。

町教育委員会ではこれらの開発行為に対して試掘・立会調査を実施してきたが、このうち個人住宅については基本的に立会調査を行い、公共事業の場合は包蔵地外でも周辺の状況を考慮して試掘を行った。また、

平成13年度調査地一覧表

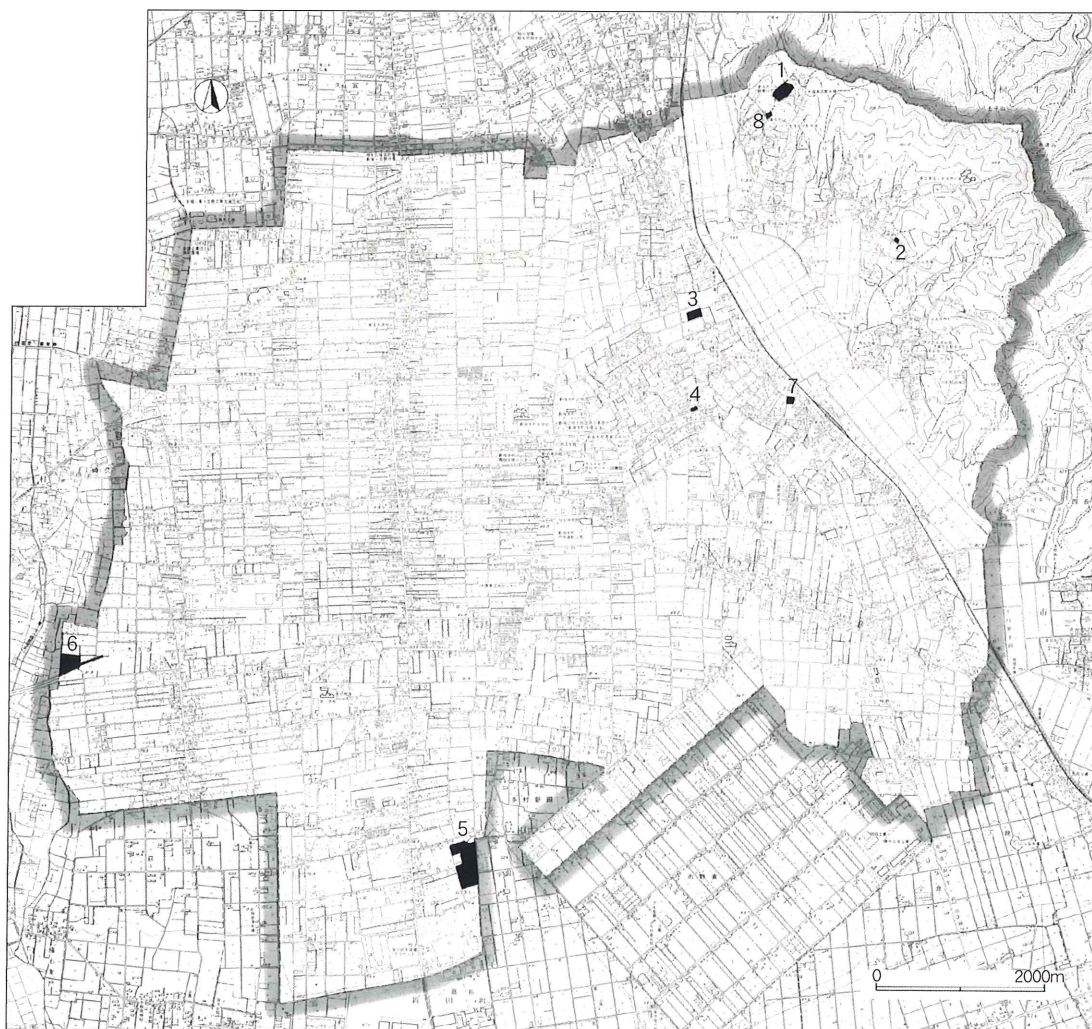
No	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
1	太田市藪塚町台山他 (藪塚本町藪塚字台山)	つつじ山Ⅱ遺跡	特別養護老人ホーム建設	760㎡ (9,947)	平13.7.31～8.24	住居2軒、土器2個体、焼土、石製品、川原石	
2	太田市藪塚町滝之入山他 (藪塚本町藪塚字滝之入山)	滝之入山周辺遺跡	個人専用住宅	117㎡ (842)	平14.3.12～3.14	遺物、遺構なし	
3	太田市藪塚町萩林他 (藪塚本町藪塚字萩林)	萩林Ⅱ遺跡	宅地造成	240㎡ (3,135)	平14.3.19～3.30	住居2軒、溝、土器片、鉄製品、鉄屑	

平成14年度調査地一覧表

No	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
4	太田市藪塚町杉塚他 (藪塚本町大字藪塚字杉塚)	十輪寺跡遺跡	地区公民館建設	102㎡ (419)	平14.6.17～7.5	掘立1軒、土坑	
5	太田市六千石町東浦他 (藪塚本町大字六千石字東浦)	東浦Ⅰ遺跡	遊水池造成	2,163㎡ (28,094)	平14.7.15～7.29	遺物、遺構なし	
6	太田市大久保町鹿聴他 (藪塚本町大字大久保字鹿聴)	鹿聴Ⅰ遺跡	遊水池造成及び高速道側道建設	1,128㎡ (11,049)	平15.3.4～3.14	遺物、遺構なし	

平成15年度調査地一覧表

No	所在地	遺跡名	開発原因	調査面積 (開発面積)	調査期間	調査結果	備考
7	太田市藪塚町木戸海道他 (藪塚本町藪塚字木戸海道)	木戸海道Ⅱ遺跡	貸し住宅建設	153㎡ (934)	平15.10.8～10.20	住居2軒、井戸、溝状遺構、土器片、鉄製品	
8	太田市藪塚町中山他 (藪塚本町藪塚字中山)	中山遺跡	共同住宅建設	84㎡ (1,061)	平16.3.15～3.19	遺構なし、小土器片が数点	



旧藪塚本町の町内遺跡調査区位置図（平成13～15年度）

民間事業の場合は、埋蔵文化財包蔵地内および周辺の地点について試掘調査を実施した。

＜平成13年度＞ 試掘調査を実施した3件はすべて民間事業であった。このうち2件が開発事業、1件が個人住宅建設であった。いずれも包蔵地および包蔵地周辺の申請であった。

＜平成14年度＞ 試掘調査を実施した3件はすべて公共事業であった。このうち1件が公民館建設で、2件は開発事業（遊水池および高速道路側道）であった。後者は2件とも包蔵地から離れていたが、隣接する市町村に近いことや古代道路が存在する可能性を考慮し、試掘調査を実施した。

＜平成15年度＞ 試掘調査を実施した2件とも民間事業であった。2件は開発事業であり、包蔵地付近に位置したため試掘調査を実施した。

以上、平成13～15年度に実施した調査対象地について一覧表にまとめた。3か年分であるため、調査地点については通し番号を付けて扱った。また、この番号は試掘調査位置図および試掘調査の概要（第5章）の番号に対応している。調査によって得られた資料の整理は平成17年度に実施し、太田市教育委員会にて保管している。

第3章 遺跡の位置と歴史的環境

旧藪塚本町は東に八王子丘陵を配し、その西側の裾の部分には旧渡良瀬川の流路が低湿地帯を形成し、それらは広範囲にわたり帯状となって南北へと連なっている。この低地部分より西側の区域は、15,000年前に旧渡良瀬川の氾濫により形成された大間々扇状地に該当するため、乾燥しやすい土壌となっている。そのため、集落が造られる区域は水を得やすい東部地区に集中していると言ってよい。低湿地帯は現在、平坦な水田地帯が広がっているが、それは江戸時代に始まる開拓の結果であり、もともとは河川の流路と島状に残る高台からなる起伏の多い土地であったと推定される。現在低湿地帯にある遺跡は、この微高地上に形成されたものと考えられる。

旧藪塚本町内の集落の立地を時代別に概観すると、旧石器時代の遺跡はやはり丘陵の中腹に位置する傾向が強い。これに対し、縄文時代の遺跡は丘陵中腹から低湿地帯にかけて存在するが、前期までは丘陵付近に多く見られ、中期以降は低湿地帯に集中する傾向がある。弥生時代の遺跡は3箇所確認されており、これらはいずれも低湿地帯に所在している。古墳時代の集落は、始めは低湿地帯の北部、河川の縁辺などで形成されやや南下する。6世紀になるとこの集落範囲が急激に拡大し、扇状地上にも広がり始める。また依然として丘陵付近にも存在が認められる。古墳については、121基の古墳が『上毛古墳総覧』に記録されているが、これらのほとんどは小円墳である。それらの立地は、大きく分けて丘陵付近に造られたグループと低湿地帯付近に造られたグループに分かれている。奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代の遺跡の範囲とそれほど変化が見られないが、丘陵付近には見られなくなる傾向がある。中世に入ると新田荘の一部として取り込まれるようになり、これに関連して物流や交通に必要な道路整備事業（扇状地上を東西に走る古代道路の「あづま道」）や、丘陵の山頂には砦などが構築されるようになってくる。近世では銅の需要に関係して、江戸と足尾銅山を結ぶ南北道路の銅山街道（現在の県道69号線とほぼ同じ位置）が誕生し、扇状地中央部である大原にも宿場町が置かれることで、江戸時代の繁栄が伺えるようになってきた。以下、代表的な遺跡について触れてみたい。

＜旧石器時代＞ 旧石器時代の調査の幕開けは「つつじ山遺跡」の発掘調査に始まる。この遺跡は旧藪塚本町内においても最北東部に位置するもので、八王子丘陵の北西部に立地している。旧石器時代の遺跡としては「岩宿遺跡」に次いで発掘調査された遺跡として有名である。調査は1950～51年に明治大学で行われ、AT

層下から計19点の石器が出土し、ナイフ形石器については「藪塚型」として型式設定されている。旧藪塚本町内では、現段階ではこの遺跡の存在しか知られていないが、今後新たに発見される可能性は高い。

＜縄文時代＞ 縄文時代前期の遺跡としては1984年に藪塚本町教育委員会で発掘調査した滝之入前遺跡がある。この遺跡は丘陵と低湿地帯の境界に立地するもので、調査では3つの埋甕を伴った竪穴住居が検出されている。この他に藪塚遺跡台山地点でも、埋甕を伴った縄文前期の竪穴住居2件が検出されている。縄文時代中期末～後期前半の遺構が確認できているのは中原遺跡で、その立地は藪塚町生品神社境内付近（低湿地帯付近）に位置し、敷石住居が検出されている。縄文時代晩期の典型的な遺跡としては、石之塔遺跡が有名である。この遺跡は中原遺跡の北（低湿地帯付近）に位置する微高地に立地し、1986年の発掘調査では全面発掘ではないのに大量の遺物が出土（遺物整理箱500以上）し注目を集めた。これらの遺物のほとんどは縄文時代後期～晩期の遺物であり、土製耳飾、岩版、土偶、石棒、石製垂飾などの遺物が数多く見つかった。特に土製耳飾は桐生市千網谷戸遺跡のものに酷似しており、遺跡の性格にも共通点が伺える。この他に多量の石錘や焼かれた多量の獣骨などが出土している。

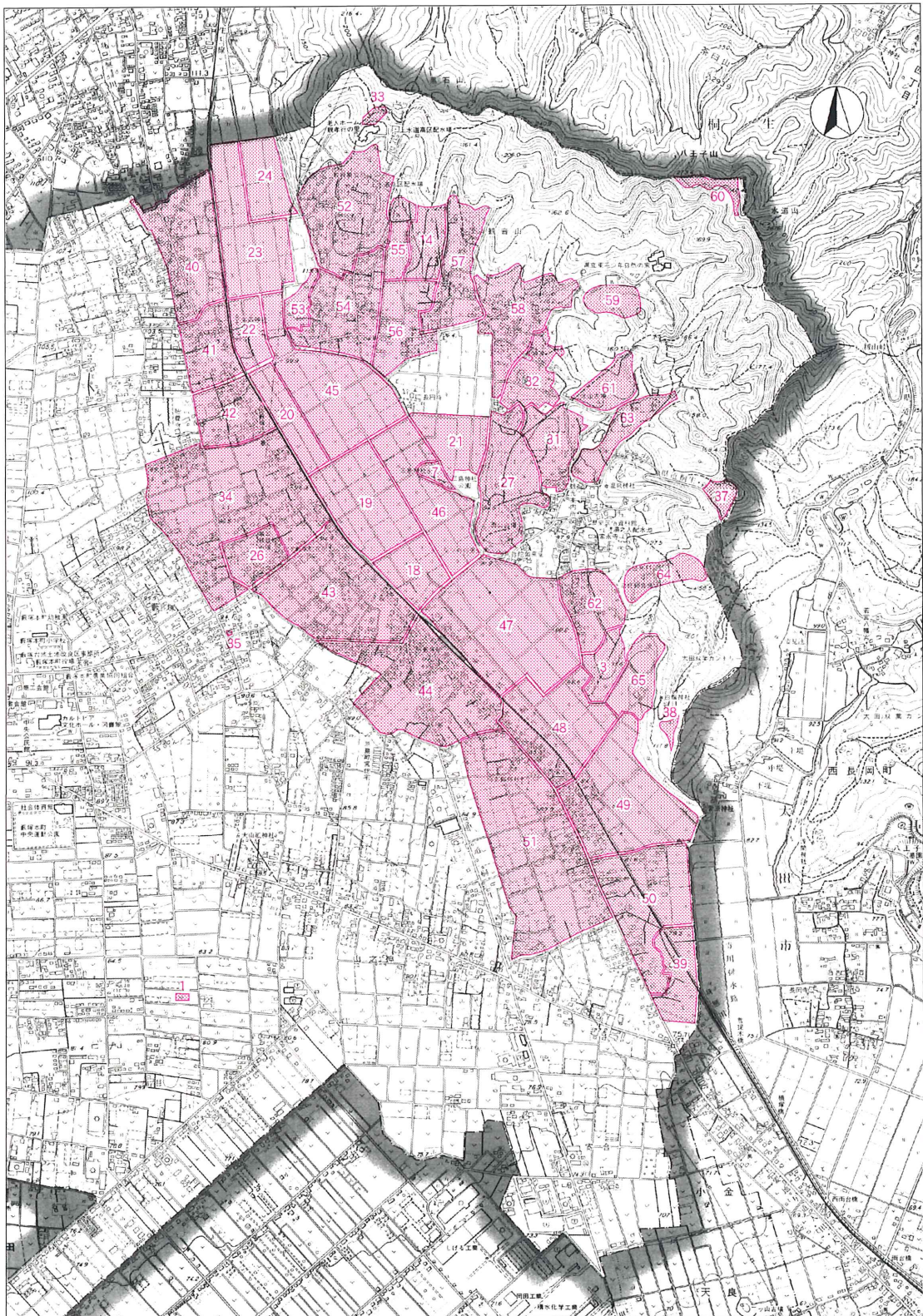
＜弥生時代＞ 弥生時代については、平成17年に調査された西野原遺跡で住居の一部が検出されているだけで、その他の遺跡としては2遺跡より遺物の出土が確認されている。このうち滝之入前遺跡においては壺1点（文様は樽式土器の終末期の様相）が確認されており、三島神社の西（低湿地帯付近）に立地する元屋敷遺跡では、1982年の藪塚本町教育委員会の発掘調査によって壺1点（器形と文様から竜見町式とみられるが、南関東の影響も強く受けたものと考えられる）が確認されているのが現状である。

＜古墳時代＞ 古墳時代の遺構としては、主として尾根先端部に集中して造られる古墳群の存在が目立つ。その中の西山古墳は、八王子丘陵西斜面の尾根先端部に立地し、規模は全長34mの前方後円墳として知られている。この古墳の石室は、袖無型横穴式石室あり周辺では埴輪片が採取されている。構築年代は6世紀後半と推定されており、湯之入古墳群の主墳的な存在と考えられている。発掘調査は1949年に群馬大学が測量調査を実施し、1960年に群馬大学が石室延長線上を発掘調査して埴輪列を確認している。

北山古墳は八王子丘陵西斜面尾根上に立地する古墳で、直径が22mの円墳で、両袖型横穴式石室をもつものである。その石室は旧大胡町の堀越古墳と酷似している。構築年代は7世紀前半と推定されており、1949年に群馬大学が測量調査を実施している。向山古墳は八王子丘陵の南西に延びる支脈の末端に位置する諏訪山古墳群に属しており、1983年の調査で自然石乱石積袖無型横穴式石室が確認され、副葬品（須恵質長頸壺、長刀2、鞘元金具3、刀子4、鏢2、鉄鎌4、轡など）が数多く出土している。構築年代は7世紀中葉と考えられている。

＜奈良・平安時代＞ 奈良・平安時代の特筆すべき遺跡としては、1985～1986年に藪塚本町教育委員会で調査した台之原廃寺が挙げられる。発掘調査では礎石、基壇、柱穴などは確認されなかったが、軒平瓦、軒丸瓦、丸瓦、平瓦などが多数検出され、その他に「瓦塔」が出土し、瓦溜りの状態から推定して、その規模は東西24尺（約7.2m）、南北21尺（約6.3m）の堂的なものと推測されている。基壇は地表を削って造ったものと思われ、創建の時期は8世紀中頃と推定されている。また、瓦についてはその成形や焼成から、鹿ノ川窯と山際窯の製品と考えられている。

＜中世・近世＞ 中・近世については、元屋敷遺跡が挙げられる。この遺跡は「元屋敷」という地名や位置から藪塚氏の居館があったものと推定されており、江戸時代初期には「胎養寺」という寺があったと伝えられている。遺跡の調査では、室町期の墓坑14基、古銭11枚が検出されている。また、鎌倉時代から江戸時代にかけての五輪塔片が多数出土している。



旧藪塚本町遺跡分布地図（東部地区）

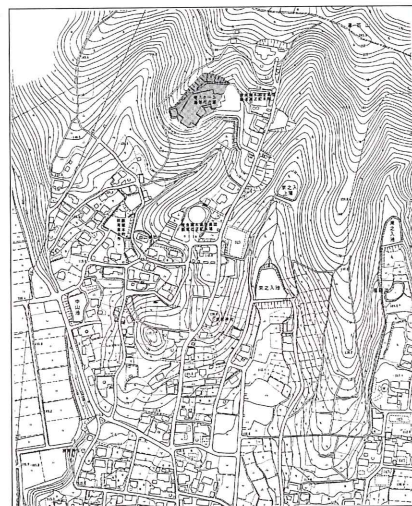
旧藪塚本町遺跡一覧表（平成16年度版）

市道 番号	遺 跡 名	よみがな	時 代	縄 文	弥 生	古 墳	平 安	近 世	種 別	現 況	調 査 歴	関 連 文 献	備 考
1	野田遺跡	のでんいせき	縄文	○					散布地	畑地			
2	つつじ山遺跡	つつじやまいせき	旧石器、縄文	○	○				散布地、集落	畑地	昭和25年明治大学調査		
3	岩崎遺跡	いわざいせき	縄文	○					散布地	畑地、山林、道路			
4	諏訪山遺跡	すわやまいせき	縄文、古墳	○	○				散布地	畑地、山林			
6	榎木八幡遺跡	えのきはちまんいせき	古墳			○			散布地、集落	宅地、畑地	昭和27年群馬大学調査		
7	三島神社境内遺跡	みしまじんじやけいだいせき	古墳			○			散布地、集落	山林	昭和25年國學院大學・群馬大学調査		子持も勾玉出土、歴史民俗資料館
8	西山古墳	にしやまこふん	古墳			○			古墳	山林	昭和24年群馬大学調査		円筒埴輪列
9	北山古墳	きたやまこふん	古墳			○			古墳	山林	昭和24年群馬大学調査		
10	街道橋古墳	かいどうばしこふん	縄文～古墳	○	○	○			散布地、古墳	水田、道路	昭和26年群馬大学調査		陶棺出土
12	牛之塔遺跡	うしのとういせき	中世					○	墓その他	宅地、道路	昭和52年移転調査		竹管の宝篋印陀羅尼經出土
13	長土手遺跡	ながどていせき	縄文	○					散布地	畑地			
14	東台山遺跡	ひがしだいやまいせき	縄文	○					散布地	畑地、山林、道路			
15	地蔵山下遺跡	じぞうやまたいせき	古墳			○			散布地	宅地、畑地、保存地域			
16	割次遺跡	わりざいせき	縄文	○					散布地	宅地、その他			
17	三区西浦遺跡	さんくにしうらいせき	縄文	○					散布地	宅地、道路			
18	薬師前遺跡	やくしまいせき	古墳～中世			○	○	○	集落、墓、その他	水田、道路	昭和56年11月16日～昭和57年1月19日調査	薬師前遺跡報告書	
19	元屋敷遺跡	もとやしきいせき	縄文～中世	○	○	○	○	○	集落、墓、その他	水田、道路	昭和57年5月6日～9月7日調査	元屋敷遺跡報告書	
20	六地藏遺跡	ろくじぞういせき	古墳～平安			○	○	○	集落、墓、その他	水田、道路	昭和58年6月17日～8月31日調査	六地藏遺跡概報	
21	滝之入前遺跡	たきのいりまいせき	縄文～平安	○	○	○	○	○	集落、生産遺跡	畑地、道路	昭和59年6月11日～8月31日調査	滝之入前遺跡報告書	
22	中原遺跡	なかはらいせき	縄文～奈良	○	○	○	○		散布地、集落、生産遺跡	水田、道路、原野	昭和60年5月22日～8月31日調査	中原遺跡概報	町指定「生品神社敷石住居跡」を含む
23	石之塔遺跡	いしのとういせき	縄文～平安	○	○	○	○		散布地、集落、墓、その他、生産遺跡	水田、道路	昭和61年4月21日～8月30日・9月10日～12月15日調査	石之塔遺跡概報	
24	堂ノ下遺跡	どうのしたいせき	縄文、平安	○			○		散布地、生産遺跡	水田、道路	昭和62年6月21日～8月31日調査		
25	向山古墳	むかいやまこふん	縄文、古墳	○	○				散布地、古墳	宅地、畑地	昭和58年2月28日～3月10日調査	向山古墳報告書	
26	台之原廃寺跡	だいのはらはいしあと	古墳、奈良・平安			○	○	○	散布地、集落、墓、その他	畑地	昭和59年10月15日～12月26日・昭和60年12月2日～26日調査	台之原廃寺跡概報1・2	
27	湯坂道遺跡	ゆざかみちいせき	縄文、古墳	○	○				散布地、古墳	宅地、畑地、山林、道路			多数の石斧が出土
28	台山Ⅰ遺跡	だいやまいちいせき	縄文	○					集落	山林	群馬大学調査（調査時期不明 s24～26か？）		町誌掲載の「台山遺跡」とは異なる
29	藪塚遺跡台山地点	やぶづかいせきだい やまちてん	旧石器、縄文、古墳	○	○	○			集落、生産遺跡	その他	昭和63年12月6日～平成1年4月9日 藪塚遺跡台山地点発掘調査団（明治大学・群馬県・藪塚本町）	藪塚遺跡台山地点発掘調査報告書	町誌掲載の「台山遺跡」のこと
30	木戸海道Ⅰ遺跡	きどかいどういちいせき	縄文、平安	○			○		散布地、集落	宅地、その他	昭和58年度調査		
31	湯之入古墳群	ゆのいりこふんぐん	古墳			○			古墳	宅地、畑地、山林、道路			
32	諏訪山古墳群	すわやまこふんぐん	古墳			○			古墳	宅地、畑地、山林、道路			
33	つつじ山Ⅱ遺跡	つつじやまいにせき	縄文	○					集落	宅地、その他	平成13年7月31日～8月24日調査		
34	萩林遺跡	はぎばやしせき	縄文、古墳～平安	○	○	○	○		散布地、集落、古墳	宅地、畑地、道路	平成14年3月19日～3月30日調査		
35	十輪寺跡遺跡	じゅうりんじあといせき	近世					○	社寺、墓、その他	宅地	平成14年6月17日～7月5日調査		
36	木戸海道Ⅱ遺跡	きどかいどうにいせき	古墳、平安			○	○		散布地、集落、墓、その他	宅地	平成15年10月8日～10月20日調査		
37	雷電山帯跡	らいでんやまとりであと	中世					○	その他（城館）	山林			2市町に跨るため、太田市と協議の上、位置を整合した
38	西長岡天神山古墳群	にしながおかてんじんやまこふんぐん	古墳			○			古墳	山林			2市町に跨るため、太田市と協議の上、位置を整合した
39	西野原遺跡	にしのはらいせき	縄文～古墳、平安、近世	○	○	○	○	○	集落、古墳、生産遺跡	その他			2市町に跨るため、太田市と協議の上、位置を整合した
40	中原上遺跡	なかはらかみいせき	中世					○	墓その他	宅地、畑地、道路			2市町に跨るため、太田市と協議の上、位置を整合した
41	中原中遺跡	なかはらなかいせき	古墳、近世			○		○	古墳、墓その他、その他（用水跡）	宅地、畑地、道路			
42	中原下遺跡	なかはらしもいせき	縄文、古墳～平安	○	○	○	○		散布地	宅地、畑地			
43	木戸海道遺跡	きどかいどういせき	縄文、古墳～中世	○	○	○	○		散布地、集落	宅地、畑地、道路、その他			
44	三島遺跡	みしまいせき	中世					○	墓その他	宅地、畑地、道路			
45	新井前遺跡	あらいまいせき	縄文、古墳	○	○				散布地	水田、道路			
46	三島前遺跡	みしままいせき	縄文、古墳	○	○				散布地	水田、畑地、道路			
47	八石遺跡	はちこくいせき	縄文～平安	○	○	○	○		散布地、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
48	西野東上遺跡	にしひがしかみいせき	縄文～平安	○	○	○	○		散布地、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
49	西野東中遺跡	にしひがしなかいせき	縄文～平安	○	○	○	○		散布地、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
50	西野東下遺跡	にしひがししもいせき	縄文～平安	○	○	○	○		散布地、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
51	西野西遺跡	にしにしいせき	縄文	○					散布地	宅地、畑地、道路			
52	台山遺跡	だいやまいせき	旧石器、縄文、古墳～中世	○	○	○	○	○	散布地、集落、社寺、古墳	宅地、畑地、山林、道路	昭和25年調査他		
53	不動山遺跡	ふどうやまいせき	古墳、近世			○		○	散布地、古墳	宅地、畑地			
54	台遺跡	だいいせき	古墳			○			古墳	宅地、畑地、山林、道路			
55	京之入遺跡	きょうのいりいせき	中世					○	社寺	宅地、水田、畑地、山林			
56	台東遺跡	だいはがしいせき	古墳、中世			○		○	社寺、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
57	滝之入遺跡	たきのいりいせき	縄文、古墳	○	○				散布地、古墳	宅地、水田、畑地、道路			
58	滝之入東遺跡	たきのいりひがしいせき	古墳			○			散布地	宅地、畑地、山林、道路			
59	アキヤダナ遺跡	あきやだないせき	古墳、中世			○		○	古墳、その他（館跡）	山林			
60	八王子遺跡	はちおうじいせき	中世、近世					○	社寺、その他（砦）	山林			
61	北山古墳群	きたやまこふんぐん	古墳			○			古墳	宅地、山林	昭和24年群馬大学調査		
62	湯ノ入前遺跡	ゆのいりまいせき	縄文	○					散布地	宅地、畑地、山林、道路			
63	湯ノ入東遺跡	ゆのいりひがしいせき	中世、近世					○	散布地、墓、その他、生産遺跡	宅地、畑地、山林、道路			板碑出土
64	蛸影山古墳群	こかげさんこふんぐん	古墳			○			古墳	宅地、畑地、山林、道路			
65	谷遺跡	やついせき	縄文	○					散布地	宅地、水田、畑地、山林、道			

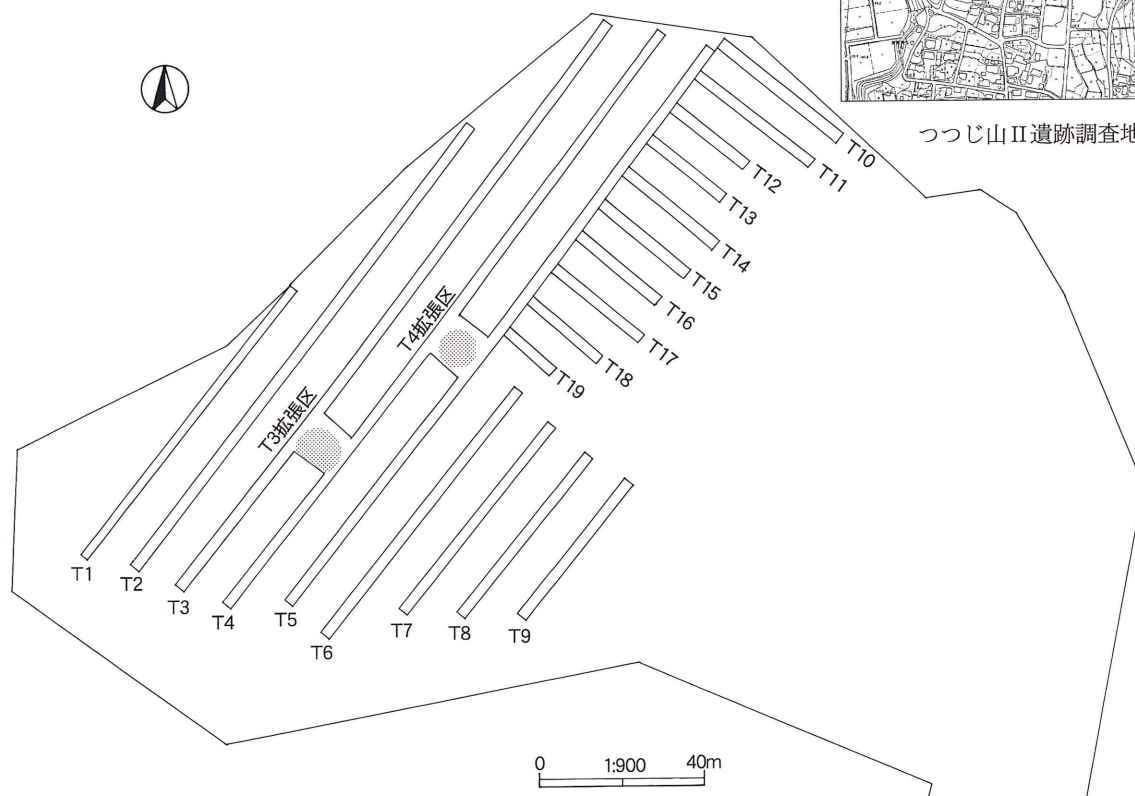
第4章 調査を実施した遺跡の概要

1. つつじ山Ⅱ遺跡 (No.1)

つつじ山Ⅱ遺跡は、旧藪塚本町においては最北端に位置する。今回の申請地点は、「つつじ山遺跡」のさらに北に上った尾根上に位置することから「つつじ山Ⅱ遺跡」として調査を実施した（地元では沢ノ山と呼ばれている）。近接する遺跡としては、つつじ山遺跡と同じ尾根上に台山遺跡（旧石器～縄文時代・古墳時代～中世の集落および古墳）があり、縄文時代前期の住居跡が検出されている。つつじ山遺跡においても、昭和20年の発掘調査では、縄文時代前期の集落が検出されている。今回の調査地点はそこから更に標高の高い地点ではあったが、遺跡が所在する可能性を考慮し試掘調査を実施した。開発対象の事業内容は、養護老人施設の建設という比較的大規模な公共工事であり、旧藪塚本町教育委員会でも比較的大規模な調査となったため、前担当者の指導のもと確認調査を実施した。開発対象地は9,947㎡であったが、勾配のきつい急斜面を含むもので、切り盛土による整地工事が計画されていたため、急斜面部分については遺構が所在しないと判断して、調査対象地から除外した。また、調査後のトレンチについては、豪雨の際に土砂災害の危険もあるため調査後すみやかに埋め戻した。トレンチは南北方向に9本（西からT1～T9）、東西方向に10本（南からT10～T19）設定し、土層の堆積状況を確認しながら表土除去を行った。傾斜地であったためトレンチ内の高低差は著しく、最高で15mにもおよぶトレンチがあった。調査の結果、縄文時代前期の土器片や石器がトレンチ3・4の2か所で確認され、焼土も2か所で検出された。そのため拡張区を2か所設定し、その範囲確認



つつじ山Ⅱ遺跡調査地点



つつじ山Ⅱ遺跡トレンチ配置図



南東部全景



南西部全景



南側斜面全景



T 2 ・ T 3 全景



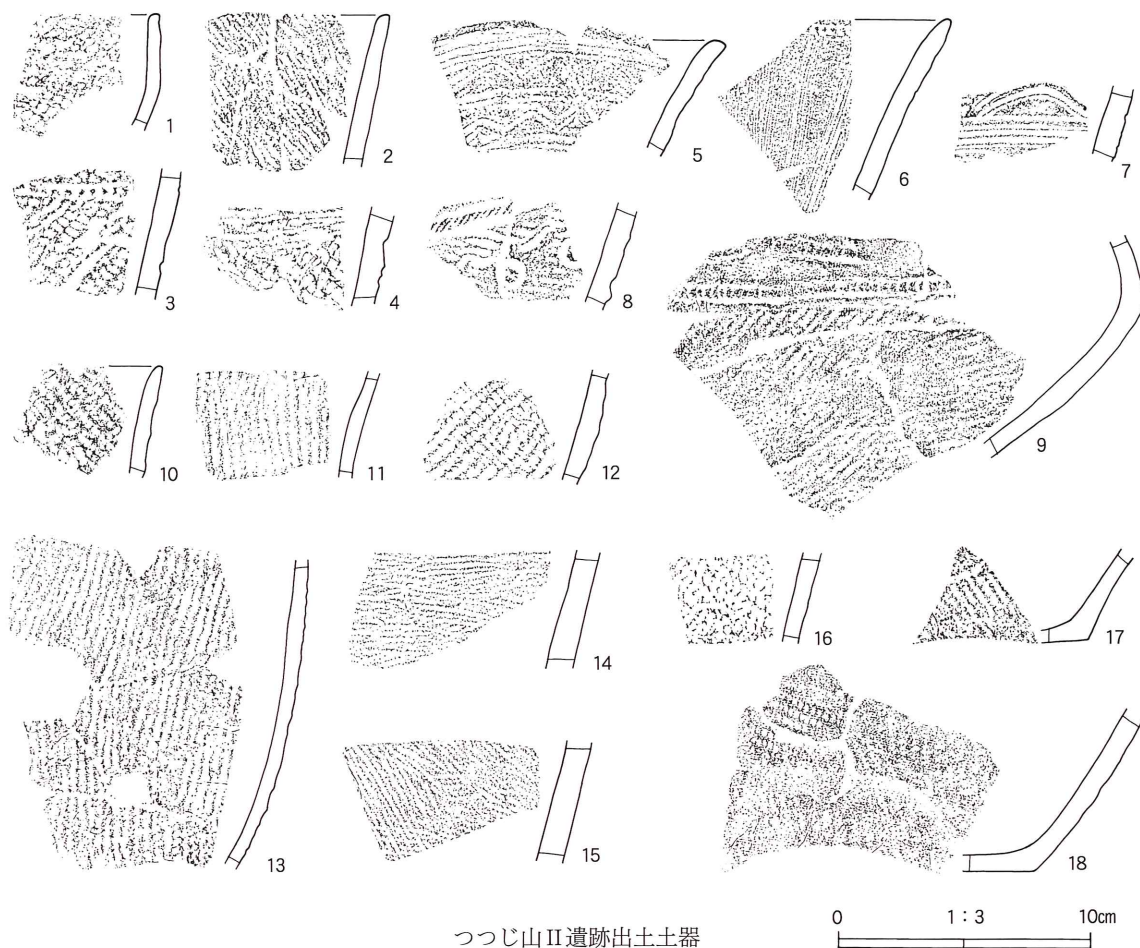
土層確認状況



T 1 土層確認状況



T 4 拡張区全景 (西から)



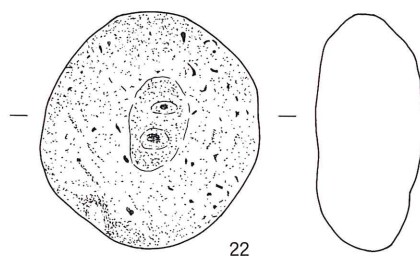
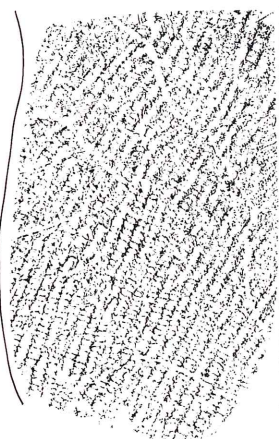
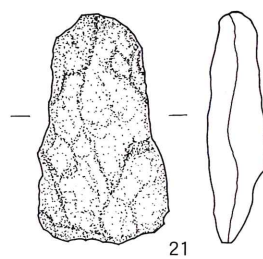
つつじ山Ⅱ遺跡出土土器

に努めた。これによってトレンチ 4 の東側で住居跡 1 軒が確認された。確認調査後、この結果を踏まえて事業者と協議し、工事前に本調査を実施することとなった。(本調査の結果、縄文時代前期の住居 2 軒と土坑 3 基が検出された。)

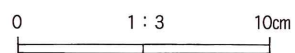
<トレンチ・拡張区出土の土器>

1～4 は胎土に繊維を含む黒浜式土器である。1・2 は口辺部破片で、1 は原体LRの単節縄文、2 は無節の縄文が施されている。3・4 は胴部破片で、3 は原体RLの縄文を地文として横位の連続爪形文を 1 条施している。4 は横位の撚糸の下に粗い無節の縄文を施している。5～9 は諸磯式土器である。5・6 は口縁部破片で、5 は口辺部を外反させ、細い竹管による平行沈線間に同工具を用いた波状沈線を施している。6 はハケ状工具による縦位の地文を施し、口縁直下に 1 条の連続爪形文を施している。6 は、横位に直線と半弧状の平行沈線が施されている。8 は地文に縄文を持ち、横位に 1 条の紐線文を貼り付け、その上から斜めの刻みを施している。また、竹管による円形刺突文を等間隔に施す。9 は「くの字状」に屈曲する胴部破片で、屈曲部より下に縄文の地文を施し、その上には連続爪形文を 2 条平行して施している。5 は灰赤色、9・12 は明赤褐色を呈し、他と比べて赤みを帯びている。5～7 が諸磯 a 式、6・7 が諸磯 b 式に比定される。10～18 は繊維を含まない土器片で、14・15 は地文に細縄文が施され、17・18 は最下部にまで縄文を施してある底部破片である。いずれも諸磯期の遺物と思われる。

19・20 は拡張区の表土除去の際に検出された深鉢形土器で、地文に縄文を施し胎土に繊維を含む黒浜式土器であり、埋甕炉として使用されていた可能性が高い。21 は砂岩製の打製石斧、22 は安山岩製の凹石である。



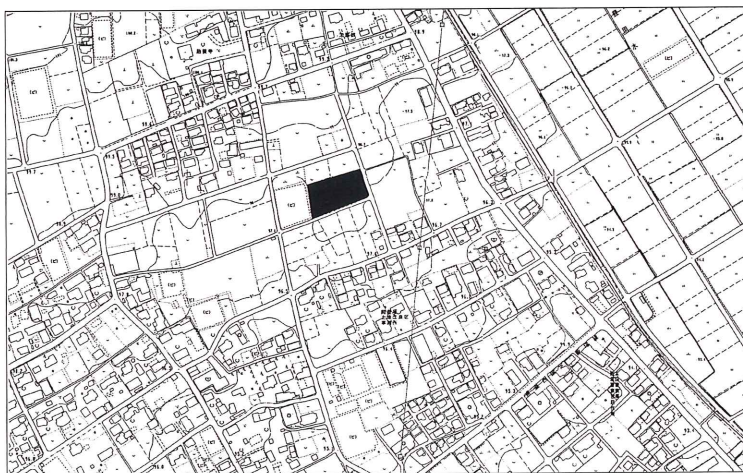
つつじ山Ⅱ遺跡出土遺物



つつじ山Ⅱ遺跡出土遺物

2. 萩林II遺跡 (No.3)

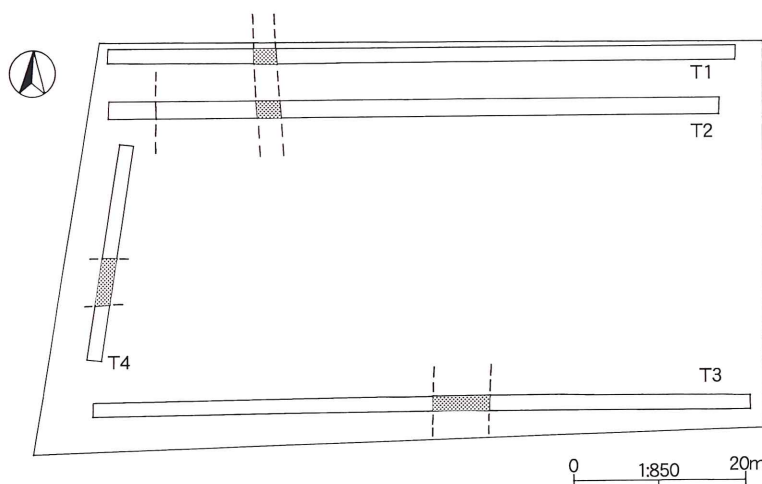
萩林II遺跡は遺跡分布図で見ると、東側の遺跡集中地区においてはほぼ中央部で、東武鉄道の西側に位置する。この辺りは東武線を境として西側が大間々扇状地上となるため乾燥した地区であり、集落を営むうえでは生活条件の厳しい地区と言える。周辺の遺跡としては、南側に平安時代の台之原廃寺跡が隣接し、南東方向には木戸海道遺跡、東側には縄文時代～近世の元屋敷遺跡、北東方向には六地藏遺跡、北には中原下遺跡などがあり、西側には水源が求められないため、隣接する遺跡は存在しない。遺跡の規模は、東西方向約550m、南北方向約550mの方形状を呈する。萩林II遺跡は、小字「萩林」を6地域に分けてそのII区に当てることから、II遺跡としたが、地図の改定に伴い現在では「萩林遺跡」として扱っている。今回開発申請の対象となった地点は、台之原廃寺跡に近接する場所で、対象地東部より瓦塔片が表採されており、以前から多量の須恵器・土師器片が表面採集で確認されている地点であった。そのため、宅地造成が計画されたことを受けて試掘調査を実施した。試掘した結果、申請地はゴボウのトレンチャー（深さ2mほど）により、かなり攪乱されていることが判明した。T1・T2においては、南北に連なる礫が帯状に確認され、その広がりをもT3において確認したが、見つけることはできなかった。T2西端の2～4mの地点に焼土とその小片が出土したため、調査地西端に南北のトレンチ（T4）を設定した。その結果、T1西端には3軒（古墳時代2軒、奈良・平安時代1軒）の重複した住居、T2西端部およびT4には奈良・平安時代の住居が1軒ずつ確認された。この他に、古墳時代の溝1条が確認された。出土品には鉄製品（農具？）、鉄屑、土製紡錘車などが見られた。



萩林II遺跡調査地点



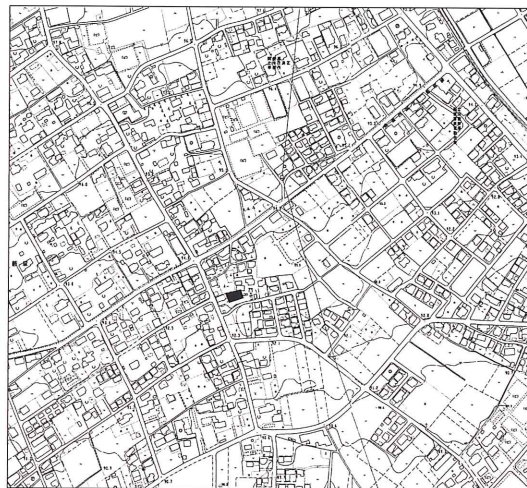
T4遺構確認状況（南から）



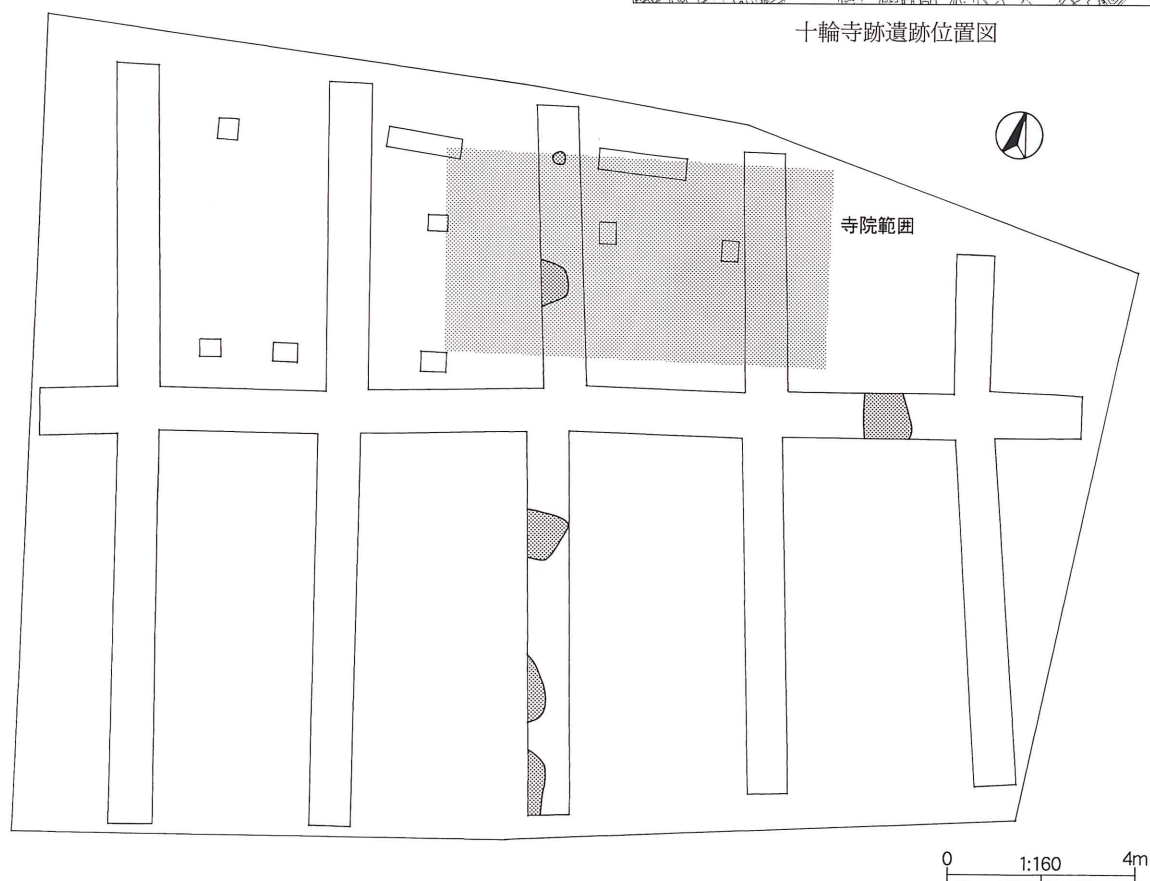
萩林II遺跡トレンチ配置図

3. 十輪寺跡遺跡 (No.4)

十輪寺跡遺跡は、前述した萩林II遺跡の南側、台之原廃寺より300mほど南南西の地点に位置する。東側には木戸海道遺跡があり、さらにその南東部には三島遺跡が所在する。この遺跡は、地元で江戸時代に「十輪寺」という寺院が存在したと伝えられている寺院跡であり、大間々扇状地上でかなり西側に位置することから、他の時代の遺跡は所在していない。開発内容は旧地区集会所の建て直しであったため、寺院関連遺構の確認を目的として試掘調査を実施した。現況は砂利敷きであったため、表層の砂利撤去後にトレンチ掘りを行った。集会所で利用する以前は大半が畑であったため、耕作による攪乱が進行しており、遺物包含層や遺構の保存状態は極めて悪かった。その結果、江戸時代の掘立柱建物(1軒)、土坑2基、ピット1基、近代の土坑5基が確認された。遺物については、江戸時代と思われる瓦片、磁器片、かすがいなどが検出された。調査時のトレンチの断面には、浅間A軽石を多く含む場所とほとんど含まない場所あり、寺院の構築年代から判断して浅間A軽石をほとんど含まない場所を確認して「寺院の範囲」と考えた。調査の結果、寺院の規模は間口5間、奥行が2間か2間半の建物であることが判明した。調査終了後、埋め戻す前に地元住民に対して現地説明会を実施した。



十輪寺跡遺跡位置図



十輪寺跡遺跡遺構配置図



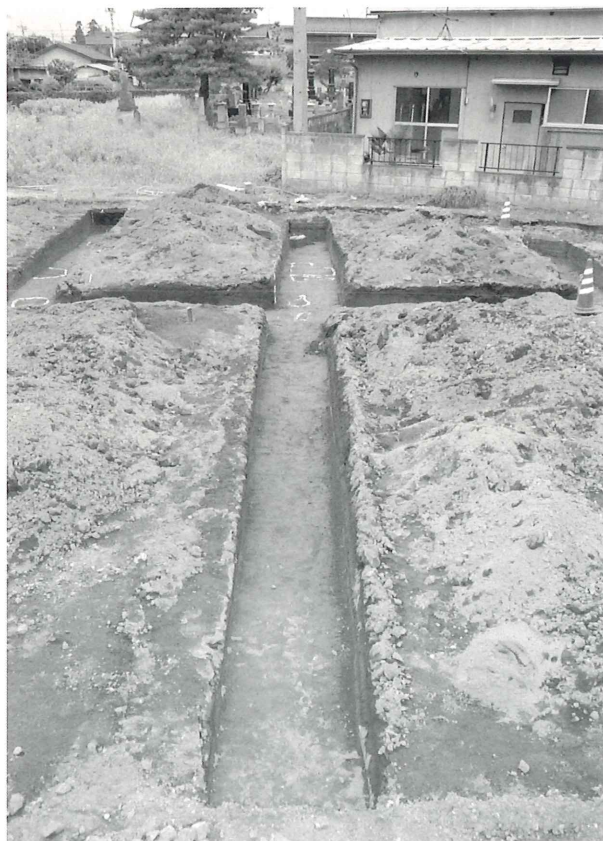
調査地区全景（南西より）



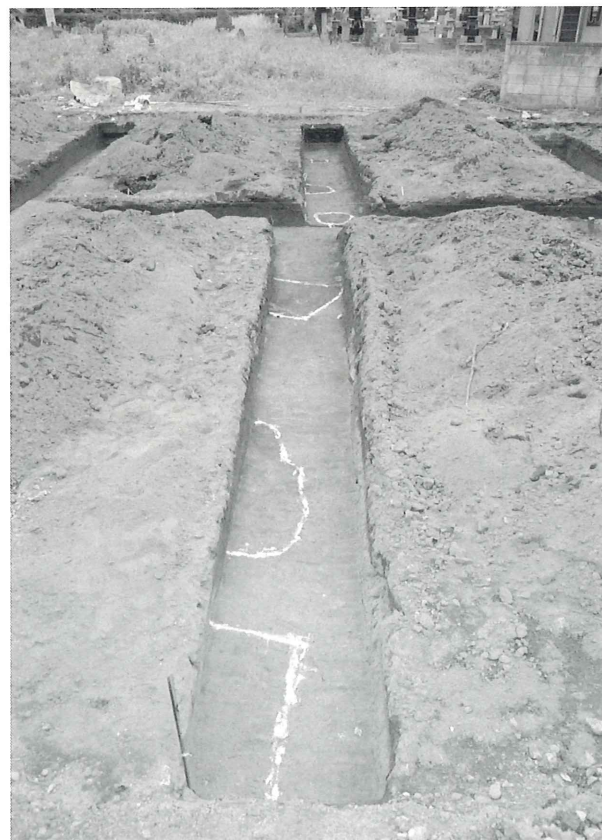
掘立柱確認状況



東西トレンチ全景



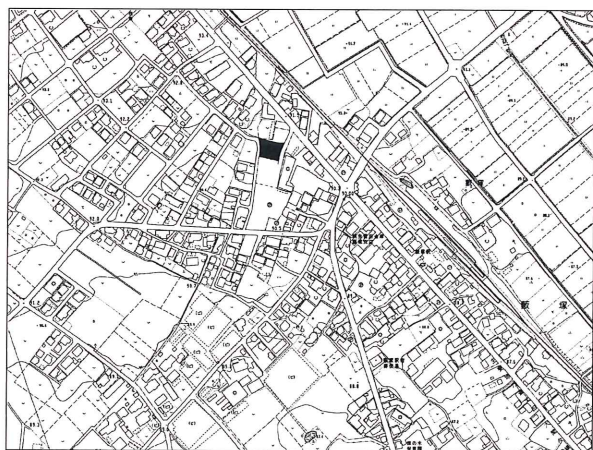
南北トレンチ遺構確認状況



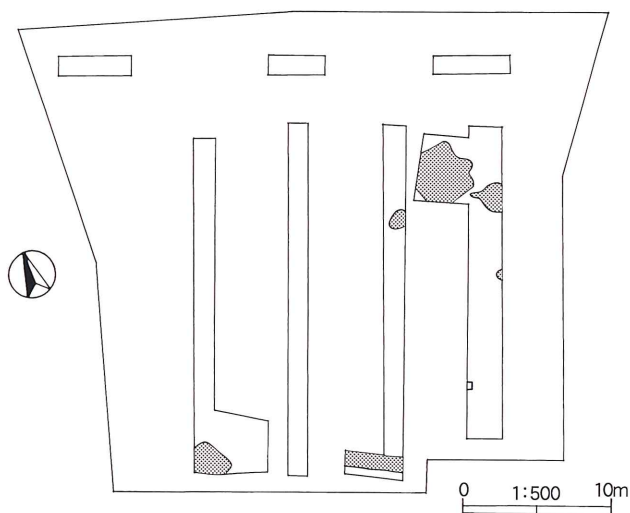
遺構確認状況（南から）

4. 木戸海道II遺跡 (No.7)

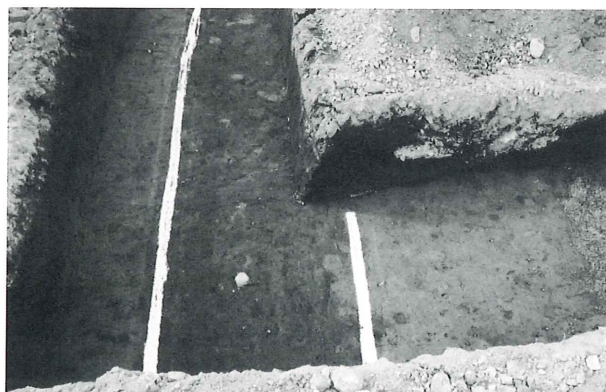
木戸海道遺跡は、前述した萩林遺跡の南東に隣接し、十輪寺跡遺跡の東側に位置する。地形的には大間々扇状地の東端に位置し、萩林遺跡よりは水源地を近くに求めることができる。遺跡の位置は、萩林遺跡と同様に東武鉄道の西側に広がりを持ち、南東部には三島遺跡（中世の墓跡）、東部には南から順に八石遺跡（縄文～平安時代の散布地および古墳）、薬師前遺跡（古墳～中世の集落）、北東部には元屋敷遺跡（縄文時代～中世にかけての集落）が存在する。遺跡の規模は東西約600m、南北約450mの不整形となっている。木戸海道遺跡は縄文時代・古墳時代～中世にかけての集落が存在することで知られている遺跡で、木戸海道I遺跡は昭和58年度に発掘調査がされている。その時には縄文式土器の破片と平安時代の遺構が確認されている。今回のII遺跡はこれに続く2か所目の調査区であり、木戸海道I遺跡の北側に隣接する。開発の原因は賃貸住宅の建設であったため、試掘調査を実施した。トレンチは南北方向に4本、東西方向に3本設定し、遺構が確認された箇所については、プラン確認のため拡張した。申請地は直前まで駐車場であったが、それ以前は空き地であったため、ゴミ穴等による攪乱が多数確認された。T1の北端で焼土が確認されたため西側へ拡張し、平安時代の土器や鉄製品、住居跡が検出された。また、焼土付近には一部が西へ伸びる井戸跡らしきものも確認された。T2の南端には東西に伸びる溝状遺構を検出したが、T3、T4ではゴミ穴等の攪乱によりその規模は確認できなかった。T4の南端には火をうけた礫が並び、古墳時代の土器と竪穴住居が確認されたため東側へ拡張した。調査の結果、古墳時代の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒、時期は不明であるが、井戸1基、土坑2、溝状遺構1条が確認された。



木戸海道II遺跡位置図



木戸海道II遺跡遺構配置図



溝確認状況（東から）

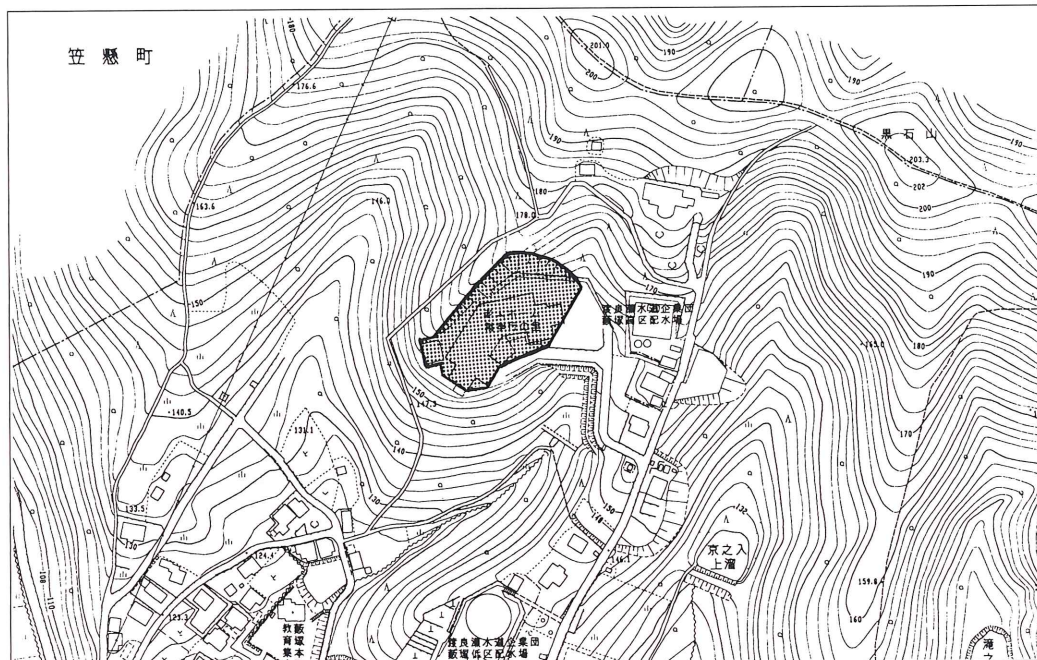


遺構確認状況（南から）

第5章 試掘・確認調査の概要

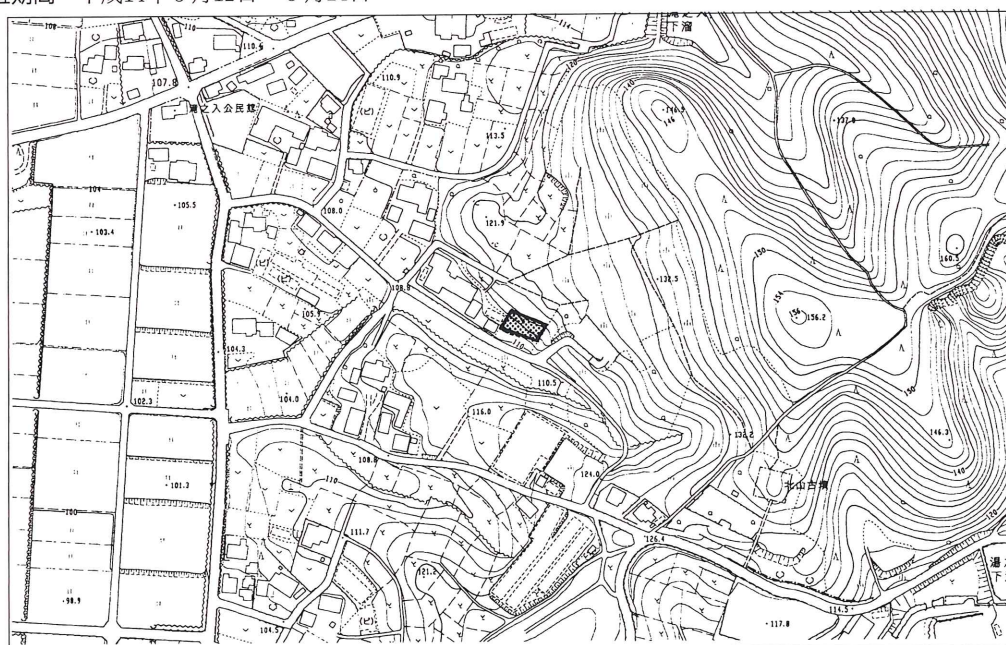
1. つつじ山Ⅱ遺跡

- ① 所在地 太田市藪塚町台山他
- ② 調査面積 760㎡ (対象面積9,947㎡)
- ③ 調査原因 特別養護老人ホーム建設
- ④ 調査期間 平成13年7月31～8月24日
- ⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを北東-南西方向に9本、北西-南東方向に10本設定し、重機によりローム層下面(約80～120cm)まで掘り下げた。
- ⑥ 調査結果 住居1軒、土器2個体、石器。(発掘調査を実施)詳細は第4章。



2. 滝之入山周辺遺跡

- ① 所在地 太田市藪塚町滝之入山他
- ② 調査面積 117㎡ (対象面積842㎡)
- ③ 調査原因 個人専用住宅
- ④ 調査期間 平成14年3月12日～3月14日
- ⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを南北方向に6本、その南に東西方向に1本設定し、遺構確認面(ローム面)まで掘り下げた。
- ⑥ 調査結果 遺物、遺構なし。



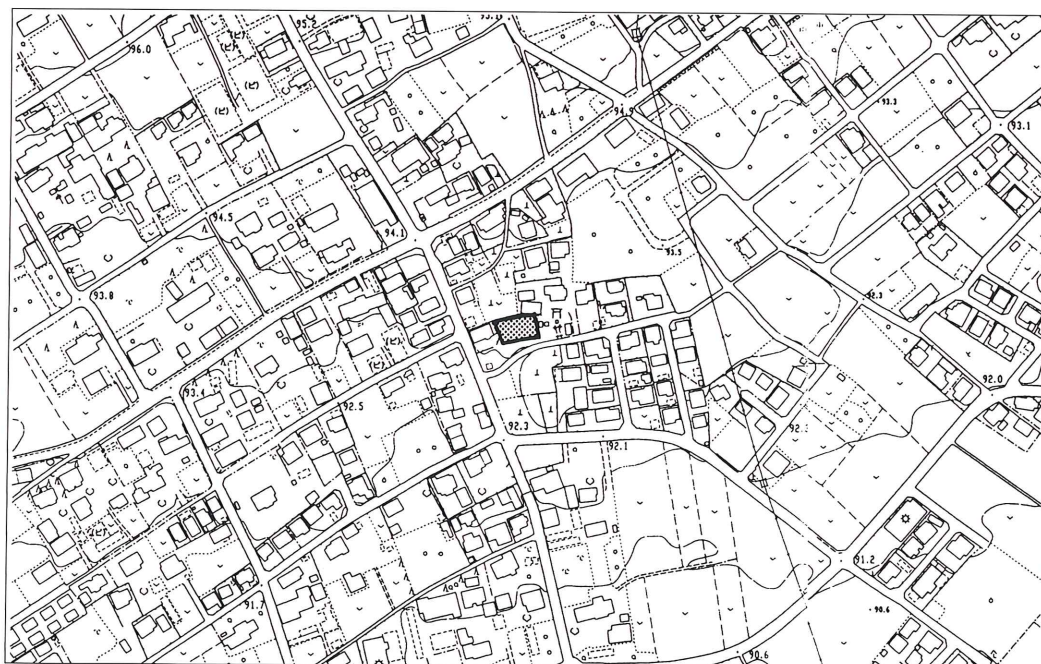
3. 萩林Ⅱ遺跡

- ① 所在地 太田市藪塚町萩林他
 ② 調査面積 240㎡ (対象面積3,135㎡)
 ③ 調査原因 宅地造成
 ④ 調査期間 平成14年3月19日～3月30日
 ⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを東西方向に3本、西端に南北方向に1本設定し、遺構確認面(ローム面)まで掘り下げた。
 ⑥ 調査結果 住居5軒、溝、土器片、鉄製品、鉄屑、土製紡錘車。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



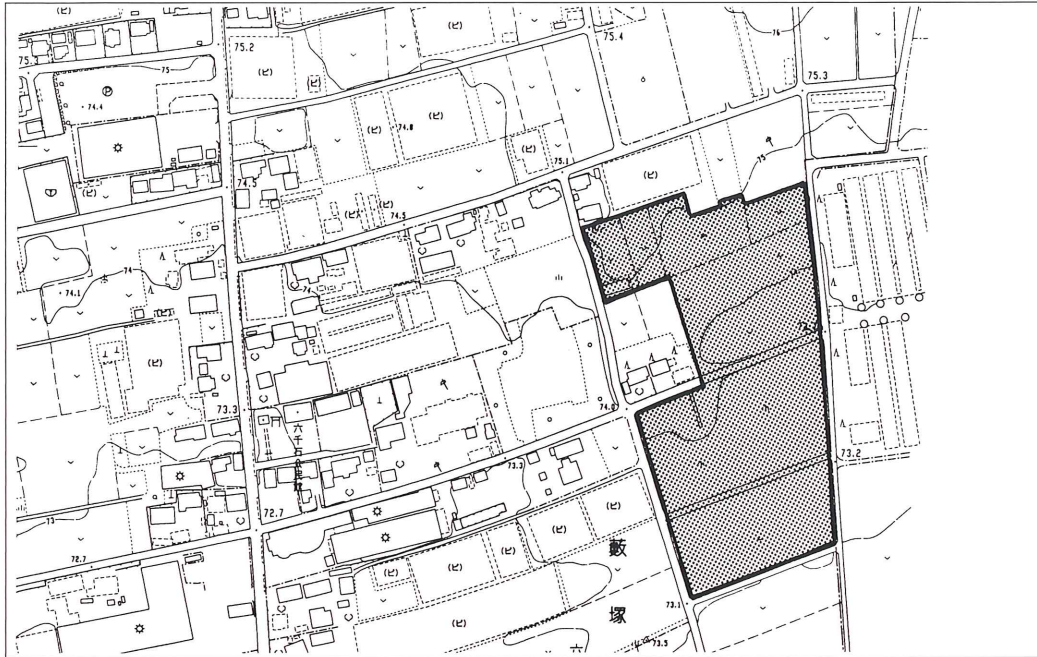
4. 十輪寺跡遺跡

- ① 所在地 太田市藪塚町杉塚他
 ② 調査面積 102㎡ (対象面積419㎡)
 ③ 調査原因 地区公民館建設
 ④ 調査期間 平成14年6月17日～7月5日
 ⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを南北方向に6本、東西方向に1本設定し、遺構確認面(ローム面)まで掘り下げた。
 ⑥ 調査結果 掘立1軒、土坑。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



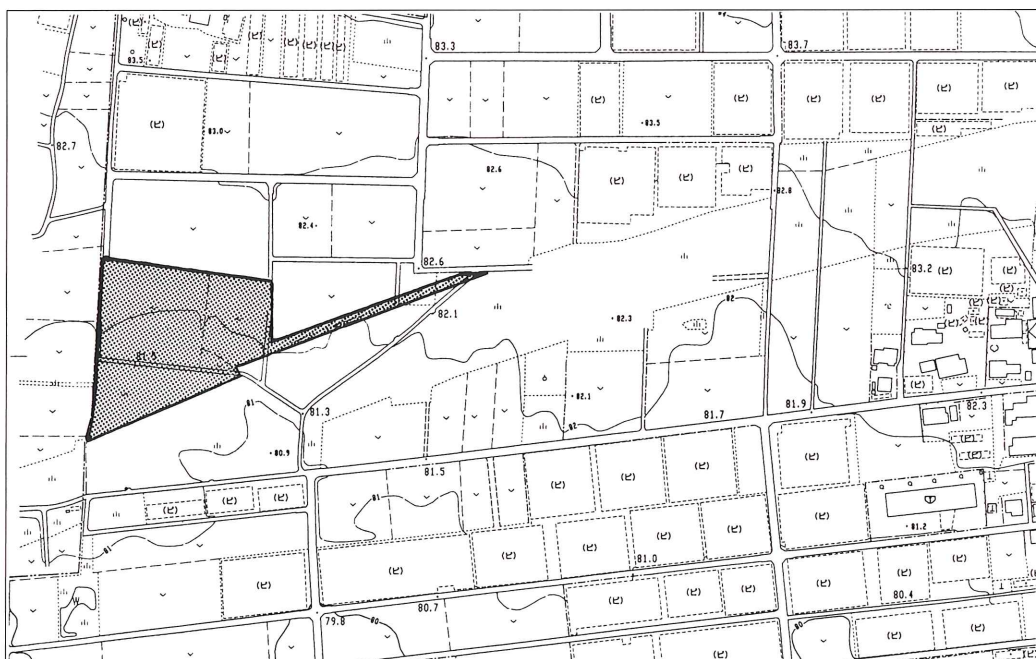
ひがしうら
5. 東浦Ⅰ遺跡

- ① 所在地 太田市六千石町東浦他
② 調査面積 2,163㎡(対象面積28,094㎡)
③ 調査原因 遊水池造成
④ 調査期間 平成14年7月15日～7月29日
⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを東西方向に28本設定し、ローム面(約30～50cm)まで掘り下げた。
⑥ 調査結果 遺物、遺構なし。



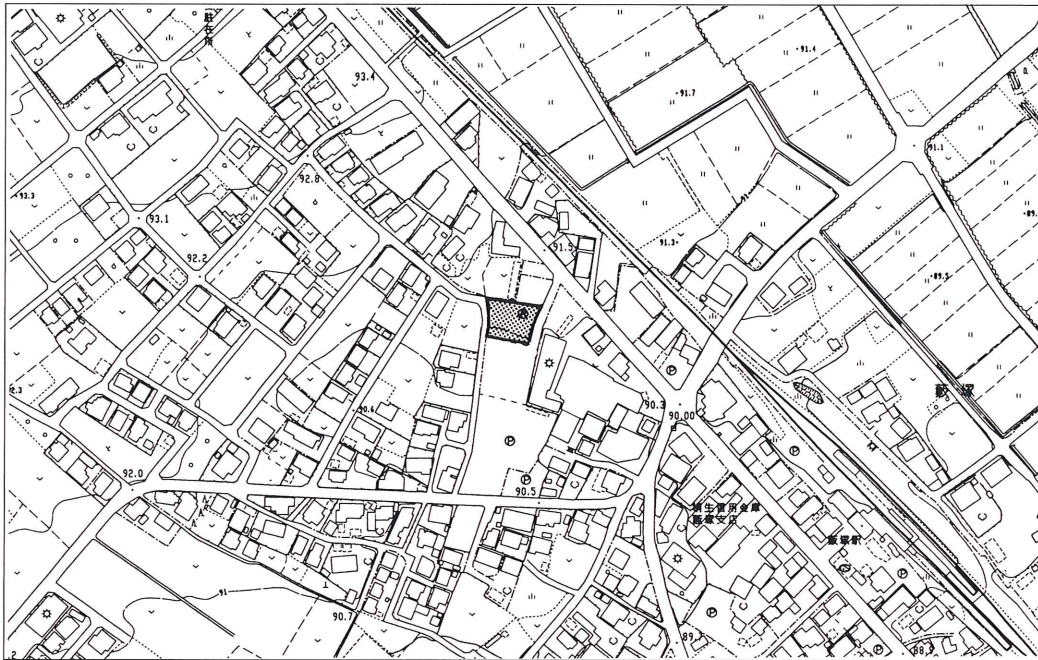
ろくちょう
6. 鹿聴Ⅰ遺跡

- ① 所在地 太田市大久保町鹿聴他
② 調査面積 1,128㎡(対象面積11,049㎡)
③ 調査原因 遊水池造成及び高速道側道建設
④ 調査期間 平成15年3月4日～3月14日
⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを側道部分において、東北東-西南西方向に3本、遊水池部分において、南北方向に12本、東西方向に5本設定し、遺構確認面(ローム面)まで掘り下げた。
⑥ 調査結果 遺物、遺構なし。



7. 木戸海道Ⅱ遺跡

- ① 所在地 太田市藪塚町木戸海道他
- ② 調査面積 153m² (対象面積934m²)
- ③ 調査原因 賃貸住宅建設
- ④ 調査期間 平成15年10月8日～10月20日
- ⑤ 調査方法 開発対象地内に幅1mの試掘トレンチを南北方向に4本、東西方向に3本、拡張区(3か所)設定し、遺構確認面(ローム面)まで掘り下げた。
- ⑥ 調査結果 住居2軒(古墳時代、平安時代)、溝状遺構、井戸が確認された。(確認調査で終了) 詳細は第4章。



III ま と め

旧尾島町の調査

平成13年度から平成16年度に実施した試掘調査・確認調査は全部で16箇所である。この調査の内訳は、平成13年度が6箇所、平成14年度が1箇所、平成15年度が3箇所、平成16年度が6箇所を数える。このうち遺構が確認された遺跡は10箇所、さらにその中で確認調査だけで調査を終了したのが7箇所、発掘調査を実施した遺跡が3箇所であった。

亀岡軽浜遺跡

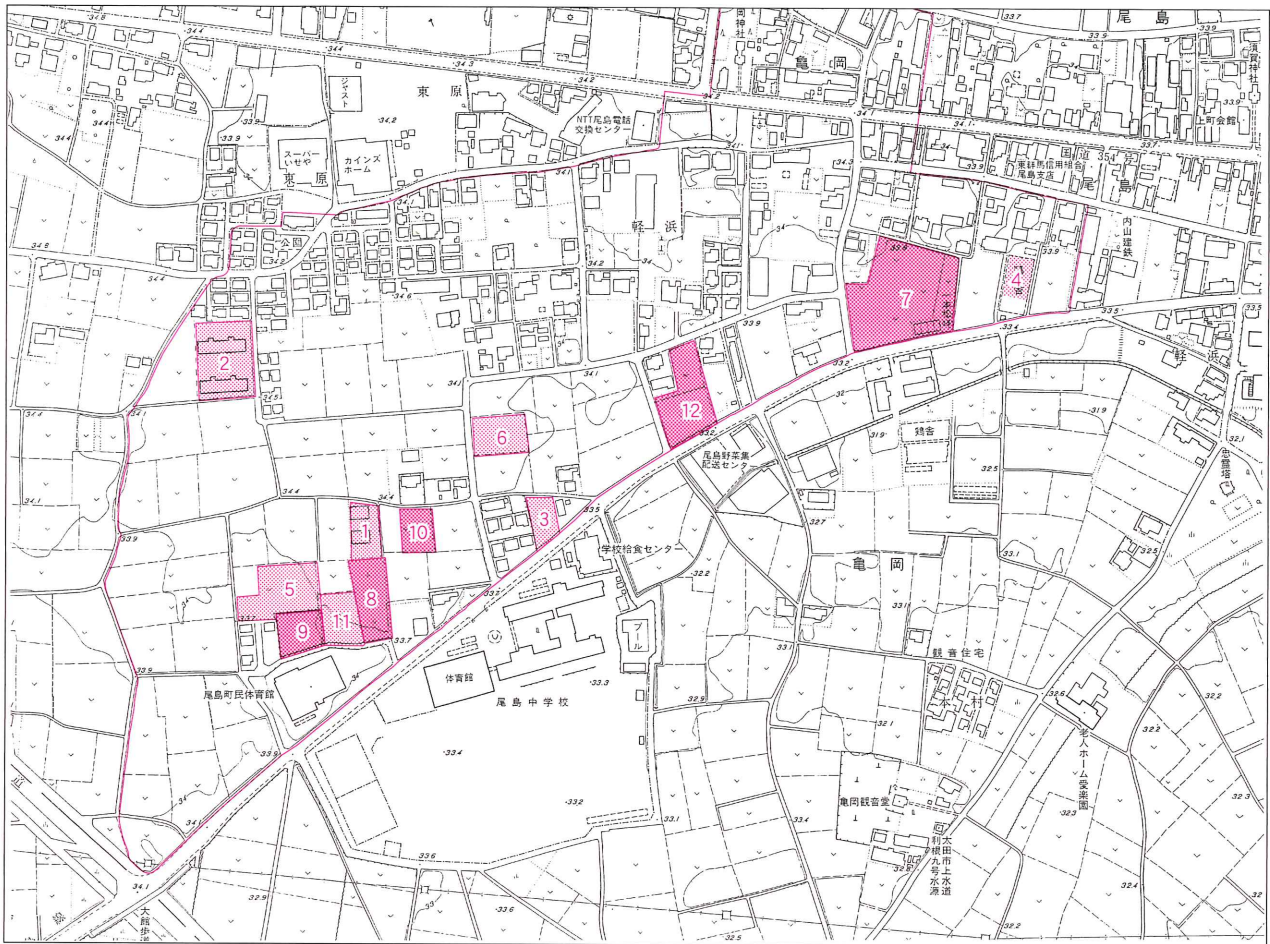
亀岡軽浜遺跡は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流(仮称F P泥流)によって、覆われていると推定される地域で、元々はF P泥流下遺跡群と捉えてきた地域である。遺跡の南側の県道平塚尾島線から南側は、約1mの比高差をもち低くなり、これは利根川の旧河道の跡と考えられる。過去において12回の試掘調査が行われている。遺構の検出されたのは、5回の試掘調査であった。確認された遺構は、古墳・住居跡・溝等であった。その他にいずれもF P泥流層が確認できたが、F P泥流に直接埋まった遺構の発見例は、平成12年度試掘調査(一覧表No.7・平成15年度に本調査)で検出された古墳に限られる。この古墳は5世紀後半の構築で、墳頂部は直径6m程の円形に削平されていたが、墳丘(残存高約80cm)や周溝は構築後約50年後に埋められた姿を良く留めていた。埋葬施設も盗掘を受けずに確認でき、竪穴系の埋葬施設から人骨2体が確認された。「安養寺森西・大館馬場・阿久津宮内遺跡」、「安養寺森ノ内遺跡」、「安養寺森南遺跡」等の発掘調査によって検出されたような畠跡は確認されてない。現在亀岡軽浜遺跡は、ほぼ平坦であるが、トレンチ内の深掘部分で、0.0～0.8mの厚さで確認でき、F P泥流によって覆われた6世紀中頃には、この地は平坦でなかったことがわかった。

世良田環濠集落

世良田環濠集落とは、中世世良田において、早川を西境とし、周囲約1km四方の堀に囲んだ遺構のことを言う。北は現在の世良田集落北限と一致し、世良田陣屋遺跡の調査によって、北東コーナー部分の堀を確認している。東は南下する「なめら堀」と考えられ、東流部分の早川と合流する。南側の堀は今井地区遺跡群の調査で確認されている。

環濠内で発掘調査した遺跡は、前述した世良田陣屋遺跡・今井地区遺跡群や中世世良田の中心的な位置に立地し、二町四方の規模を有し新田本宗家関連の新田館跡(総持寺)に係わる上新田遺跡・新田館跡や、徳川(新田)義季開基の長楽寺に係わる長楽寺遺跡がある。その他に世良田陣屋遺跡・上新田II遺跡・世良田館跡等が発掘調査されている。調査によって、掘立柱建物・竪穴状遺構・環濠内を区画する溝・井戸・地下式坑・土坑等の中世関連の遺構が検出されている。その他に中世に創建されたと考えられる総持寺(新田館跡)・八坂神社・清泉寺・長楽寺・普門寺など寺社が存在している。また、「長楽寺文書」等の文献から、世良田宿が成立していることや、四日市・六日市等の定期市が開かれていたことが確認できる。

また世良田環濠集落の外側であるが、世良田諏訪下遺跡の発掘調査で、^{ききとうぼ}笹塔婆等の木製品が大量に発見されたC-21号溝が注目される。溝の時期は、出土した陶磁器から14世紀前半に比定することができる。溝の大きさは、調査した範囲で全長253m、幅4～7m、深さ1.6～2.2mで、笹塔婆439点、木皿3点、板草履12点、曲物の底板などが出土している。溝の走行は東西方向で、東は石田川の氾濫原で確認できなくなり、西は世良田宿の中心部に延びている。溝は、走行などから西の早川を取水口として、世良田宿を通り、石田川に水を落とす1.8kmにわたる運河的な要素をもった溝である可能性が高い。



亀岡軽浜遺跡の調査地点図

亀岡軽浜遺跡調査地一覧表

	調査原因	調査年度	調査概要	費用負担	備考
1	集合住宅建設	平成4年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
2	マンション建設	平成4年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
3	土地分譲	平成7年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
4	共同住宅建設	平成9年度	遺構遺物なし	町 単	
5	土地分譲	平成10年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
6	土地分譲	平成11年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
⑦	大型店舗建設(後中止)	平成12年度	古墳1・溝1 F P 泥流	町 単	H15年度に一部本調査
⑧	土地分譲	平成12年度	住居3 F P 泥流	町 単	確認調査で終了
⑨	土地分譲	平成13年度	溝1 F P 泥流	国・県補助	確認調査で終了
⑩	土地分譲	平成13年度	住居3 F P 泥流	国・県補助	確認調査で終了
11	土地分譲	平成14年度	遺構遺物なし F P 泥流	町 単	
⑫	土地分譲	平成16年度	住居4 F P 泥流	国・県補助	確認調査で終了

※番号に○がついている調査地は遺構が確認された場所

東部地区遺跡群

東部地区遺跡群は、尾島東部土地区画整理事業の進捗状況に合わせて、道路・水路予定地内部分だけであるが、平成13年度から4年間で20,000㎡を対象に試掘調査を実施してきた。その結果として、2箇所で平安時代の住居跡が確認できた。一つは平成14年度に調査した岩松千歳1遺跡で、平安時代の住居跡7軒、土坑8基を調査している。平成16年度の試掘調査では、堀口駒形遺跡で平安時代の住居跡1軒を確認したが、攪乱が著しく本調査に至らなかった。遺跡全体に言えることであるが、この土地の名産である大和芋・牛蒡生産によるトレンチャー等による攪乱が著しく、遺構の確認が困難を極めることである。

もう一つ試掘調査の成果として、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流（仮称F P泥流）によって、覆われていることが確認できた。予想どおりのF P泥流の確認であるが、泥流下から住居跡や古墳・畠跡等の遺構は確認されていない。また、現在事業予定地は、ほぼ平坦であるが、トレンチ内の深堀部分の調査から、0.0～0.8mの厚さで確認でき、F P泥流によって覆われた6世紀中頃には、この地は平坦でなかったことがわかった。



13年 14年 15年 16年

東部地区遺跡群年度別調査地点図

長楽寺遺跡

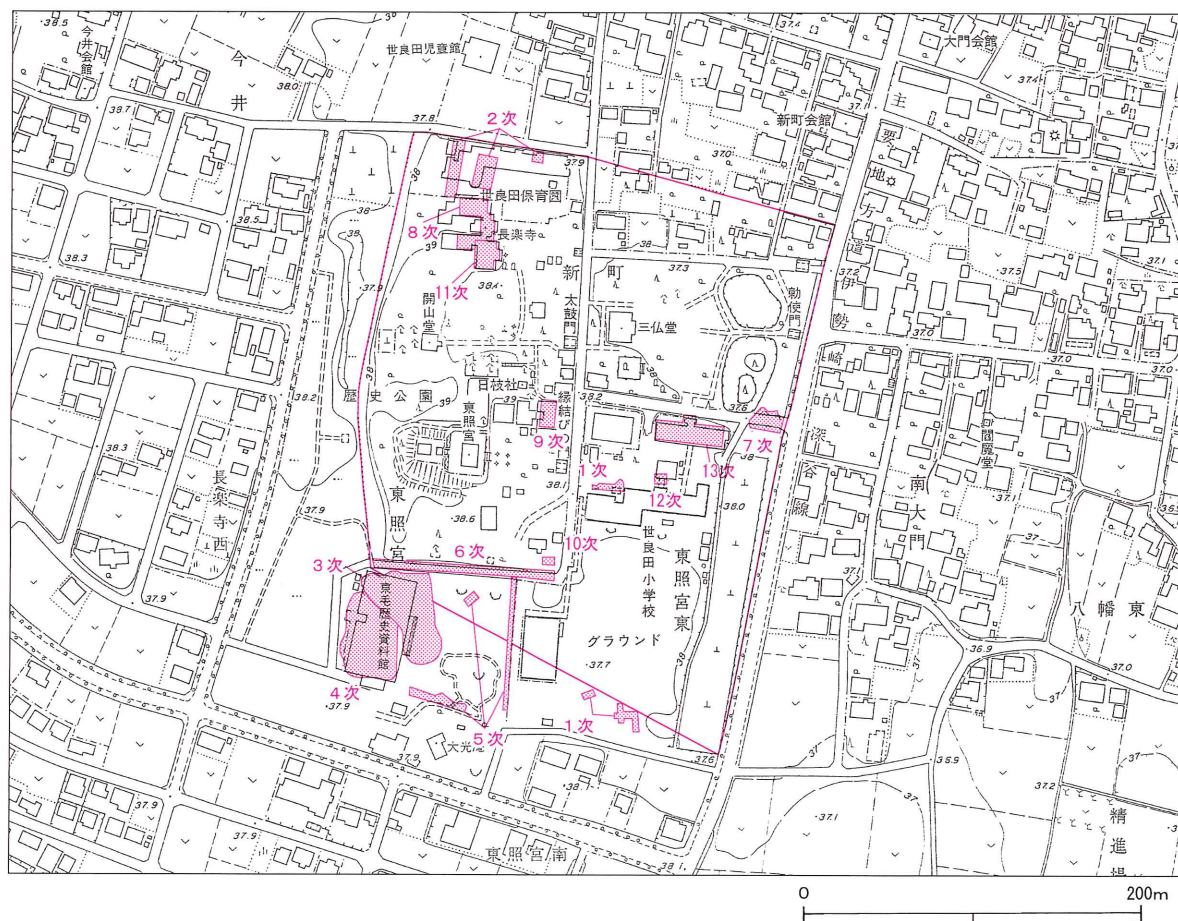
長楽寺遺跡の調査は、昭和12（1937）年9月に行われた^{ふこうあんあと}普光庵跡の発掘調査に遡ることができる。^{げつせんしん}月船^{かい}琛海の塔所（墓所）は、久しく不明であったが、落雷のよって枯れ死した老杉の根を掘った際、偶然に^{いしひつ}石櫃（縁に「月船」、^{ふたいし}蓋石の裏に「月船和尚」と陰刻）を発見した。第5世住職月船琛海の骨蔵器（遺骨）とその西側

長楽寺遺跡調査一覧表

No.	次数	調査原	調査年度	備考（主中・近世遺構）
1	1次	世良田小学校校舎改築工事	昭和51年度	基壇建物跡・井戸
2	2次	世良田保育園改築工事	昭和56年度	溝・土坑
3	3次	東毛歴史資料館建設工事	昭和57年度	南西コーナー及び南辺の堀
4	4次	東毛歴史資料館建設工事	昭和58年度	中世の竪穴状遺構・井戸
5	5次	東毛歴史資料館付帯工事	昭和59年度	南辺の堀
6	6次	今井土地区画整理事業	平成4年度	土橋を伴う溝
7	7次	今井土地区画整理事業	平成4年度	東辺の堀
8	8次	長楽寺庫裏改築工事	平成4年度	礎石建物跡・集石・土坑
9	9次	東照宮職舎建築工事	平成8年度	試掘調査（土坑）
10	10次	東照宮防火水槽建設工事	平成14年度	地下式坑・井戸
11	11次	長楽寺本堂建設工事	平成14年度	試掘調査（礎石建物）
12	12次	世良田小学校給食配膳室建設工事	平成15年度	竪穴状遺構・土坑
13	13次	世良田小学校北校舎建設工事	平成16年度	礎石建物跡・池跡・地下式坑



長楽寺遺跡3次掘検出状況（西から）



に6人の弟子の骨蔵器（遺骨）が並んで発見された。いわゆる禅宗僧侶の埋葬形式である「普同塔」（^{ふどうとう}共同埋葬）といわれるものであり、従来文献にのみ見えていたものを実証した貴重なものであった。群馬県師範学校（当時）の尾崎喜左雄氏と地元の金子規矩雄氏により記録化がなされた。

その後、長楽寺境内地や旧境内地において、昭和51年から13回の発掘調査が行われきた。第1次調査からは、中世に存在した真言院の付帯施設と考えられる基壇2基と井戸を検出した。井戸中より13～15世紀にわたる中世瓦・陶磁器類・茶臼等が多数出土している。第3次調査からは、中世期の外堀の南西コーナーから南辺部分（写真参照）が検出され、第7次調査から外堀の東辺部の堀の一部を検出している。また、東辺部の堀は、世良田小学校の東側墓地（土塁）の東側に昭和50年代まで残存していた。西辺の堀は、「長堀」とよばれ現在も土塁と堀の痕跡が現存し、北辺の堀は確認されていないが、台形状の二町四方の館跡状の遺構であると推定されている。

江戸時代になると、徳川家康が新田徳川氏の子孫と称したことにより、徳川義季を開基とした長楽寺は、江戸幕府の特別な庇護を受けた。それは1640年代から始まる境内地の整備で、日光からの東照宮の勧請や本地塔（現存せず）・三仏堂・太鼓門・勅使門の造営などが行われた。第6次調査で検出された土橋を伴う溝（堀）は、江戸時代の長楽寺境内を区画する南辺堀の可能性がある。長楽寺遺跡の大部分は、平成12年11月1日付けで、「新田荘遺跡」長楽寺境内・東照宮境内として、国指定史跡に指定された。

粕川新堀下遺跡

粕川新堀下遺跡は、6世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流（仮称F P泥流）によって、覆われていると推定される地域である。今回の調査（№9）では、確認面が砂層となり、F P泥流は確認できなかった。しかし、今回のように砂層という地盤の軟弱（住居の壁も崩れる）なところに、平安時代に集落を営むということは、当時の土地支配及び土地開発を考える上で、今後も疑問を残す課題と言えそうである。

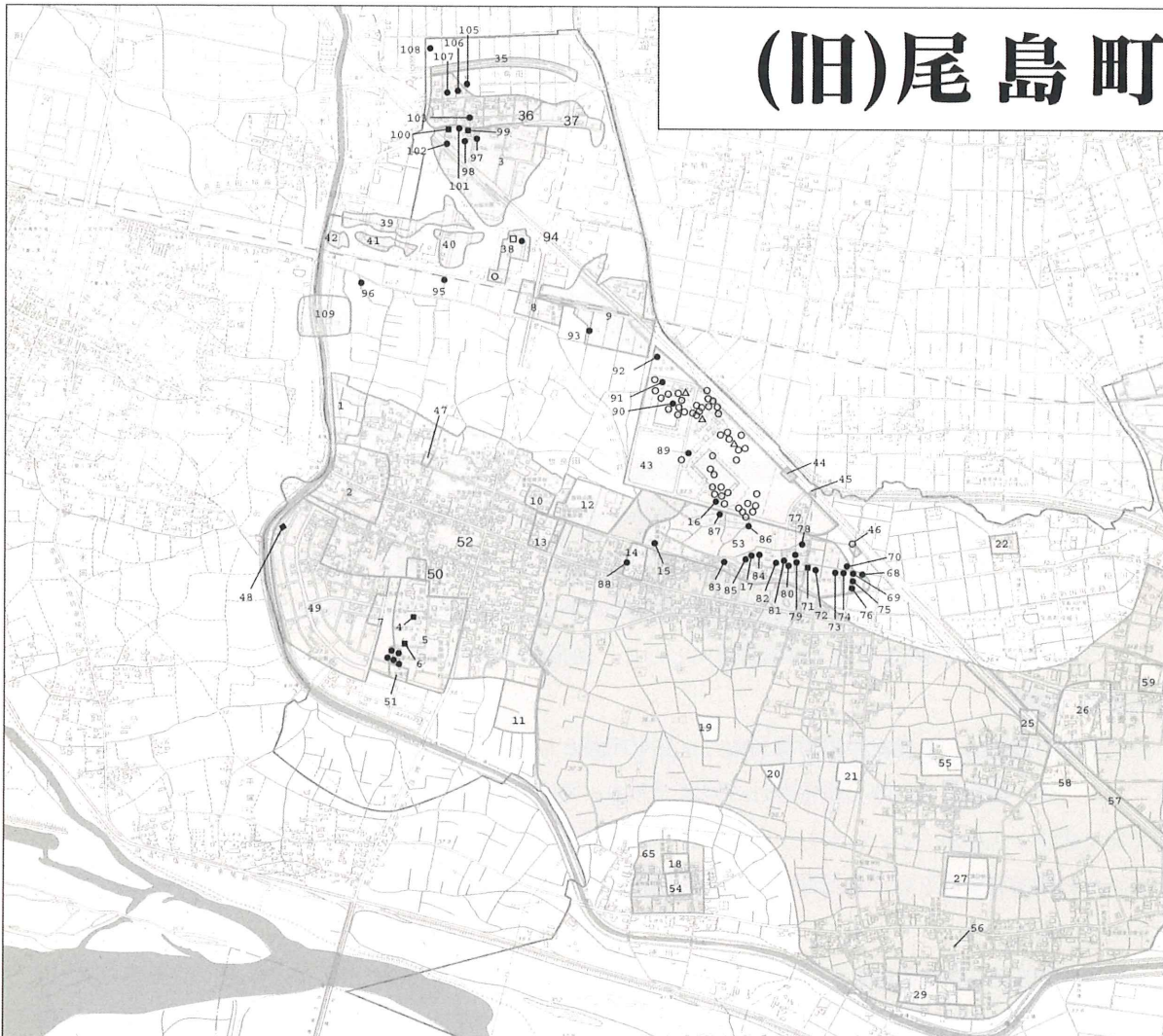
今回の調査地点の約400m西で、平成6年調査に調査した粕川新堀下遺跡では、古墳時代の住居跡36軒・土坑37軒、平安時代の住居跡6軒・掘立柱建物1棟・土坑4基・溝1条と弘仁9年（818）の地震に起因する洪水による泥流で埋没した畠跡等が検出されている。

粕川山之神遺跡

粕川山之神遺跡は、平成5年から平成7年にかけて、国道354号線バイパス改良工事に伴う発掘調査が行った。検出された主な遺構は、縄文時代後期の土坑4基、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期の住居跡51軒、中世から近世の掘立柱建物1棟・溝18条・井戸14基・土坑297基などである。縄文時代の遺構は、土坑4基のみであるが、そのうち3基は袋状土坑であり、縄文時代後期前半の堀之内式の深鉢が出土している。竪穴住居跡は検出されていないが、縄文時代後期を中心とした土器が多数出土していることから、粕川山之神遺跡内に集落が存在する可能性がある。弥生時代後期の竪穴住居跡は、長辺2.9m、短辺2.4mの長方形を呈する小型の住居で、中央やや東よりに地床炉がある。遺跡の検出例の少ない東毛地域では貴重な遺構である。また、民間開発に伴う小規模発掘調査を3箇所（平成4・6・9年）、尾島町教育委員会が行ない、主な遺構は、古墳時代後期の住居跡19軒、近世の溝4条・井戸1基・土坑4基を検出した。

遺跡地は、現在は幅400m程の平坦地であるが、発掘調査により埋没谷が2ヶ所発見され、古墳時代以前は三つの台地から成り立っていたことが判っている。今回の調査によって、東側の埋没谷の位置が、予想よりも東になることがわかった。

(旧)尾島町



遺跡一覧表

1 : 上杉田遺跡	38 : 越後遺跡	75 : 世良田村8号墳
2 : 新田遺跡	39 : 水久保遺跡	76 : 世良田村9号墳
3 : 小角田遺跡	40 : 水久保II遺跡	77 : 世良田村10号墳
4 : 文島山古墳(河川(長年累代の墓・世良田村25号墳))	41 : 水久保III遺跡	78 : 世良田村11号墳
5 : 長楽寺遺跡	42 : 水久保IV遺跡	79 : 世良田村12号墳
6 : 日光庵遺跡	43 : 世良田遺跡下遺跡	80 : 世良田村13号墳
7 : 世良田遺跡	44 : 世良田下江田前遺跡	81 : 世良田村14号墳
8 : 世良田土屋分遺跡	45 : 下江田前遺跡	82 : 世良田村15号墳
9 : 歌舞伎遺跡	46 : 柏川黒川遺跡	83 : 世良田村16号墳
10 : 岩松陣屋遺跡	47 : 上杉田II遺跡	84 : 世良田村18号墳
11 : 精進堀遺跡	48 : 今井遺跡	85 : 世良田村19号墳
12 : 宝積堀遺跡	49 : 寺井地区遺跡群	86 : 世良田村20号墳(御山)
13 : 船田遺跡(堀水堀跡)	50 : 世良田前遺跡	87 : 世良田村22号墳(御二しどみ山)
14 : 県No3560遺跡	51 : 東照宮前遺跡	88 : 世良田村24号墳(落首塚)
15 : 二休地蔵寺古墳(世良田村23号墳)	52 : 世良田遺跡集落	89 : 世良田村26号墳(稲荷山)
16 : しどみ山古墳(世良田村21号墳)	53 : 下黒川遺跡	90 : 世良田村27号墳(下ノ洞跡)
17 : 一本松塚古墳(世良田村17号墳)	54 : 鎌切寺満徳寺遺跡	91 : 世良田村28号墳(二子塚)
18 : 徳川館跡	55 : 安良寺西蔵立遺跡	92 : 世良田村29号墳(御稲荷山)
19 : 県No3565遺跡	56 : 津軽藩代官立氏の墓	93 : 世良田村30号墳(歌舞伎山)
20 : 県No3566遺跡	57 : 安良寺西蔵・大徳庵・阿久津宮内遺跡	94 : 世良田村31号墳(越後)
21 : 出陣大目付遺跡	58 : 安良寺南遺跡	95 : 世良田村32号墳(越後)
22 : 柏川本陣遺跡	59 : 安良寺南蔵立遺跡	96 : 世良田村33号墳(上ノ洞跡)
23 : 柏川山之陣遺跡	60 : 柏川黒川下遺跡	97 : 世良田村34号墳
24 : なた山遺跡	61 : 岩松本陣遺跡(岩松館跡)	98 : 世良田村35号墳
25 : 県No3571遺跡	62 : 岩松尚典夫妻の墓	99 : 世良田村36号墳
26 : 安良寺西蔵ノ内遺跡(安良寺館跡)	63 : 岩松千歳遺跡	100 : 世良田村37号墳
27 : 大徳庵跡	64 : 岩松千歳遺跡	101 : 世良田村38号墳
28 : 県No3574遺跡	65 : F P 池下遺跡群	102 : 世良田村39号墳
29 : 大徳庵堀遺跡	66 : 尾島町1号墳	103 : 世良田村40号墳
30 : 県No3576遺跡	67 : 尾島町2号墳	104 : 世良田村41号墳(所在地不明)
31 : 常木遺跡	68 : 世良田村1号墳	105 : 世良田村42号墳
32 : 県No3578遺跡	69 : 世良田村2号墳	106 : 世良田村43号墳
33 : 岩松館跡	70 : 世良田村3号墳	107 : 世良田村44号墳
34 : 堀口館跡	71 : 世良田村4号墳	108 : 世良田村45号墳(車山)
35 : 小角田遺跡群	72 : 世良田村5号墳	109 : 三蔵城跡
36 : 小角田古墳群	73 : 世良田村6号墳	110 : 岩松金剛寺西
37 : 小角田下遺跡	74 : 世良田村7号墳	

凡 例
1. 遺跡地図は、尾島町全図、縮尺1/10,900
を使用した。

□ ---- 遺跡
□ ---- 遺跡想定地

● ---- 上毛古墳経覧掲載 円墳
■ ---- 上毛古墳経覧掲載 前方後円墳
○ ---- 発掘調査 円墳
□ ---- 発掘調査 前方後円墳
△ ---- 発掘調査 帆立貝式古墳

遺跡地図



岩松千歳 2 遺跡

岩松千歳 2 遺跡は、6 世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流（仮称 F P 泥流）によって、覆われていると推定される地域で、元々は F P 泥流下遺跡群と捉えてきた地域である。試掘調査によって、F P 泥流層は確認できたが、F P 泥流直下から住居跡や古墳・畠跡等の遺構は確認されていない。今回の試掘調査によって、F P 泥流上層から平安時代から江戸時代の竪穴住居跡・井戸・溝・土坑等を確認できた。平成17年 2 月から12月まで本調査を行い、古墳時代の住居跡 1 軒、平安時代の住居跡73軒・溝 1 条、鎌倉時代～江戸時代の館跡区画溝 1 条・掘立柱建物 1 棟・竪穴状遺構11基・土坑470基・溝19条・井戸27基・地下式坑 2 基等を発掘調査した。

遺跡地の南東側は、約 1 m の比高差をもち低くなり、直径約 1 km の半円状の地割（この部分は押切町）になっており、これは利根川の旧河道の跡と考えられる。また北側は、岩松八幡宮との間に幅約20m、長さ200 m にわたる窪地（田圃）が存在し、これも旧河道の可能性はある。

近隣での発掘調査は、平成 3 年度に調査した岩松千歳遺跡で、岩松千歳 2 遺跡からは約150m北に位置し、岩松八幡宮南側のいぬま公園造成に伴う調査を行い、時期不明の土坑を検出している。また、平成14年度に東部地区遺跡群の中で調査した岩松千歳 1 遺跡で、岩松千歳 2 遺跡からは西に約400mに位置し、平安時代の住居跡 7 軒、土坑 8 基を検出している。

旧尾島町の遺跡地図

尾島町遺跡地図は、平成12年 3 月に尾島町教育委員会が刊行したものである。内容は、「群馬県遺跡台帳 I」（東毛編）1971群馬県教育委員会の内容をベースとし、「上毛古墳綜覧」1935群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第 5 輯、「群馬県の中世城館跡」1988群馬県教育委員会に記載された内容に加え、旧尾島町内での群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・尾島町教育委員会によって行なわれた試掘・本調査の結果の内容を加味して作成したものである。「群馬県文化財情報システム」Web 版（平成13年使用開始）の当初の内容と一致する。新遺跡地図は、新太田市として改定を加え、平成18年度に発行の予定である。

また、大きな特徴として、6 世紀中頃の榛名山二ツ岳を起源とした火砕流によって起こされた泥流によって、覆われていると推定される地域を遺跡想定地として捉え、「F P 泥流下遺跡群」としたところにある。

「F P 泥流」「Hr-FP泥流」とは、旧尾島町大字尾島・阿久津・岩松・堀口・亀岡・大館・安養寺・世良田・粕川・^{いでづか}出塚などから試掘・発掘調査等で確認される洪水堆積層である。「安養寺森西・大館馬場・阿久津宮内遺跡」（昭和60～63年度群馬県埋蔵文化財調査事業団）、「安養寺森ノ内遺跡」（平成 2・8 年度尾島町）、安養寺森南遺跡（平成 4 年度尾島町）などの発掘調査においては、この層直下から畠跡が検出されている。

「安養寺森ノ内遺跡」（Ⅱ次調査）においては、Hr-FP泥流の直下から畠跡が検出され、下部から浅間 C 軽石（As-C・4 世紀中葉）及び榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA・6 世紀初頭）が確認され、Hr-FP泥流上から奈良時代の住居跡、同土層断面から弘仁 9 年（818）の地震に伴うと考えられる噴砂が確認されている。その自然科学分析には、「6 世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）の堆積に伴って発生した洪水に由来している可能性がもっとも高いと推定される。」（『自然科学分析調査報告書』尾島町 安養寺森ノ内遺跡（株）古環境研究所）と報告されている。旧尾島町では、この洪水堆積層を「Hr-FP泥流」「F P 泥流」と仮称している。

F P 泥流に埋まった部分については、地表から窺い知れないため、F P 泥流下遺跡群と捕らえ、広範囲に網掛けし、随時確認を行っている。

旧藪塚本町の調査

旧藪塚本町において、町内遺跡発掘調査の対象となった遺跡は、過去3年間で8件であり、そのうち4件について遺構が確認されている。この地域の遺跡は、大間々扇状地という自然地形に大きく左右され、水が供給できる東側の低地を中心として分布している。今回調査対象となった申請地も開発行為に関係するため、低地よりも高台の開発が多く見られた。以下、調査した遺跡について簡単に触れてみたい。

つつじ山Ⅱ遺跡

つつじ山Ⅱ遺跡は八王子丘陵の尾根づたいに連なる傾斜地で、平坦部が比較的少ない地点である。今回の調査では、遺跡が所在する可能性はあったものの、縄文前期の住居跡が確認されるとは思っていなかった。このことは、藪塚本町で標高160m以上には遺跡がないと言われていた事実を覆すものであり、今後集落の立地を標高180m前後の地点にまで引き上げて考えなくてはならないという新たな認識を深める結果となった。遺物としては、土器片以外にはT1より川原石、T3中央南部からは「磨石」が検出され、これらが地山の層からは確認できない石であることから、この高所まで搬入されてきたことも確認できた。隣接する台山遺跡では旧石器時代の遺物も検出されていることから、旧石器時代も視野に入れて周辺の尾根上の地形に注目していきたい。また、この台山遺跡より西側に下りた低地においては、縄文時代後・晩期に最盛期を迎えた石之塔遺跡が所在することなどがあるため、縄文時代における北部地区周辺の自然環境についても検討していく必要性が示唆される。今回の調査結果を踏まえて、今後は尾根上に所在する集落の立地条件をよく検討しながら試掘調査を実施していきたい。

十輪寺跡遺跡

十輪寺跡遺跡は、江戸時代中期に創建された真言宗の寺として伝えられており、その略年表は半田氏によってまとめられている。これによると、十輪寺の創建時期は不明であるが以下にその略年表を記した。

十輪寺略年表

(作成：半田勝巳)

和 暦	西 暦	で き ご と
天仁元年	1108	(7月浅間山大噴火)
?		半田氏が十輪寺(真言宗)を建立と伝える
享保17	1732	十輪寺へ滝之入の田、七畝が寄進される(忽兵衛が証人) [滝之入今泉家文書]
寛保2	1742	十輪寺に光明真言塔が建立される
宝暦7	1757	4月宝篋印塔が建立される
天明2	1782	武左衛門(半田氏か?)が十輪寺に薬師如来像を寄進する [滝之入今泉家蔵『古跡鑑』]
(天明3)	1783	(7月浅間山大噴火)→飢饉が起こる
文化7	1810	武左衛門・小兵衛の両家が経済的に、十輪寺の修理が困難となったため杉塚の48人に寺の管理を譲る[長円寺文書]
文化14	1817	11月杉塚の愛宕神社が十輪寺境内に勧請される(火伏せの神)
天保14	1843	6月石尊大権現の石灯籠(元、丹波商店の道東にあったもの)が勧請される(雨乞いの神) 石工：信陽高遠・中山兼重
昭和25	1950	このころ十輪寺関係の建物がすべて壊され畑となる
昭和48 平成14	1973 2002	杉塚集荷所、建設 杉塚地区公民館建設により試掘(6/17～7/5)

これによると、享保17年ころは、新田荘遺跡の反町館跡に所在する照明寺が再建された時期と同じであり、古くより存在していた寺であったことが伺える。また、建築80年ほどにして修復するのが難しくなるほど老

朽化したと書かれているが、浅間の大噴火の影響があったのではないかと推察される。

萩林Ⅱ遺跡

萩林Ⅱ遺跡は、大間々扇状地上に位置する遺跡として、比較的水源より遠い場所に所在することから、その集落の水源について疑問がもたれる遺跡である。今回の申請地は、表面採集によっても遺物が多数見つかる所であり、住居跡も3軒ほど確認されている。また、目立つた遺物としては鉄製品、鉄屑、瓦塔片（前年度に表面採集で確認）などが挙げられる。集落としては、南側に近接する台之原廃寺との関連が強く感じられることから、今後は、寺院跡との関連に留意していきたい。南側に位置する木戸街道遺跡も同じような性格の集落であると考えられるため、扇状地上での生活形態や集落の正確な広がりを考慮しながら今後の調査に反映していきたい。

木戸海道Ⅱ遺跡

木戸街道Ⅱ遺跡は、前述の萩林遺跡と同様に扇状地上に造られた集落であるが、萩林よりは水源に近い位置にある。周辺の調査では、古墳・平安時代の遺物に加え、縄文時代の遺物も確認されていたが、今回の調査では確認できなかった。遺跡の立地は扇状地上ではあるが、今回の調査では井戸の跡も確認されているため、扇状地下の土層構造にはうねりがあり、その水脈は単純には把握できないものと思われる。今後地形的な構造についても考慮しながら試掘調査を実施していくことが望まれる。

〈参考文献〉

- 大江正行 「長楽寺遺跡」1978 尾島町教育委員会
西田健彦 「長楽寺遺跡」1984 尾島町教育委員会
沢口宏ほか 「尾島町誌」通史編 尾島町誌専門委員会 1993 尾島町
須永光一 「粕川山之神遺跡」第5集 1993 尾島町教育委員会
新井喜昭 「長楽寺遺跡」第6集 1993 尾島町教育委員会
飯田陽一 「安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡」 1995（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
須永光一 「粕川山之神遺跡Ⅱ」第8集 1995 尾島町教育委員会
須永光一 「新田館跡」第12集 1997 尾島町教育委員会
三浦京子 「世良田諏訪下遺跡」第13集 1998 尾島町教育委員会
新井喜昭 「粕川山之神遺跡Ⅲ」第14集 1998 尾島町教育委員会
新井喜昭・三浦京子 「粕川新堀下遺跡」第15集 2000 尾島町教育委員会
須永光一 「安養寺館跡」第17集 2004 尾島町教育委員会
峰岸純夫・能登健編 「よみがえる中世5」―浅間火山灰と中世の東国― 1989 平凡社
増田 修 「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡発掘調査報告書」1988 東京電力株式会社
本間紀男 「新田荘『尾島町の仏像』」尾島町の仏像・神像調査報告書 2004 尾島町教育委員会
半田勝巳 「薬師前遺跡」 藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集1982 藪塚本町教育委員会
半田勝巳 「元屋敷遺跡」藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 1983 藪塚本町教育委員会
半田勝巳 「向山古墳」藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 1983 藪塚本町教育委員会
半田勝巳 「滝之入前遺跡」藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 1985 藪塚本町教育委員会
半田勝巳 「台之原廃寺跡」藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 1985 藪塚本町教育委員会
半田勝巳 「台之原廃寺跡Ⅱ」藪塚本町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 1986 藪塚本町教育委員会
小菅将夫・小杉 康 「藪塚遺跡台山地点」発掘調査報告書 1990。

お わ り に

今回の報告では、旧尾島町の4か年分の調査地点16箇所、旧藪塚本町の3か年分の調査地点8箇所についての調査報告を行ったが、このうち遺構が確認された遺跡は11箇所に及んだ。

旧尾島町では、亀岡軽浜遺跡が3箇所ほど調査されていたため今までの調査地点も踏まえて、この遺跡地内についての調査状況をまとめることができた。広範囲にわたり4年間実施されてきた区画整理地内の調査範囲と遺跡の分布状況についても一応のまとめをみることができ、18年度以降の試掘調査への予想をたてる成果となった。長楽寺については、国の史跡地として長年にわたり調査が行われてきた。今回調査した地点とともにその全体像を概観することで現時点での問題点や課題について言及することができた。このように地点ごとの調査では、判明しない事柄も数を重ねることで全体像が見えてくる。このことが試掘調査の大きな成果と考えられる。

旧藪塚本町地内では、長らく実施されていなかった試掘調査を開始したことが、この地域の遺跡の把握に大きな成果をもたらしたといえる。特に丘陵部という厳しい自然地形に対し、標高で20m近くも高い地点で確認されたつつじ山Ⅱ遺跡の調査は、八王子丘陵に所在する遺跡のあり方について新たな認識を示唆する結果となった。また、大間々扇状地の東端部の遺跡が次々と調査され、これらの集落の存在についても、扇状地上での集落形成について、水源との関連を考える大きな課題が示されたこととなった。藪塚本町地区は、他の地区と比較するとまだまだ開発の進行度は遅いようであり、調査地点も数少ない地区といえる。水田地内に石之塔遺跡のような後・晩期の遺跡が所在する事や東側丘陵部の古墳群の形成状況等、この地域内の遺跡の規模や性格を正確に把握していく上では、まだまだ試掘調査等の成果がのぞまれるところである。今後の調査に期待したい。

最後に調査に際してご協力いただいた事業主の方々、ならびに寒暖の中で発掘調査に従事された方々に深く感謝の意を表したい。

報告書抄録

フリガナ	オオタシナイイセキイチ
書名	太田市内遺跡 1
副書名	旧尾島町・旧藪塚本町の平成13～16年度調査
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ巻名	市内遺跡
編集著者名	小宮豪、須永光一
編集機関	太田市教育委員会
編集機関所在地	〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL 0276-20-7090
発行年	平成18年 3 月15日
所収遺跡	岩松千歳遺跡ほか市内の遺跡23箇所

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
亀岡軽浜	集落	平安	溝	なし	東部地区遺跡群
亀岡軽浜	集落	古墳	住居		
岩松千歳 1	集落	平安	住居, 土坑	土師器	
粕川新堀下	集落	平安	住居, 溝		
長楽寺	寺院	中世	竪穴状遺構、土坑	かわらけ、茶臼等	世良田八坂遺跡
粕川山之神	集落	不明	井戸		
世良田環濠集落	集落		溝、土坑		
亀岡軽浜	集落	平安 ?	住居, 土坑		
岩松千歳 2	集落	古墳～中近世	住居, 土坑	土師器、須恵器	
つつじ山 II	集落	縄文	なし	縄文式土器（前期）	
萩林 II	集落	平安	住居, 溝	土師器	
十輪寺跡	集落	平安	掘立柱建物跡	なし	
木戸街道 II	集落	古墳	住居、井戸	土師器	

太田市内遺跡 1

平成18年 3 月10日 印刷

平成18年 3 月15日 発行

編集・発行 群馬県太田市教育委員会

群馬県太田市粕川町520

電話 0276-20-7090

印刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67
